

# 年報

2023



独立行政法人 地域医療機能推進機構  
東京山手メディカルセンター

**独立行政法人 地域医療機能推進機構  
東京山手メディカルセンター年報 2023**

TOKYO YAMATE MEDICAL CENTER

**ANNUAL REPORT 2023**

## 2023 年度年報発刊の御挨拶

JCHO 東京山手メディカルセンター 院長 矢野 哲

2023 年度の JCHO 東京山手メディカルセンターの年報をお届けします。私は 2018 年 4 月 1 日付けで病院長職を拝命致しました。今回が、年報での 6 回目の御挨拶となります。これまで当院は東京都区西部二次医療圏（新宿区・中野区・杉並区）の地域急性期病院として最善の医療の提供に邁進してきました。2023 年度は、2019 年度末から始まり世界中を翻弄した COVID-19 が次第に鎮静化していく過程にあったと考えられます。COVID-19 が 5 類感染症になった 2023 年 5 月 8 日をもって、COVID-19 専用病棟は通常病棟に戻しました。2021 年 2 月から JCHO・NHO の先行接種病院において新型コロナウイルスワクチンの接種が始まっていましたが、2023 年 6 月には高齢者を中心に 6 回目の接種が施行されました。今後も高齢者への定期的ワクチン接種を進めて COVID-19 と対峙しつつ、本来業務を全うしたいと考えております。

さて、2023 年度は、当院が 2014 年 4 月に独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO) の一員となって 10 年目を迎えた年度でした。当院は国内最大級の炎症性腸疾患センターと大腸肛門病センターを擁し特徴的な医療を展開していますが、2021 年度からはリウマチ膠原病科と集中治療科を、2022 年度からは整形外科の 1 部門として手外科を新設し、さらに歯科を歯科・口腔外科に名称変更し標榜診療科をこれまで以上に整備しました。新しい体制で地域医療・在宅医療に携わる先生方と共に未来志向の地域包括ケアシステムを構築して参る所存です。今後とも倍旧の御支援・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

# 理念と基本方針

## 理 念

専門職としての「技」と「心」を磨き最善の医療を継続的に提供していくことにより、地域の中核病院として社会に貢献します。

## 基 本 方 針

1. 良質な医療と健診を提供します。
2. 医療連携を推進し、未来志向の地域包括ケアシステムを構築します。
3. 患者の皆様の満足度の向上を図ります。
4. 医療安全に積極的に取り組めます。
5. 優良な医療者の育成と全職員の健康推進に取り組めます。

東京山手メディカルセンター院長  
令和6年7月31日改訂

# 目

# 次

## ■現況

- ・東京山手メディカルセンター組織体制図 … 4
- ・委員会と委員名簿 … 6
- ・委員会活動報告 … 10

## ■病院統計 … 23

## ■各部門の実績と目標

- ・総合内科 … 31
- ・救急科・総合診療科 … 32
- ・消化器内科（消化管・胆膵） … 33
- ・内視鏡センター … 34
- ・肝臓内科 … 35
- ・炎症性腸疾患内科（炎症性腸疾患センター） … 36
- ・呼吸器内科 … 37
- ・血液内科 … 38
- ・腎臓内科（透析科） … 39
- ・透析センター … 40
- ・循環器内科 … 41
- ・糖尿病・内分泌科 … 42
- ・リウマチ・膠原病科 … 43
- ・消化器外科（食道胃外科・肝胆膵外科） … 44
- ・乳腺外科 … 45
- ・心臓血管外科 … 46
- ・呼吸器外科 … 47
- ・大腸肛門外科（大腸肛門病センター） … 48
- ・脳神経外科 … 49
- ・整形外科 … 50
- ・脊椎脊髄外科 … 51
- ・形成外科 … 52
- ・心臓病センター … 53
- ・産婦人科 … 54
- ・泌尿器科 … 55
- ・皮膚科 … 56
- ・小児科 … 57
- ・耳鼻咽喉科 … 58
- ・眼科 … 59
- ・放射線科 … 60
- ・麻酔科 … 61
- ・歯科・口腔外科 … 62
- ・メンタルヘルス科 … 63

- ・緩和ケア科 … 64
- ・病理診断科 … 65
- ・健康管理センター … 66
- ・リハビリテーション科 … 67
- ・臨床検査部門 … 68
- ・放射線部門 … 69
- ・臨床工学部門 … 70
- ・栄養管理室 … 71
- ・薬剤部 … 72
- ・看護部 … 73
- 病棟部門
  - ・5 西病棟 … 74
  - ・6 東病棟 … 74
  - ・6 西病棟 … 75
  - ・7 東病棟 … 75
  - ・7 西病棟 … 76
  - ・8 東病棟 … 76
  - ・8 西病棟 … 77
  - ・ICU・CCU 病棟 … 77
- 中央手術部 … 78
- 健康管理センター … 78
- 透析センター … 79
- 外来 … 79
- 救急科・中央材料室 … 80
- ・事務部 … 81
- 総務企画課 … 82
- 経理課 … 83
- 医事課 … 84
- 健康管理センター事務部 … 85
- ・情報管理室 … 86
- ・総合医療相談センター … 87
- ・ソーシャルワーク室 … 88
- ・医療安全推進室 … 89
- ・診療録管理室 … 91
- ・医師事務作業補助室 … 92

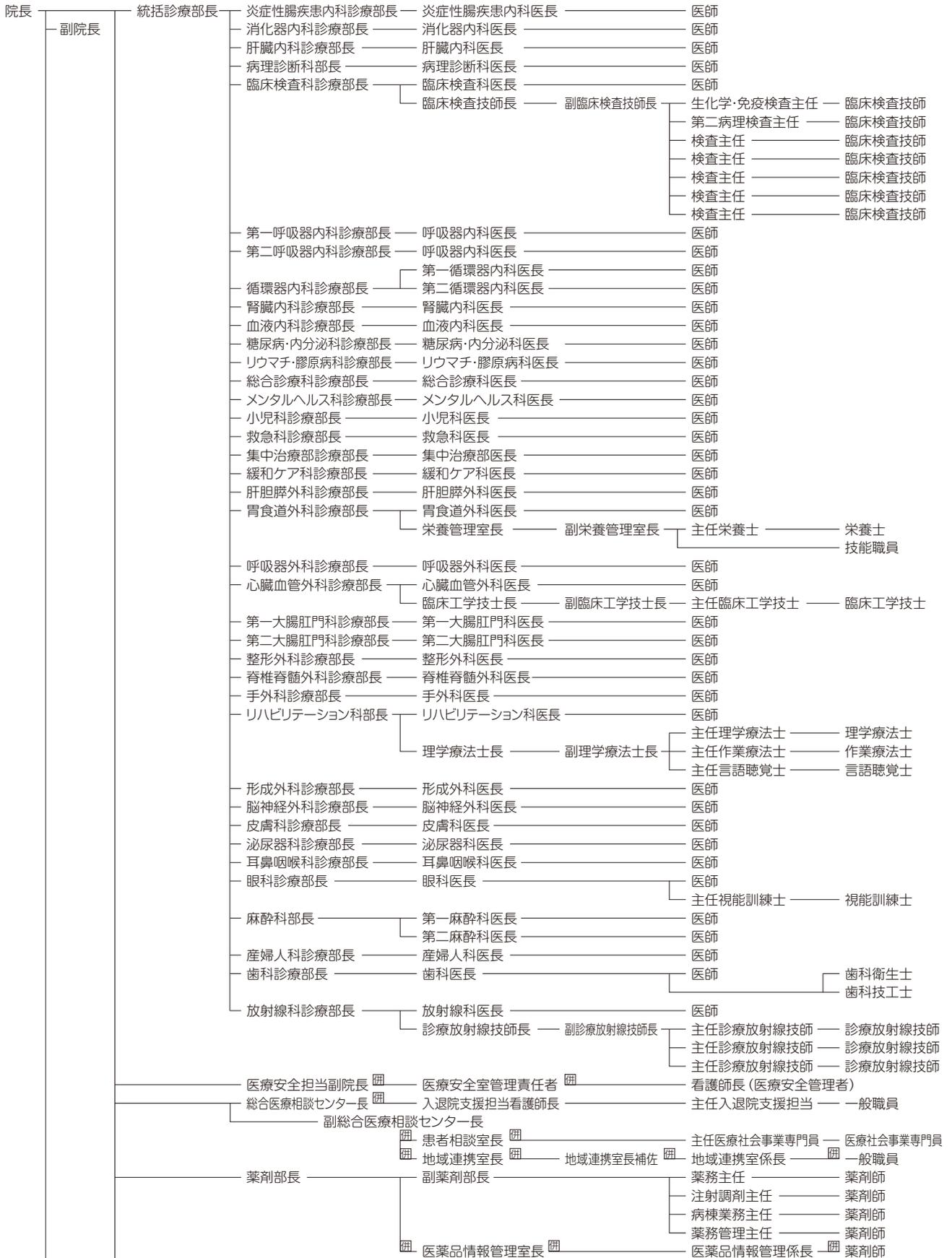
## ■ボランティア活動報告（2023年度） … 94

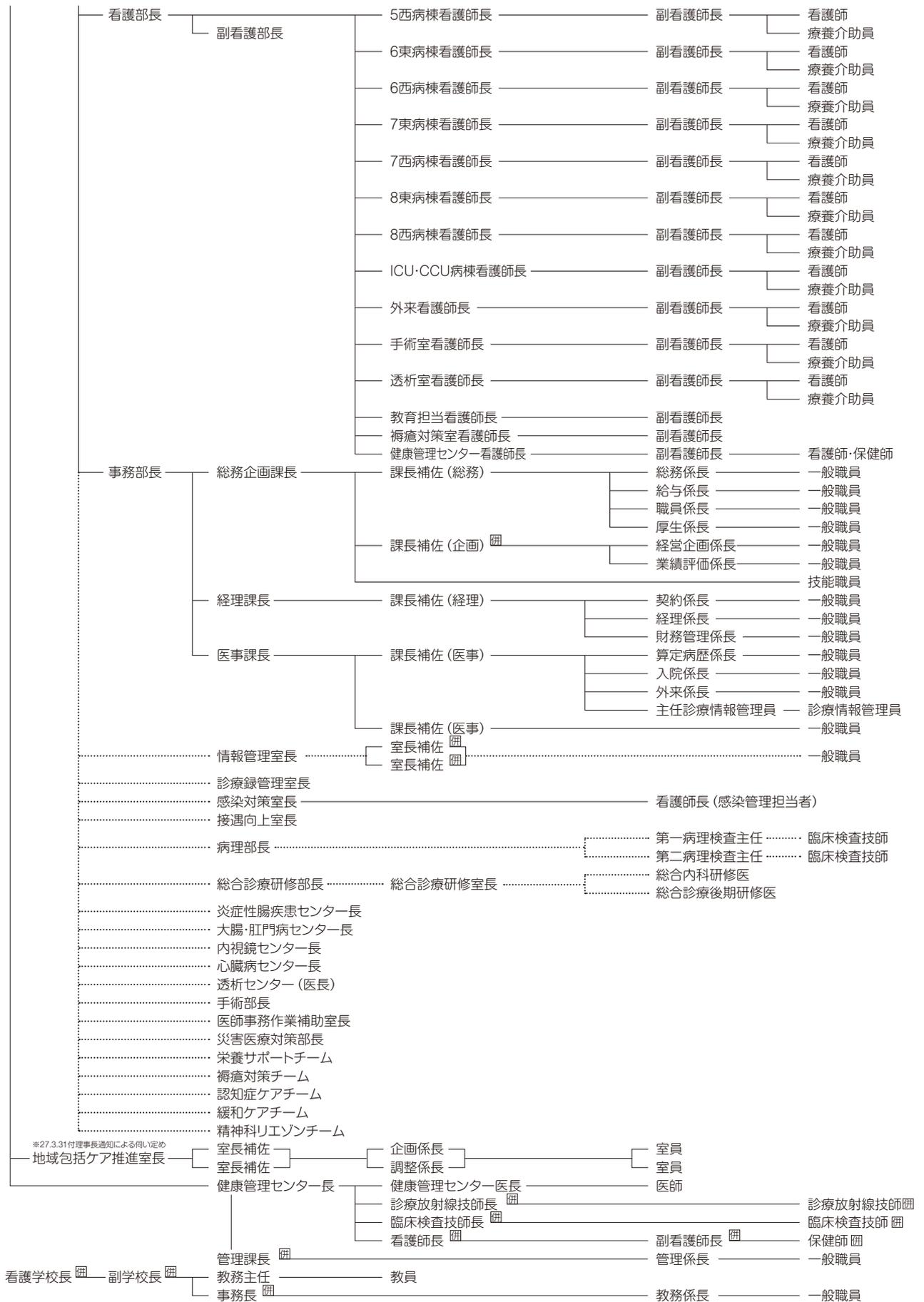
## ■教育研修会の実績と評価 … 96

## ■学術業績集（2023年4月～2024年3月） … 98

# 現 況

# 東京山手メディカルセンター組織体制図





# 委員会と委員名簿

委員会名	委員長	副委員長	委員氏名
経営改善検討委員会	矢野 哲 (月1回月曜日) 17:00～	大竹 秀樹	小林 浩一、橋本 政典、山名 哲郎、高澤 賢次、笠井 昭吾 深田 雅之、薄井 宙男、大河内康実、田代 俊之、齋藤 聡 久保田啓介、三浦 英明、野村 仁美、山田 陽子、新井 美和 井出 泰男、高倉 徹也、栗田千恵美、一条ふくこ、遠藤さゆり 清水 隆裕、池田 大士、渡邊 智幸、金子 強、池田 光宏
棚卸実施委員会	矢野 哲 (3月)	大竹 秀樹	野村 仁美、高倉 徹也、栗田千恵美、遠藤さゆり、一条ふくこ 井出 泰男、小川 潤子、清水 隆裕、池田 大士、橋本 拓也
医療機器整備委員会	橋本 政典 (不定期開催)	矢野 哲	小林 浩一、山名 哲郎、高澤 賢次、鳥居 秀嗣、薄井 宙男 赤澤 年正、野村 仁美、井出 泰男、高倉 徹也、栗田千恵美 遠藤さゆり、一条ふくこ、中井 歩、大竹 秀樹、池田 大士 渡邊 智幸、橋本 拓也
安全衛生委員会 ○○○	橋本 政典 (第3水曜日) 16:00～	薄井 宙男	矢野 哲、野本 宏、中野 雅昭、大竹 秀樹、野村 仁美 櫻井 順子、高橋 理子、近藤 洋子、三吉 明、金子 強
医療従事者の負担軽減・ 処遇改善検討委員会	橋本 政典 (第3火曜日) 16:45～	高澤 賢次	山名 哲郎、三浦 英明、山下 滋雄、中野 雅昭、田代 俊之 水谷 栄基、野村 仁美、山田 陽子、井出 泰男、栗田千恵美 高倉 徹也、遠藤さゆり、一条ふくこ、渡邊 智幸、清水 隆裕
医師事務作業補助者 業務検討委員会	高澤 賢次 (第1月曜日) 16:00～	深田 雅之	矢野 哲、田代 俊之、金子 駿太、藤本 崇司、山田 陽子 田邊 智春、渡邊 智幸、金子 強、笠井 知美、鶴山 静香 クリエイト (佐々木、秋山 or 加藤)
保険委員会	高澤 賢次 (第3月曜日) 16:30～	三浦 英明	矢野 哲、深田 雅之、山下 滋雄、大城 泰平、吉川 俊治 伊地知正賢、熊野 洋、金子 駿太、中林 正雄、山田 陽子 本田 範子、井出 泰男、桜庭 尚哉、渡邊 智幸、中村 芳夫 井戸上忠弘、峯 初枝、米岡扶美子
DPC コーディング 委員会	高澤 賢次 (第3月曜日) 保険委員会前	三浦 英明	矢野 哲、深田 雅之、大城 泰平、吉川 俊治、伊地知正賢 熊野 洋、金子 駿太、丸山麻梨恵、山田 陽子、本田 範子 井出 泰男、桜庭 尚哉、渡邊 智幸、中村 芳夫、井戸上忠弘 前田 照美、柴田 純子
診療録等管理委員会	高澤 賢次 (第3火曜日) 16:15～		矢野 哲、渡部 真吾、柴崎 正幸、野村生起子、津野 桃子 関 将行、神山 和明、鈴木 智子、前田 照美、吉川 尚吾 田中 一江
施設整備・ エネルギー管理委員会	高澤 賢次 (管理診療会議 前の月曜日) 16:00～	橋本 政典	矢野 哲、小林 浩一、山名 哲郎、井出 泰男、新井 美和 森 芙美子、神部 拓人、板谷 祥子、遠藤さゆり、大竹 秀樹 清水 隆裕、池田 大士、橋本 拓也、望月 貴久、金沢美弥子 原島 恭子、先 徹
健康管理センター 運営委員会	高澤 賢次 (第3木曜日) 16:15～		矢野 哲、橋本 政典、三浦 英明、山下 滋雄、齋藤 聡 鈴木 淳司、鈴木 篤、遠藤 陽子、佐々木 巴、山田 陽子 皆藤 美絵、高倉 徹也、栗田千恵美、川俣 理恵、石倉 友夢 大竹 秀樹、渡邊 智幸、関本 敬一、海老原優菜
委託費削減検討委員会	橋本 政典	大竹 秀樹	矢野 哲、高澤 賢次、野村 仁美、清水 隆裕、池田 大士 渡邊 智幸、関本 敬一、金子 強、橋本 拓也
病院・職員寮 改修委員会	高澤 賢次	大竹 秀樹 野村 仁美	矢野 哲、橋本 政典、山田 陽子、清水 隆裕、金子 強 望月 貴久
放射線治療棟建設・ 治療機器選定委員会	山名 哲郎	牟田 信春	橋本 政典、高澤 賢次、竹下 浩二、大河内康実、伊地知正賢 大野 博康、橋本 耕一、加藤 司顕、水谷 栄基、大竹 秀樹 渡邊 智幸、清水 隆裕、池田 大士、山田 陽子、山本 進治 町田 弘之
看護学校校舎再利用計画 委員会 (R6.4 立ち上げ)	高澤 賢次	野村 仁美	
薬事・治験審査・ 委託研究審査委員会 ○	小林 浩一 (第1木曜日) 16:45～		木下正一郎(学識経験者)、高澤 賢次、鳥居 秀嗣、深田 雅之 杉山めぐみ、井出 泰男、高橋 理子、大竹 秀樹、池田 大士 井戸上忠弘、佐藤 弘明
医療ガス 安全管理委員会 ○○○	小林 浩一 (年1回)		金谷 佳織、赤澤 年正、矢内 敏道、井出 泰男、大塚 隆浩 大竹 秀樹、清水 隆裕、池田 大士、望月 貴久、先 徹
放射線障害防止 専門委員会 ○○○	竹下 浩二 (毎年11月)	高倉 徹也	小林 浩一、秋山友里江、山本 進治、多々良直矢、神山 和明 深田 直樹、佐藤 弘明
医療放射線管理委員会 ○○○	竹下 浩二 (年1回)	高倉 徹也	小林 浩一、齋藤 聡、吉川 俊治、山本 進治、神山 和明 多々良直矢、深田 直樹、秋山友里江、勢田 徹也

委員会名	委員長	副委員長	委員氏名
中央検査部門 運営委員会 ○○	三浦 英明 (奇数月の第3 水曜日) 16:45～	栗田千恵美	小林 浩一、伊地知正賢、遠藤 陽子、栗田千恵美、鈴木 智子 桜庭 尚哉、布施屋芳恵、多田 由紀、井戸上忠弘、村山 遥 吉田いづみ
輸血療法委員会 ○○	米野由希子 (奇数月の第3 金曜日) 16:45～		小林 浩一、高澤 賢次、田中 哲平、吉村部長後任者(選任中) 岡本 欣也、牧瀬 杏子、小林 宏美、阿部みどり、中村 淳子 栗田千恵美、藤崎 香代、古賀 智彦、海老原優菜
化学療法委員会・ レジメン委員会	米野由希子 (第2金曜日) 16:45～	鳥居 秀嗣	小林 浩一、久保田啓介、大河内康実、橋本 耕一、岩本 志穂 古川 聡美、大久保彩子、森本 寛子、千代森有利恵、中村 矩子 菊池 浩二、上田みゆき、猿田 淑美、池田 光宏、前田 照美
医療の質改善委員会 △	小林 浩一		高澤 賢次、伊地知正賢、野村 仁美、大河原知子、井出 泰男 高倉 徹也、栗田千恵美、遠藤さゆり、一条ふくこ、中井 歩 清水 隆裕、渡邊 智幸、金子 強
特定行為活用推進委員会・ 特定行為管理研修委員会	山下 滋雄 (第1月曜日) 16:45～	新井 美和	小林 浩一、鳥居 秀嗣、日下 浩二、野村 仁美、山田 陽子 多田 由紀、井出 泰男、大竹 秀樹、勢田 徹也
DMST 委員会	山下 滋雄 (第4月曜日) 16:45～	多田 由紀	小林 浩一、中野 雅昭、菱沼 敦、田中真由子、石田早登美 佐藤 会連、石倉 友夢、遠藤 隆史、内田 恵
診療倫理委員会	小林 浩一 (不定期) △		木下正一郎(学識経験者)、玉木 毅(学識経験者) 鳥居 秀嗣、橋本 耕一、野村 仁美、山田 陽子、大竹 秀樹 清水 隆裕、渡邊 智幸、望月 貴久、杉山めぐみ
褥瘡対策委員会 ○○	鳥居 秀嗣 (第3木曜日) 16:30～	土橋 花恵	小林 浩一、渡邊 陽香、積 美保子、原田 直輝、長谷川卓哉 児玉 耐里、永崎 純、奥村真美子、高藤 綾香、峯 初枝
リハビリテーション部門 運営委員会	飯島 卓夫 (4・7・10・1月 の第1金曜日) 17:00～	熊野 洋	小林 浩一、田代 俊之、大野 博康、長島 哲理、村上 輔 田中 哲平、青木 竜太、一条ふくこ、遠藤 隆史、中嶋 裕介 渡邊 智幸
臨床工学部門 運営委員会	高澤 賢次 (第2木曜日) 16:00～	中井 歩	小林 浩一、薄井 宙男、鈴木 淳司、白山佐江子、渡邊 研人 飯沼由美子、狩野 秀貴、小山久美子
透析機器等管理部会	鈴木 淳司 (不定期)		杉山めぐみ、中井 歩、御厨 翔太、富樫 紀季、丸山 航平
図書委員会	金子 駿太		小林 浩一、薄井 宙男、田中 哲平、笠井 昭吾、阿部 佳子 平井 元子、菊池 浩二、劔 寛範、中村 淳子、佐藤 弘明 宮本佳代子
教育・研修委員会 △	中野 雅昭 (第1木曜日) 16:00～	大河内康実	矢野 哲、小林 浩一、飯島 卓夫、渡邊 智幸、多々良直矢 新井 美和、中原 智美、伊藤華名子、猿田 淑美、鈴木 典子 池田 光宏、木村 太祐、小松 郁子
虐待対策委員会	小林 浩一 (年2回)		三浦 英明、大野 博康、熊田 篤、橋本 耕一、野本 宏 笠井 昭吾、新井 美和、永井さくら、伊藤 恵、田邊 智春 渡邊 智幸、柳田 千尋、吉田いづみ
外来診療運営委員会	橋本 政典 (第2水曜日) 16:30～	山名 哲郎	矢野 哲、三浦 英明、中野 雅昭、田代 俊之、水野 智仁 田邊 智春、伊藤 恵、多田 由紀、安西亜由子、古賀 智彦 神部 拓人、高橋 理子、渡邊 智幸、吉田いづみ、金沢美弥子、 寺山 瑞紀、鶴山 静香、クリエイト：加藤・秋山
入院診療運営委員会	橋本 政典 (管理診療会議 の前週の水曜) 16:45～	伊藤 恵	矢野 哲、恵木 康壮、橋本 耕一、久保田啓介、田代 俊之 三浦 英明、野村 仁美、山田 陽子、野村生起子、本田 範子 坂倉 裕佳、岡 翔太、菱沼 好市、遠藤さゆり、柳田 千尋 池田 光宏、米岡扶実子
認知症ケア・ リエゾン推進委員会	野本 宏 (第1水曜日) 16:45～	平井 元子	橋本 政典、伊藤華名子、柳澤 敏江、藤崎 香代、小野 佳弘 田邊 満里、齋藤 舞、園田 恭子、田中 一江
緩和ケア運営委員会	森田理一郎 (第2木曜日) 16:00～	野本 宏	橋本 政典、鈴木 淳司、山本 沙希、猿田 淑美、土橋 花恵 高橋 愛子、中村 矩子、園田 恭子、田中 一江、森本 寛子
入退院支援推進委員会	橋本 政典 (第3金曜日) 16:15～	伊藤 恵	矢野 哲、高澤 賢次、山名 哲郎、伊地知正賢、中野 雅昭 三浦 英明、中村里依太、高松 美枝、秋山友里江、井出 泰男 栗田千恵美、遠藤さゆり、柳田 千尋、渡邊 智幸、加藤 沙希 吉田いづみ、桶谷 有希
契約審査委員会	橋本 政典 (最終月曜日) 11:00～	清水 隆裕	野村 仁美、栗田千恵美

委員会名	委員長	副委員長	委員氏名
救急医療運営委員会	笠井 昭吾 (第2火曜日) 16:45～	柴崎 正幸	矢野 哲、橋本 政典、吉川 俊治、三浦 英明、田代 俊之 熊野 洋、赤澤 年正、山口 恵美、橋本 耕一、武田 泰明 大野 博康、鈴木 淳司、新井 美和、安西亜由子、伊藤 恵 田邊 智春、新井真理子、鈴木 智子、山本 進治、小笠原拓也 渡邊 智幸、吉川 尚吾
臨床研修委員会 ○○	三浦 英明 (第1火曜日) 16:45～	笠井 昭吾	矢野 哲、橋本 政典、小林 浩一、山名 哲郎、水野 智仁 田代 俊之、赤澤 年正、熊田 篤、野本 宏、伊地知正賢 米野由希子、金子 駿太、野村生起子、清水 隆裕、勢田 徹也 (外部委員：宮入 剛 JR東京総合病院 院長)
情報管理委員会	橋本 政典 (適宜)	薄井 宙男	高澤 賢次、三浦 英明、木村美和子、新井真理子、中村 淳子 山本 進治、澁谷 洋樹、桜庭 尚哉、清水 隆裕、渡邊 智幸 中村 芳夫、原島 恭子、井戸上忠弘
医療情報システム委員会	薄井 宙男 (第3→最終水曜日) 16:00～	橋本 政典	山田 陽子、木村美和子、新井真理子、磯田 一博、澁谷 洋樹 渡邊 智幸、佐藤 弘明、中村 芳夫、前田 照美、木村 太祐 寺山 瑞紀
広報委員会 (HP, つつじ編集)	橋本 政典 (第1木曜日) 16:30～	薄井 宙男	飯島 卓夫、田邊 智春、古尾谷尚子、小原 悠那、横手 修平 蓼沼 好市、奥村真美子、内田 恵、倉成 和江、中村 文香 金沢美弥子
医療連携推進委員会 (連携つつじ編集も)	三浦 英明 (第3金曜日) 16:45～	橋本 政典	矢野 哲、山名 哲郎、大野 博康、笠井 昭吾、加藤 司顯 薄井 宙男、田代 俊之、橋本 耕一、伊地知正賢、鈴木 淳司 金谷 佳織、鈴木 淳司、丸山麻梨恵、田邊 智春、伊藤 恵 秋山友里江、福島 正訓、布施屋芳恵、柳田 千尋、渡邊 智幸 吉田いづみ
超音波検査管理委員会	三浦 英明 (第1金曜日) 16:15～	橋本 政典	小林 浩一、遠藤 陽子、伊地知正賢、薄井 宙男、柴崎 仁志 栗田千恵美、布施屋芳恵、飯島 千秋、村山 遥
放射線診療部門 運営委員会	竹下 浩二 (第1月曜日) 16:30～	高倉 徹也	矢野 哲、橋本 政典、山名 哲郎、吉川 俊治、牟田 信春 山本 進治、町田 弘之、小泉 眞一、小野 佳弘、福島 正訓 田邊 智春、金沢美弥子、佐藤 弘明
看護師リクルート 委員会	橋本 政典 (第2火曜日) 16:00～	安西亜由子	大竹 秀樹、清水 隆裕、関本 敬一、大久保彩子、森本 寛子 吉田いづみ
がんセンターボード	米野由希子 (第4金曜日) 16:45～	橋本 政典	山本 沙希、大河内康実、森田理一郎、水谷 栄基、齋藤 聡 三浦 英明、伊地知正賢、久保田啓介、加藤 司顯、古川 聡美 橋本 耕一、阿部 佳子、竹下 浩二、牟田 信春、薄井 宙男 森本 寛子、高橋 愛子、中村 矩子
医療安全委員会 ○○	三浦 英明 (第2木曜日) 16:45～	中原 智美	矢野 哲、小林 浩一、橋本 政典、山名 哲郎、柴崎 正幸 恵木 康壯、齋藤 聡、久保田啓介、竹下 浩二、熊野 洋 遠藤 陽子、鈴木 由貴、野村 仁美、伊藤華名子、本田 範子 青木 竜太、井出 泰男、高倉 徹也、栗田千恵美、一条ふくこ 中井 歩、遠藤さゆり、大竹 秀樹、渡邊 智幸、池田 光宏 薮 伶奈
医薬品安全管理部会	井出 泰男 (適宜)		恵木 康壯、齋藤 聡、佐々木裕子、高橋 理子、中原 智美
医療機器・用具 安全管理部会	中井 歩 (第3水曜日) 16:00～		大河内康実、赤澤 年正、鈴木 篤、杉山めぐみ、中原 智美 本田 範子、塚本 智恵、渡邊 研人、森田 希生、望月 貴久
心肺蘇生部会	恵木 康壯		中原 智美、小林 恵大、平岩 歩、富樫 紀季、中嶋 裕介 池田 光宏
手術部運営委員会	山名 哲郎 (第1月曜日) 17:00～	高澤 賢次	矢野 哲、橋本 政典、田代 俊之、恵木 康壯、阿部 佳子 橋本 耕一、赤澤 年正、加藤 司顯、金谷 佳織、地場 達也 鳥居 秀嗣、中野 雅昭、水谷 栄基、伊地知正賢、久保田啓介 熊野 洋、河野慎次郎、大野 博康、赤澤 年正、木村美和子 本田 範子、白山佐江子、矢内 敏道、富谷 康子、赤堀 颯太 菊池 浩二、渡邊 研人、池田 光宏、村山 遥
ICU 運営委員会	恵木 康壯 (第1月曜日) 17:00～	高澤 賢次	手術部運営委員会と同じ
院内感染防止対策 委員会 ○○	大河内康実 (第3火曜日) 16:15～	富谷 康子	矢野 哲、橋本 政典、山名 哲郎、伊地知正賢、山本 康人 酒匂美奈子、水野 智仁、野村 仁美、永井さくら、中原 智美 矢内 敏道、井出 泰男、吉井 智、高倉 徹也、栗田千恵美 高須賀明日香、遠藤さゆり、遠藤 隆史、渡邊 研人、大竹 秀樹 渡邊 智幸、薮 伶奈、関本 敬一

委員会名	委員長	副委員長	委員氏名
診療材料物品管理委員会	高澤 賢次 (第2月曜日) 16:00～	柴崎 正幸	矢野 哲、橋本 政典、山名 哲郎、水野 智仁、竹下 浩二 鈴木 篤、山下 滋雄、田代 俊之、地場 達也、中村里依太 安西亜由子、富谷 康子、矢内 敏道、森 芙美子、板谷 祥子 大竹 秀樹、渡邊 智幸、橋本 拓也、佐藤 弘明
栄養・NST 委員会	久保田啓介 (第2月曜日) 16:45～	日下 浩二	橋本 政典、山名 哲郎、酒匂美奈子、鈴木 淳司、中野 雅昭 齋藤 聡、金谷 佳織、山口 良子、小杉美代子、伊藤華名子 川村 亜紀、磯田 一博、桜庭 尚哉、遠藤さゆり、石倉 友夢 市川奈津子、奥村真美子、森 未佳子、猿田 淑美、榎本 実里 田邊 満里、渡辺 麻衣、峯 初枝
防火防災管理・ 病院災害対策委員会 (大規模地震発生時) △△	山名 哲郎 (第2金曜日) 16:00～	加藤 司顕 新井 美和	橋本 政典、高澤 賢次、大河内康実、伊地知正賢、大野 博康 水谷 栄基、鈴木 淳司、野村 仁美、杉山めぐみ、新井真理子 竹内希実華、井出 泰男、高倉 徹也、栗田千恵美、一条ふくこ 遠藤さゆり、中井 歩、大竹 秀樹、清水 隆裕、小山久美子 石塚ゆきえ、先 徹
BCP 策定委員会	水谷 栄基 (第3金曜日) 16:30～	山名 哲郎 新井真理子	加藤 司顕、大河内康実、新井 美和、竹内希実華、井出 泰男 高倉 徹也、栗田千恵美、一条ふくこ、遠藤さゆり、中井 歩 金子 強
DMAT 委員会 (R4.4.1に部会→委員会となる)	水谷 栄基 (第4水曜日)	大河内康実 新井真理子	山名 哲郎、木村美和子、中原 智美、星 愛美、竹内希実華 吉川 尚吾、大塚 隆浩、井戸上忠弘
内視鏡検査運営委員会	齋藤 聡 (第1木曜日) 16:45～		矢野 哲、橋本 政典、山名 哲郎、久保田啓介、岩本 志穂 遠藤 陽子、山田 陽子、秋山友里江、濱田 智子、渡邊 智幸 海老原優菜
厚生委員会	笠井 昭吾 (不定期)	齋藤 聡	矢野 哲、酒匂美奈子、田邊 智春、吉倉由美子、青木 竜太 蓼沼 好市、江頭 菜穂、深田 直樹、河辺 友作、金子 強 吉田いづみ、小松 郁子
クリニカルパス委員会	加藤 司顕 (第3木曜日) 16:45～	野村生起子	山名 哲郎、久保田啓介、岩本 志穂、俣田 敏且、古川 聡美 平岩 歩、津野 桃子、森 未佳子、田口 莉沙、小泉 眞一 鈴木 智子、遠藤 隆史、中村 芳夫、井戸上忠弘、春日美弥子
排尿自立支援委員会	加藤 司顕 (第1水曜日) 16:30～	小林 宏美	山名 哲郎、俣田 敏且、積 美保子、米岡扶美子、田中 恵
呼吸ケアサポートチーム 発足に伴う委員会	大河内康実	山口 良子	東海林寛樹、井窪祐美子、長島 哲理、金井理一郎、中井 歩、 萩原 香織、亀山 和代、荒内 夏海
ハラスメント委員会	野本 宏		柳 富子、大竹 秀樹、野村 仁美、山田 陽子、清水 隆裕 金子 強

(備考) ○○○法定 ○○施設基準 ○省令  
△△災害拠点病院基準 △病院機能評価

JCHO 東京山手メディカルセンター

# 委員会活動報告

## 経営改善検討委員会

### ■開催実績

12回

### ■2023年度活動報告

2023年度はアフターコロナに対応するため効果的・効率的に病床を運用し、病床稼働率の向上を図ることにより、収入の確保に努めた。

また、適正な人員配置、業務の量と質に応じた業務委託の実施や医療機能に見合った適切な投資に取り組んだ。

### ■2024年度の取り組み

2024年度は毎月、当番部署から経営分析・改善策を発表し、改変した委員会メンバーで討議を行い経営改善に取り組んでいく。

## 棚卸実施委員会

### ■開催実績

1回

### ■2023年度活動報告

○2024年3月18日(月)委員会を開催

- ・年度末の棚卸実施日を3月29日(金)とすることを確認。
- ・棚卸マニュアルを確認
- ・棚卸実施計画書を確認
- ・棚卸日程表及び棚卸表についての確認
- ・全量検査であり、対象物品を確認
- ・実施者及び立会者の2名で実施することの確認

### ■2024年度の取り組み

- ・毎月の安定した棚卸しを実施すべく、実施部署との調整を随時行う。

## 医療機器整備委員会

### ■開催実績

2回(9/29,1/15)

### ■2023年度活動報告

- ・2023年度の投資枠は178,343千円と決定された。
- ・10月末の本部への計画提出に間に合うよう整備計画を立て、7月中旬に申請のアナウンスを行った。
- ・9月29日に委員会を開催し、全申請機器のヒアリングを行った。
- ・10月31日に本部への最終申請を行なった
- ・1月15日に追加申請の審議を行なった

### ■2024年度の取り組み

- ・修理不可の大型医療機器もあり、2023年度に暫定的に作成した整備計画をたてなおす。
- ・病院存続のために収益性や患者サービスの観点から適切な投資を行うべく、必要な医療機器の整備計画を確実に立てる。
- ・リース機器の見直しを行い、古くなった機器に関しては順次購入計画を立てるなど、リース機器と保有機器の台帳の一元化を行い、適切に機器整備を行なっていく。
- ・減価償却費積立金の確認とIT整備計画を含む必要な整備計画を早急に作成し必要な資金を確保する。
- ・特に以下の整備計画を立てる

- ①ロボット手術機器
- ②放射線治療機器
- ③電子カルテ他IT機器の整備計画の確認

## 安全衛生委員会

### ■開催実績

12回

### ■2023年度活動報告

- ・働き方改革の基準を満たす勤務時間の是正
- ・研修医・循環器内科の若手医師の超過勤務の抑制
- ・職場環境改善のための院内巡視の実施
- ・職員健康診断の実施。(実施率97.2%)
- ・退職者の職場復帰支援プログラムの運用
- ・ストレスチェックの実施・分析・検討。受診率93.8%、高ストレス者17.0%(昨年17.3% ー昨年10.3%)
- ・有給休暇はほぼ全員が規定日数を取得した。
- ・職員満足度調査は実施しなかった
- ・改正健康増進法の施行を契機に、敷地内禁煙を徹底し、職員の禁煙を促進する  
(喫煙率10.8%→:男性14.8%↑、女性9.1%↓)
- ・新宿労働基準監督署に化学物質等による環境汚染に関する労働安全衛生法違反が指摘されたため、毎月検査室の環境リスクアセスメントを行うようは是正した

### ■2024年度の取り組み

- ・業務命令による超過勤務の実施を徹底する。職場長は部下の超過勤務を全て把握することを基本とする。
- ・職場長の責任において業務の均等化と超過勤務の監視を強化する。問題のある場合は対策をこの委員会に提出し了承を得たうえで実行する。
- ・事務職の超過勤務の是正
- ・2024年度から実施される医師の時間外労働規制のA水準を達成できるよう対策をさらに強化する
- ・引き続き研修医は超過勤務が40時間を超えた時点で、当直業務以外の時間外勤務を禁ずる。
- ・医師のみならず全ての職種が適正時間内の勤務と有給休暇の取得が行えるよう医療従事者の負担軽減・処遇改善委員会に働きかける。
- ・健診受診率100%を目指す。
- ・職員満足度調査の実施検討
- ・就労時間内の禁煙の徹底、全職員の禁煙を目指す

## 医療従事者の負担軽減・処遇改善検討委員会

### ■開催実績

11回

### ■2023年度活動報告

- ・「医療従事者の負担軽減及び処遇改善についての計画」についての議論・進捗確認
  - 医師は2024年度の働き方改革のA水準に向けた準備
  - 循環器内科医師に関してはB水準(時間外特例指定)
- ・医師事務作業補助者業務検討委員会の検討内容報告
  - 将来に向けた同職種の常勤・非常勤職員化(派遣縮小)
  - 内科配属職員の業務見直し・効率化
- ・医師の当直明け午後の年休取得の奨励・推進
  - 勤務間インターバル9時間の確保
- ・経過観察パスなどパス化による医師看護師の負担軽減

### ■2024年度の取り組み

- ・循環器内科医師の負担軽減のための取り組み
- ・DX促進による紙連絡の削減・撲滅
- ・職種間での業務分担の継続的な推進
- ・新人や看護実習生の育成への取り組みによる人員確保

- ・病棟指示オーダーの締切時間の遵守やコミュニケーション活用による不急の時間外電話連絡の抑制を徹底する
- ・インセンティブへの取り組み
- ・ユニフォーム（白衣）見直しの推進

## 医師事務作業補助者業務検討委員会

### ■開催実績

10回

### ■2023年度活動報告

- ・業務の見直しを行ない、診断書作成など専門性の高い業務につきました。
- ・医師事務作業補助者の配置について見直しを行った。
- ・整形外科、大腸肛門科について病棟業務の補助を開始しました。

### ■2024年度の取り組み

- ・本年度より新体制となりました。配置や業務内容の見直しを行っていきます。
- ・個々の超過勤務に偏りがでないよう業務分担の見直しを行っていきます。

## 保険委員会

### ■開催実績

11回

### ■2023年度活動報告

1. 2023年度の査定率は0.30%であった。
2. 加算・指導管理料については各委員会の協力を仰ぎ算定増加がみられるようになった。

### ■2024年度の取り組み

1. 引き続き査定率改善に取り組む。
2. 手術手技料の適切な算定を行う。
3. 加算、指導管理料については関連する委員会と協力して取り漏れのないように活動する。
4. 保険診療に関する啓蒙を積極的に行う。
5. 新たな委員長の方針に基づく活動。

## DPC コーディング委員会

### ■開催実績

11回

### ■2023年度活動報告

1. DPC コーディング入力の適正化について医師に情報を提供し、改善を図ってきた。
2. IDC10 に準じた病名入力について、診療録管理室と協力し、詳細不明傷病名の減少に努めた。
3. 過去の事例を検証し、適切なコーディングについて毎回検討を行い、周知を図った。

### ■2024年度の取り組み

1. DPC の入力について多職種の協力を得る。
2. 過去の事例について適切なコーディングがなされているか検証を行う。
3. 新たな委員長の方針に基づく活動。

## 診療録等管理委員会

### ■開催実績

11回

### ■2023年度活動報告

- ・新規文書の確認・承認

- ・同意書のひな型の検討・運用の取り組み
- ・診察記事の適正な記載への取り組み（追記修正・コピー&ペースト等）
- ・入院カルテ廃棄の取り組み
- ・入院カルテ監査実施・フィードバック
- ・退院サマリー記載率向上に向けての取り組み
- ・電子カルテ定型文書における運用の取り組み

### ■2024年度の取り組み

- ・引き続き5年を経過したカルテの廃棄をすすめる。
- ・紙カルテ時代からの継続されている運用の改善
- ・電子カルテ操作の情報提供
- ・新たな委員長の方針に基づく活動

## 施設整備・エネルギー管理委員会

### ■開催実績

11回

### ■2023年度活動報告

実績

- 1) 1階ロビークロス張り替え
- 2) 電波時計設置
- 3) 5西病棟出産前後の連絡のための電話増設
- 4) 3階男子トイレ洗面台修繕
- 5) 病室の破損された壁修理
- 6) 空調不良エリアへのパッケージエアコン設置
- 7) 漏水対応
- 8) 健管個室ユニットバスに手すりの設置
- 9) 病棟床の補修
- 10) 電気設備更新の入札終了

### ■2024年度の取り組み

- 1) 5東浴室ユニットバス導入、5西浴室改修
- 2) 5東を手始めに配管補修
- 3) 8西男性用便器撤去
- 4) 外来トイレ改修
- 5) 職員用トイレ補修
- 6) 大規模修繕に準ずる改修計画、施行をスピード感を持って進める。

## 健康管理センター運営委員会

### ■開催実績

11回

### ■2023年度活動報告

1. コロナ禍が終焉し受診者の回復のため広報活動、営業活動を積極的に行った。
2. 半日ドックの受診者はほぼコロナ禍まで回復した。
3. 非常勤医師に代わり常勤医師による健診業務参加により経費の節減を行った。
4. ネットでの申し込みコース名を目的にあった表記に変更した。

### ■2024年度の取り組み

1. 人間ドックの機能評価受審を行う。
2. Hardy システムの変更。
3. 一泊ドック、協会けんぽ受診者増の取り組みを行う。
4. 上記の目的達成の一環として積極的な営業を行う。

## 治験審査委員会

### ■開催実績

11回

### ■2023年度活動報告

#### 新規治験件数

経口薬	4 薬品
注射薬	4 薬品
合計	8 件

#### 継続治験件数

合計 21 件 (2023 年 3 月時点)

#### ■ 2024 年度の取り組み

被験者の人権、安全を守るため、治験の倫理性、安全性、科学的妥当性を審査し、外部委員の先生を交えて実施及び継続実施可否を判断しています。情報公開についても注視しています。

## 薬事・委託研究審査委員会

#### ■ 開催実績

11 回

#### ■ 2023 年度活動報告

##### 新規採用医薬品数 (数値は品目数)

	院内外共通	院外専用	合計
内服薬	3	6	9
注射薬	12	2	14
外用薬	4	4	8
合計	19	12	31

##### 緊急採用医薬品数

	院内外共通	院外専用	合計
内服薬	36	10	46
注射薬	29	0	29
外用薬	12	3	15
合計	77	13	90

##### 後発医薬品切り替え

院内採用品目削減 39

##### 新規委託研究件数

内服薬	4
注射薬	2

#### ■ 2024 年度の取り組み

薬事委員会では、使用医薬品の医学的及び薬学的評価を行うとともに、その選択・購入・使用等の適正化を図り、併せて有効性・安全性・経済性を兼ねた医薬品を選択できるよう、新規採用申請医薬品の審査、既採用医薬品の評価・見直し、後発医薬品の選定等を行い、院内採用品目の削減、後発医薬品への切り替え促進を行っています。また、医薬品の適正使用も推進しており、適応外使用についての検討も行っていきます。

## 医療ガス安全管理委員会

#### ■ 開催実績

1 回

#### ■ 2023 年度活動報告

- ・医療ガス設備安全管理体制の確認
- ・医療ガス設備保守点検の報告
- ・医療ガス安全管理研修について - 今年度も e-Learning で実施

#### ■ 2024 年度の取り組み

・設備の経年劣化に伴う修繕については、動作に問題のあるところから計画的に進めていきたいと考えています。液化酸素貯槽の更新の申請については必要との認識は以前よりありましたが、見積価格の高騰などもあり、なかなか進捗がみられておりません。計画的な更新を行ってまいりたいと考えております。

## 放射線障害防止専門委員会

#### ■ 開催実績

1 回

#### ■ 2023 年度活動報告

- ・2023 年度の放射線業務従事者、教育訓練実施状況について、報告・情報共有した。
- ・2022、2023 年度の放射線業務従事者の被ばく状況について、両年度とも線量限度値以下であり問題ないことを確認した。
- ・2023 年度の放射線業務従事者の検診状況について滞りなく実施されていることを確認した。
- ・2023 年度の放射線管理区域設備について、修理や点検が必要な機器や設備は計画的に行うことが了承された。
- ・放射線障害予防規程 (下部規程を含め) の改訂を行い、関係機関へ提出した。
- ・上記規程に則り、線量計の点検、校正計画を作成した。

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ・放射性同位元素等の規制に関する法律に従い、院内での放射線障害防止に努める。

## 中央検査部門運営委員会

#### ■ 開催実績

6 回

#### ■ 2023 年度活動報告

- ・院内感染予防のため、入院前患者の COVID-19 遺伝子スクリーニング検査の検体採取を行った。
- ・COVID-19 遺伝子検査を 24 時間体制で対応することによって患者、職員に安心と安全を提供することができた。
- ・医療安全委員会とタイアップしてパニック値報告をテンプレート形式とし、報告から対応までの経過を電子カルテで誰もが参照することができるようになった。

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ・臨床への迅速で正確なデータ提供に向け、臨床検査機器や臨床検査システムの更新を進めていく。
- ・精度を維持した検査環境、人材育成を行っていく。
- ・タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会を全員が終了する。
- ・病院機能評価に向け、マニュアルの見直しなど準備を進めていく。

## 輸血療法委員会

#### ■ 開催実績

6 回

#### ■ 2023 年度活動報告

- ・全輸血製剤の適正使用の徹底を図ることができた。
- ・血液製剤適正使用加算の施設基準を達成し、年間を通して維持することができた。
- ・緊急時の輸血や移植後の輸血について、輸血同意書に追記した。
- ・輸血実施時の認証漏れを減らす試みを行い、改善が見られている。

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ・血液製剤適正使用加算の施設基準を年間で維持する。
- ・アルブミンの適正使用を引き続き周知していく。
- ・輸血廃棄率の低下に努める。
- ・輸血実施時の認証漏れ 0%を目指す。

## 化学療法委員会・レジメン審査委員会

### ■開催実績

12回

### ■2023年度活動報告

- ・新規・変更レジメンや適応外使用を審議・承認した。抗がん剤の出荷調整や後発品について、最新の状況を共有した。外来化学療法室の運営状況、事例、要望を検討した。がん関連診療報酬の算定件数等も共有した。
- ・血管外漏出性皮膚炎について e-Learning を開催した。
- ・免疫チェックポイント阻害剤による免疫関連有害事象 (irAE) 対策チーム立ち上げに協力した。

### ■2024年度の取り組み

1. 外来化学療法室の効率のかつ安全な運用。
2. がん関連診療報酬の算定要件の周知や連携充実加算等を含む毎月の算定数の確認。
3. 抗がん剤治療に役立つ情報を e-Learning で発信。

## 医療の質改善委員会

### ■開催実績

4回

### ■2023年度活動報告

病院における医療の質を改善し、2020年6月に病院機能評価 (3rdG:Ver.2.0) を受審する準備を進めるために2019年6月より活動を開始しました。

今回は2020年12月に受審し、無事認定をいただきました。次回の機能評価は3rdG:Ver.3.0となり、2025年9月頃の審査を予定しております。受審に向けて新バージョンの審査の要点などの確認を行ってまいりました。

### ■2024年度の取り組み

今回の受審まで1年となりましたので、課題の抽出や対策を加速させてまいります。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 特定行為活用推進委員会 特定行為研修管理委員会

### ■開催実績

11回

### ■2023年度活動報告

- 1期生：多田)
- 2期生：永崎・竹内・児玉) 特定行為としての陰圧閉鎖療法を実施。

以下、件数 (患者数)、診療科

	2023年度	
多田	3件 (2名)	
永崎	15件 (5名)	
竹内	0件 (0名)	
児玉	0件 (0名)	
診療科	肛門科	7名

3期生：佐々木・渡辺) 特定行為区分「栄養および水分管理に係る薬剤投与」「創傷管理」「血糖コントロールに係る薬剤投与」を修了。

4期生：平島)「栄養および水分管理に係る薬剤投与」「栄養に係るカテーテル管理 (中心静脈カテーテル管理) 関連」「感染に係る薬剤投与関連」を修了。

### ■2024年度の取り組み

- 1期生) 陰圧閉鎖療法を継続
- 2期生) 陰圧閉鎖療法の継続
- 3期生) 陰圧閉鎖療法の継続

4期生)「栄養に係るカテーテル管理 (中心静脈カテーテル管理) 関連」の活動推進

- ・「動脈血液ガス分析関連」「栄養に係るカテーテル管理 (抹消留置中心注射用カテーテル管理) 関連」の2区分について特定行為研修を実施する

## DMST(糖尿病サポートチーム)委員会

### ■開催実績

11回

### ■2023年度活動報告

< DMST ラウンド > 毎週月曜日 14:10 から全フロアの多職種チーム回診を実施。糖尿病内分泌科に併診依頼のない糖尿病患者をピックアップし介入。年間件数は1632件で、うち341件を入院時の検査結果から拾い上げて介入につなげた。

< 病棟糖尿病カンファ > 毎週水曜日 13:35 から、6階東病棟糖尿病内分泌科入院中患者の多職種カンファレンスを実施。

< 糖尿病教室 > 外来糖尿病教室を対面で開催している。食事は休止中。ホームページに各講師による簡易スライドをupしている。

< 患者会 > 1型糖尿病患者会「東京 DUKE's Meeting」は2023年6月と11月にリアルミーティングにより開催された。

< 世界糖尿病デー > 2023年度は中止。

### ■2024年度の取り組み

月曜日のラウンド、水曜日のカンファを継続。

糖尿病教室は、「腎症」「遺伝」をテーマに加え、半年1クールとして年に2クール、対面で行う。

患者会「東京 DUKE's Meeting」は6月23日と11月23日に現地開催の予定。

## 診療倫理委員会

### ■開催実績

2回

### ■2023年度活動報告

外部委員としては引き続きのした法律事務所の木下正一郎先生と、国立国際医療研究センターの玉木毅先生に委員にご協力いただき、院内の臨床研究の審査に加え、診療全般の倫理的問題に関する検討も行っております。

### ■2024年度の取り組み

今年度から医療安全、緩和ケア、虐待対策の各委員会の協力を得て、新たに臨床倫理サポートチームをリニューアルしてスタートいたします。どうぞご利用ください。

## 褥瘡対策委員会

### ■開催実績

11回

### ■2023年度活動報告

・褥瘡発生率:0.58% (MDRPU 含む0.66%) 褥瘡発生人数68名。褥瘡発生個数81個。

・発生箇所は尾骨部30個、脊柱突起11個、仙骨部10個、踵部10個の順に発生していた。

・医療機器圧迫損傷は、発生部位は下腿が多く6件発生。弾性ストッキング、弾性包帯によるものであった。NPPVマスクの圧迫による鼻尖部の圧迫損傷はアドプロテッククッションの使用推進により発生を抑制できた。

・褥瘡回診:週1回 (木曜日15時から) 皮膚科医師、WOCN、看護師、管理栄養士で述べ279件訪問した。

・診療報酬:褥瘡ハイリスク患者ケア加算1082件。

・褥瘡勉強会:院内職員対象に、「褥瘡の評価と治療」をテー

マに開催した。

- ・褥瘡予防対策に必要な体圧分散寝具に関して、全マットレスのへたり調査を行った。劣化しているものを次年度入れ替えていく予定。

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ・褥瘡発生率 0.7%以下を目標に活動する。
- ・職員の研修会の実施
- ・褥瘡管理システムの適正化
- ・医療機器圧迫損傷予防対策の実施
- ・スキン・テア予防対策の実施
- ・体圧分散寝具の適正使用の実施
- ・エアマットレスの中央管理化

## リハビリテーション部門運営委員会

#### ■ 開催実績

年間 4 回 (4 月、7 月、10 月、1 月)

#### ■ 2023 年度活動報告

リハビリテーション部門の健全な運営について以下の点について検討し対策を行った。

- ・医療安全、医療機器・備品の整備について
- ・職場環境の整備・改善について
- ・職員の働き方について
- ・長期休暇中のリハビリテーション実施について

#### ■ 2024 年度の取り組み

前年度からの継続として以下の取り組みを行う

- ・医療安全・感染症予防対策
- ・職場環境の整備・改善の取り組み
- ・職員の適正な働き方について
- ・その他
- ・診療報酬改定への対応

## 臨床工学部門運営委員会

#### ■ 開催実績

10 回

#### ■ 2023 年度活動報告

<人工呼吸器関連>

- ・人工呼吸器を効率的に運用するため IPPV、NPPV、HFNC の各モードを切り替えた運用が可能かテストする。
- ・2023 年度も毎月の人工呼吸器稼働状況を報告した。

<透析患者の動脈表在化および表在静脈の穿刺>

告示研修受講者から順次穿刺対応することとなった。

<医療機器定期点検>

生命維持管理装置を中心とする臨床工学部管理の医療機器定期点検は、予定通り終了した。

<輸液・シリンジポンプ更新>

輸液ポンプ (TE-161S)110 台、シリンジポンプ (TE-331, 332) 43 台はメーカによる保守対応が終了したため、更新申請を行った。

<医療機器管理室移転>

8 階医療機器管理室は中材に移転する。搬入される物品の出入り口を清潔・不潔で区別しているため、中央管理している医療機器の貸出は西側出入り口、返却は手術室側出入り口を想定している。その他、電源や LAN、テンキーロックなどの環境整備を進めている。

<器械出し業務>

手術室の業務支援のため、大腸・肛門外科の器械出し業務のトレーニングが開始された。

<胸腔鏡スコープオペレータ業務>

呼吸器外科より胸腔鏡スコープオペレータ業務の依頼があり、2024 年 5 月より教育を開始する。

<透析機器等管理部会報告>

2023 年度の水质管理報告では、透析液供給装置・水処理装置・透析用監視装置全台が生菌数、エンドトキシン濃度ともに基準を満たしていた。

#### ■ 2024 年度の取り組み

医療機器の適正管理や臨床工学技士関連業務における諸問題について、各部署と連携し解決策を検討する。

## 図書委員会

#### ■ 開催実績

4 回

#### ■ 2023 年度活動報告

・2021 年度より UpToDate の再契約し、2024 年度も契約継続 (1 年契約) とした。利用促進のため、対面でのお昼の説明会を開催した。

・年間購読中の図書に関して、アンケート調査を行い、見直しを行った。

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ・契約中の 5 つの診療支援ツールの利用状況の把握、利用促進を図る。
- ・臨床研修病院の図書室のあり方を踏まえつつ、オンライン化を図る。

## 教育・研修委員会

#### ■ 開催実績

11 回

#### ■ 2023 年度活動報告

- ・法定、規定の 10 研修会の開催を主催した。
- ・各委員会主催の 16 研修会の開催を後援した。
- ・医療安全、院内感染対策、保険診療 (臨床研修医) 研修会の受講率 100% を達成した。
- ・接遇、災害の 2 研修会の受講率向上のため延長開催した。
- ・希望者に受講証明書を発行した。
- ・中途入職者オリエンテーション体制を確立した。

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ・法定、規定および各委員会等主催の研修会の日程調整、開催支援
- ・医療安全、院内感染対策、保険診療 (臨床研修医) 研修会の受講率 100% 達成
- ・年間実施計画に沿った効率的な各研修会の開催
- ・研修会受講率向上のための方策の検討
- ・研修会の評価についての検討
- ・過去 5 年間に開催した研修内容データベース化

## 外来診療運営委員会

#### ■ 開催実績

11 回

#### ■ 2023 年度活動報告・決定事項

- ・外来待ち時間のモニタリングと適正な予約枠の指導
- ・ブラックリストの管理を防災から医事課に移管
- ・会計計算待ちの列の短縮 (医事課職員による監視)
- ・インシデント報告される口頭での患者苦情の対応
- ・全予約患者のオンライン資格確認による保険証確認の簡素化と初診窓口の混雑緩和
- ・マイナ保険証持参患者優先窓口の設置と広報
- ・全科問診票の電子化の促進
- ・電子処方箋の運用に向け、HPKI カードの取得
- ・夜間休日の放射線画像検査の算定情報の確実な伝達

## ■ 2024 年度の取り組み

- ・待ち時間の短縮・逆紹介促進に引き続き取り組む
- ・会計票の廃止
- ・マイナ保険証利用率の目標 27%の達成
- ・マイナ保険証の確認を診察前に行うための体制整備
- ・外来の看護師・受付・医師事務作業補助者の業務分担と効率化

## 入院診療運営委員会

### ■開催実績

11 回

### ■ 2023 年度活動報告

- ・病床利用率 目標 300/343 床 87.5% 平均在院日数 12 日 入院数 800 人に設定してモニタリング
- ・経過観察入院とパスの活用を促進した
- ・平均在院日数確保のためパス期間の延長を実施
- ・個室の利用状況を部屋タイプ・収益でもモニタ：目標 1800 万円（算定率 75%）以上
- ・医療・看護必要度Ⅱのモニタリング（月 1 回）：ICU 必要度Ⅱ（70%以上）の改善対策を講じた
- ・看護師長による退院日決定を徹底
- ・退院時刻を早め同じ病床への入院を促進するため前日 15 時までの算定情報の入力と請求書の配布の前倒しを検討した（個室 9：30、一般床 10：00）
- ・HR ジョイントの活用促進
- ・整形外科の患者増加に伴う固有病床の再編（脊椎の患者さんを 8W に移動）
- ・面会制限中・新型コロナ病室は継続運用した
- ・新型コロナ対策として緊急入院患者には PCR 実施し、症状のない患者には問診のみとなった。
- ・病室や設備の破損に関して適切に報告を行い、対策を講じるとともに定期的な見回りにより改善を行う

### ■ 2024 年度の取り組み

- ・病棟改装計画と開始
- ・肛門手術の曜日分散による入院患者数の均てん化
- ・入退院手続きの最適化の継続
- ・昨年度の取り組みの徹底による病床利用の促進
- ・保証人制度の見直しと保険会社による身元保証制度の導入の検討

## 認知症ケア・リエゾン推進委員会

### ■開催実績

11 回

### ■ 2023 年度活動報告

認知症ケア・リエゾン推進委員会として多職種でチーム医療を行い「認知症ケア加算」と「精神科リエゾンチーム加算」を算定する。今年度の活動は以下の通り。

- ①週 1 回リエゾンチーム回診と認知症ケア回診、カンファレンスを開催し症例等の検討をする。
- ②病棟巡回し認知症ケアの実施状況を把握する。
- ③病棟職員及び家族に対し助言等を実施する。
- ④相談に速やかに応じ、必要なアセスメント及び助言を実施する。
- ⑤認知症患者ケアに関する定期的な研修を行う。2023 年度研修は 11 月に実施した。
- ⑥せん妄ハイリスク患者ケア加算の算定状況を把握する。

### ■ 2024 年度の取り組み

認知症看護認定看護師の参加により、コンサルトには迅速かつ柔軟に対応できるようになった。研修医も参加し引き続き院内の医療水準向上に努める。回診時には病棟スタッフの意見も

取り入れて幅広い症例にチーム医療を行う。院内研修会は引き続き開催予定である。

## 緩和ケア運営委員会

### ■開催実績

11 回（8 月は休会）

### ■ 2023 年度活動報告

- ・緩和ケア外来を開設した。
- ・緩和ケア外来用問診票を作成した。
- ・がん性疼痛緩和指導料算定用のテンプレートを作成した。
- ・医療用麻薬処方セットを作成した。
- ・緩和ケア研修会への参加を促進した。
- ・医療用麻薬導入パス（オキシコンチン、ナルサス）の運用を開始した。
- ・がん患者に対して歯科受診依頼と予約のお願いを周知した。
- ・東京都がん診療連携協議会緩和ケア部会に参加した。
- ・放射線治療における都立駒込病院との連携を強化した。
- ・がん関連指導管理料（ロ）に必要な入力項目のテンプレートを作成した。
- ・汎用タブに【がん関連】を追加し、緩和ケア・がん関連診療報酬項目を集約した。

### ■ 2024 年度の取り組み

- ・医療用麻薬の自己管理システムの構築
- ・がん性疼痛緩和指導管理料の算定数の向上
- ・緩和ケアに関する地域連携に取り組む
- ・がん患者指導管理料（ハ）算定促進
- ・緩和ケア研修会への参加促進

## 入退院支援推進委員会

### ■開催実績

11 回

### ■ 2023 年度活動報告

- 1) 各種モニタリング・入院手順の改定
  - ①入院時支援加算・入退院支援加算 1・介護支援連携等指導料・退院時共同指導料 2・同多機関共同指導加算・退院前・後訪問指導料
  - ②入院前面談率のモニタリング
  - ③看護サマリーによる診療情報提供（逆紹介）
  - ④周術期口腔機能管理（一部、逆紹介）
  - ⑤「入院のご案内」の改定、HP への掲載
  - ⑥入院前質問表の改定（コロナ対応等）
  - ⑦入院前スクリーニング（コロナ）の手順書改定
  - ⑧その他の入院に際しての文書の改定
- 2) 業務の効率化のための組織・運営変更
  - ①入退院事務所との完全業務分担、連携強化
  - ②ベッドコントロール業務の看護部での実施継続
  - ③退院支援看護師の地域とのカンファレンスの促進
  - ④連携システムを利用した後方連携の効率化促進
  - ⑤休日入院全身麻酔患者の入院前麻酔科受診の支援
  - ⑥薬剤部による入院前のオンデマンド持参薬鑑別
  - ⑦入院オリエンテーションビデオの作成と YOU TUBE への upload

### ■ 2024 年度の取り組み

- ・退院支援看護師の外部との対面カンファレンスの促進
- ・退院支援看護師と MSW との業務分担の推進と連携強化
- ・手術予定患者全員の入院前持参薬鑑別

## 契約審査委員会

### ■開催実績

12回

### ■2023年度活動報告

今年度も前年度と同様に、当院が行う契約の①予定価格が1000万円以上の一般競争又は指名競争による契約、②JCHOの定める契約事務取扱細則第16条第1項に規定する契約、③予定価格が同細則第27条第1号から第6号までに規定する金額を超え随意契約、の三種に分けて契約ごとに審査した。競争入札においては価格優先、随意契約においては実績と妥当性を中心に吟味した。いずれの契約も概ね妥当であった。

委託契約内容の妥当性を検討する会議がなかったため、委託費削減検討委員会を発足させた。

### ■2024年度の取り組み

適正な競争が行われるよう引き続き契約方法の妥当性を検討する。

## 救急医療運営委員会

### ■開催実績

11回

### ■2023年度地域活動報告

- ・新宿区救急業務連絡協議会総会に参加（オンライン開催）
- ・第42回、43回区西部地域救急会議に参加（オンライン開催）
- ・第56回、57回救急医療研究会、令和5年度救急講演会はコロナ禍で教養DVD研修となった。

### ■活動状況

- ・JCHO本部企画経営部より毎月「中核病院としての救急応需率の目標値」達成状況の通達があり、JCHO全体で85%（当院は80.1%）が目標値とされている。毎月の委員会で応需状況の確認を行い、応需率UPに取り組んだ。
- ・救急科の業務の見直しを行った。救急科は原則救急搬送患者対応に注力することとし、紹介患者で救急対応が必要と判断された場合は救急科で初期対応することとした。ただしwalk in患者でも三浦連携室長（院長補佐）の判断での診療依頼には臨機応変に対応する方針とした。
- ・救急応需に関する目標として、①応需数300台/月、応需率85%、救急搬送からの入院率50%を目標として取り組んだ。結果、①応需数3621台/年、②応需率84.37%、③入院率45.7%であった。
- ・休日夜間の選定療養費徴収に関して、軽症で入院に至らなかった場合は、一部条件を除き徴収することとした（院長および幹部会議での決定事項）。
- ・救急端末停止状況の記録分析することにより「不適性、無用な長時間停止」が抑制され救急医療活動の適正化に役立っている。委員である各科部長に、週間応需状況を配布し、非応需理由が不明確な場合、該当医師に個別に確認することを開始した。
- ・時間外、休日において、再診患者（かかりつけ患者）に対しての受診、受入拒否を減らすため必ず電カル内容を確認すること、また紹介医や登録医要請の対応において、専門外を理由に安易に受け容れを拒絶することなく各診療科オンコール活用をあらためて周知徹底した。
- ・救急端末表示設定では、原則的に朝9時の時点では少なくとも各診療科の「診療」「症候別」「検査」は○表示、特に「男・女ベッド」○×表示は予定入院患者や医療連携経由の緊急入院見込なども勘案して総合医療相談センター師長及び外来師長が主体となって決定することとした。

### ■2024年度の取り組み

- ・今年度より新宿区救急業務連絡協議会の理事を笠井救急科部長が務める事となった。
- ・救急応需に関する目標として、2023年度と同様に、①応需

数300台/月、応需率85%、救急搬送からの入院率50%を目標とし、応需数・率のアップに取り組む。

- ・働き方改革が始まり、夜勤明けの翌日は12時以降帰宅出来るよう配慮する。
- ・かかりつけは断らないことを引き続き原則とする。
- ・救急端末の診療○×に関して、各科の診療状況に応じ、適切な表示をすることで、非応需が減るよう取り組んでいく。具体的には、特に外科系で、手術中などで応需不可能な場合に、診療×の情報を救急端末に反映できるよう取り組む。また休日・夜間は、緊急対応中で応需不可が見込まれる場合、診療×に設定変更することを当直医・当直事務に周知・実践する。

## 臨床研修委員会

### ■開催実績

11回

### ■2023年度活動報告

- ・研修医オリエンテーション
- ・クルズスの日程・内容の検討
- ・研修ローテーションプログラムの検討・承認
- ・レジナビフェアへの参加
- ・4病院臨床研修合同セミナーの準備と参加
- ・臨床研修医採用試験の実施と採用順位の決定
- ・研修医に対するアンケートや面談による研修内容や質の向上への取り組み
- ・研修医の医療安全推進室会議への出席と年2件以上のインシデントレポートの必修化導入
- ・2年次研修医の研修修了の承認
- ・2024年3月22日「研修修了発表会」と「修了証授与式」を開催

### ■2024年度の取り組み

- ・2020年度から導入されたPG-EPOCによる研修評価などの運用が適切に出来るよう医師・メディカルスタッフに周知を図る。
- ・臨床研修医採用試験の日程と採用判定基準を見直す。
- ・昨年度から開始した研修医の医療安全推進室会議への出席とインシデントレポートの必修化を継続する。
- ・研修医の超過勤務の実態を把握し、働き方改革を推進する（月80時間以内の超勤や有給休暇取得の管理など）。

## 情報管理委員会

### ■開催実績

1回

### ■2023年度活動報告

- ・一般社団法人日本臨床栄養代謝学会（JSPEN）NST専門療法士認定制度 認定教育施設 臨床教育実地修練に伴う外部研修生に対する当院の電子カルテの利用について話し合われた

### ■2024年度の取り組み

- ・年度内に最低1度は個人情報適切に扱われているかどうかを確認するため委員会を開催する

## 医療情報システム委員会

### ■開催実績

12回 出席延べ199人

### ■2023年度活動報告

- ・懸案事項127件、システム連絡票18件、その他検討事項68件
- ・報告事項

- ▽診察・会計表示板システム、病理システム更新
- ▽内視鏡システム更新仕様作成
- ▽システム障害対応
- ・情報セキュリティ報告
- ▽監査対応（テープバックアップ、サーバ室スプリンクラー、リモート接続、ベンダー定例報告、手順書整備）
- ▽パスワード設定変更
- ▽PCワイヤーロック
- ▽訓練メール
- ▽情報セキュリティ研修
- ▽書面監査
- ▽ファイアーウォール脆弱性対策
- ▽情報資産棚卸
- ▽情報セキュリティ対策自己点検

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ・褥瘡システム、ナースコールシステム、内視鏡システム更新

## 広報委員会

#### ■開催実績

11回

#### ■ 2023 年度活動報告

- ・職員向け広報誌「つつじ」を5・7・9・11・3月の5回発行（第170号～第174号）175・176号は2024年5月発行予定
- ・「つつじ」全巻を電子カルテの掲示板に掲載
- ・患者向け広報誌「つつじ通信」を4・6・9・12月の4回発行（第83号～第86号）し、公開HPに掲載
- ・「つつじ通信84号」から刷新し、連携医他院外でも配布した。当院の売りと健管の広報、和痛分娩、公開教室のお知らせを掲載
- ・年報を7月に発行、PDFをHPにも掲載し、冊子50部、掲載ページのQRコード付き葉書750枚を配布した
- ・ホームページ部会での情報の更新の確認
- ・JCHO 広報勉強会への参加
- ・JR 大久保駅・新大久保駅の構内広告看板の契約更新

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ・今年度は掲示物の統一性と定期的リニューアルを図る
- ・「つつじ通信」の再開
- ・年報を7月に発行し、HP掲載のみとする予定。原稿依頼と収集はコミュニケーションメールと電子カルテNAS上で完了し、校正はJCHOメールで行う予定

## 医療連携推進委員会

#### ■開催実績

11回

#### ■ 2023 年度活動報告

- ・連携実績報告（紹介率・逆紹介率、MSW室を介した地域への退院支援患者・連携バス等の把握）
- ・2023年度の紹介率79.8%・逆紹介率132.4%
- ・在宅療養後方支援患者緊急入院  
2023年度 支援実績4件
- ・在宅患者緊急入院（後方支援患者以外）  
2023年度 入院実績123件
- ・連携登録医の登録推進：640施設（年度末時点）
- ・地域医療機関への広報活動：広報誌（医療連携つつじ：年3回）・診療案内（年1回）の内容検討・発行
- ・新宿区基幹病院連携の会（年4回開催）への出席
- ・毎月配信するWEB講演会を新たに立ち上げ、地域医療支援病院として地域の医療従事者に対して研修の充実を図る取り組みを開始した。
- ・コロナ禍で休止していた対面での第22回の医療連携講演会を開催した（2024.3.18）。

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ・引き続き地域医療支援病院、紹介患者重点医療機関、在宅療養後方支援病院としての役割を果たしていく。
- ・多職種が協力して地域医療連携に取り組む。
- ・紹介率70%・逆紹介率70%以上を維持し、入院患者数の増

加に取り組む。

- ・新設される医療機関の連携登録を推進する。
- ・2023年度から新たに開始した毎月開催のWEB講演会を継続し、引き続き地域の医療従事者に対して研修の充実を図る。

## 超音波検査管理委員会

#### ■開催実績

11回

#### ■ 2023 年度活動報告

- ・当委員会は院内の超音波検査システムと超音波機器の管理を行い、円滑な超音波検査の実施と運用を図る目的で2021年9月に発足した。
- ・各月ごとの全超音波検査における実績数を報告した。
- ・院内にある超音波機器の定数と、購入年月日の調査を行い、逐次一覧表を更新するより全体像を把握した。
- ・超音波検査に携わる検査技師の配置を検討した。
- ・超音波検査の予約状況を検討した。
- ・ポータブルエコー機の使用状況を把握するために電子カルテ上で予約管理する運用法を継続している。
- ・古い機器の選定を行い、これらの代替えとしての新規購入の機器選定と申請・発注を行った。
- ・2023年度において新機種ARIETTA750SE（腹部）、ARIETTA65LE（穿刺用ポータブル）、Aplioi700（体表・腹部）、AplioVerifia（健診センター）を配備することができた。
- ・ポータブルエコー機の機器更新や機種選定のために必要な稼働状況をするために、また緊急入院におけるDPC機能評価係数Ⅱに関わる観点から、実績登録の管理を開始した。

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ・引き続き、超音波検査システムと超音波機器の管理を行い、円滑な超音波検査の実施と運用を図る。
- ・院内にある超音波機器の定数と、購入年月日の調査結果を逐次更新し、効率的な超音波機器の選定と更新をしていく。
- ・Covid-19により減少した超音波検査の実績の回復に努める。
- ・ポータブルエコー機の機器更新や機種選定のために必要な稼働状況をするため、また緊急入院におけるDPC機能評価係数Ⅱに関わる観点から引き続き実績登録を推進していく。

## 放射線診療部門運営委員会

#### ■開催実績

12回

#### ■ 2023 年度活動報告

放射線部の効率的な運用、放射線検査の安全で合理的な実施が行えるよう、さまざまな問題の審議を行っている。

#### 主な審議・決定事項

- ・MRI造影剤投与後の急変時対応トレーニングを施行（2023年10月25日）
- ・MRI対応ペースメーカー挿入患者の電子カルテ依頼方法の構築
- ・時間外CTオーダーによる予約票の出力を可能とした
- ・一般撮影装置、検診用マンモグラフィ装置、骨密度測定装置DEXA更新
- ・読影レポート見落とし事故防止対策と既読管理の実施、未読医師へのメール送信
- ・医療法改正に伴う指針作成を実施し医療放射線管理委員会を実施
- ・放射線障害防止委員会の実施
- ・医療放射線に係る職員研修の実施（eラーニング）
- ・放射線機器稼働状況の把握と稼働率向上への対策
- ・当日緊急検査受け入れの拡充の取り組み
- ・CT検査 外来実施率向上に向けての取り組み

- ・病診連携利用増加促進の検討と C @ RNA システム（他院からの画像検査予約システム）の利用改善
- ・診療放射線技師学校学生の実習受け入れと指導
- ・造影時の静脈確保に対し有資格の放射線技師による施行を段階的に増加させる
- ・報告書管理体制加算取得のため報告書を提出する
- ・放射線科利用マニュアル再改定
- ・RI 撮影装置、RI 中央監視システムの更新
- ・新規 Viewer の導入は PACS レポートシステムの契約に合わせて実施することとした
- ・医療安全対策の徹底
- 2024 年度の取り組み
- ・医療放射線管理委員会の継続と医療法改正に伴う指針に則った放射線業務の推進
- ・医療放射線に係る職員研修の実施
- ・放射線障害防止専門委員会の継続
- ・読影加算 2 取得の継続
- ・X 線被ばく低減施設認定施設取得の継続
- ・読影レポート見落とし事故防止対策と既読管理の徹底と継続
- ・放射線機器稼働率向上に向けた対策
- ・CT 検査の外来実施率の向上
- ・医療安全対策の徹底を継続
- ・放射線治療装置の導入計画・推進
- ・読影室の拡充と環境整備

## 患者サービス向上・接遇委員会

### ■開催実績

11 回

### ■ 2023 年度活動報告

- ・「皆さまの声」の確認、改善策の検討
- ・整形外科付近の患者呼び出しモニタの増設
- ・診療科案内の英語表記追加
- ・大型エレベータのベッド優先の徹底
- ・携帯キャリア 3 社のブースター設置完了
- ・昨年度の患者満足度調査の検証：プライバシーへの配慮、設備の老朽化と自宅療養に関する説明、面会などの点で改善希望が指摘されている。
- ・5/30 17:00 「接遇マナー研修 ～ワンランク上のスキルを身につけ 患者さんに安心をお届けする～」を集合型研修として実施（クリエイティブ講師）
- ・10/3 ～ 10/17（外来は 1 日間）患者満足度調査の実施
- ・院内視察によるサービス向上：椅子の配置・ポスターの見直しなど
- ・大便器のガラスコーティングを行った
- ・接 good バッチの全職員への配布と接遇の改善への意識づけ
- ・ベッドサイドライトの LED 化の決定

### ■ 2024 年度の取り組み

- ・患者満足度調査の検証の早期実施
- ・ベッドサイドライトの LED 化の実施
- ・院内の清掃状態の改善・維持の監視
- ・院内視察による見栄え改善・サービス向上
- ・外国語を話せる職員の調査
- ・防犯カメラの増設の検討
- ・ボランティア活動の再開検討

## 医療安全委員会

### ■開催実績

12 回

### ■ 2023 年度活動報告

- ・医療安全推進室、医療機器・用具安全管理部会、心肺蘇生部会、

医薬品安全管理部会、セーフティマネージャー会議からの活動報告を審議し、事例の対策と再発防止の検討および各委員会や部署へ改善の働きかけを行った。

- ・医療事故防止マニュアルの改訂・追加
- ・医療安全研修会を e-Learning で 2 回開催
  - ①心肺蘇生記録から～ 2022 年度報告～
  - ②誤嚥・窒息を減らすために
  - ③入院時嚥下機能スクリーニング導入に向けて
  - ④気道異物による窒息の対処方法・正しい方法で患者を救う
  - ⑤画像診断レポート既読管理
  - ⑥テクニカルアラームを減らす取り組みについて
- ・心肺蘇生トレーニングを実施
  - AHA-BLS（正規コース）：9 回 26 名受講
- ・医療安全相互評価の実施
  - JR 東京総合病院（訪問）
  - JCHO 新宿メディカルセンター（訪問）
- ・患者誤認防止行動の徹底の院内ラウンドを実施
- ・セーフティマネージャーのチーム活動
  - （転倒転落防止・誤薬防止・災害対策・患者誤認防止チーム）

### ■ 2024 年度の取り組み

- ①昨年度よりインシデント 0・1 レベルの報告件数を増やす
- ②医師、研修医への啓発活動を行い、医療安全への意識を高める
- ③転倒・転落レベル 3a・3b を減少させる

## 手術部運営委員会

### ■開催実績

11 回

### ■ 2023 年度活動報告

- ・手術室稼働データ（稼働系・収支系）の確認
- ・手術時間 60 分超過症例の検討
- ・急性期充実加算に向けた緊急手術件数の確認
- ・手術枠割り当てに関する検討
- ・手術部の安全に関する検討
  - （インシデント報告、マニュアル改訂）
- ・器械器材の保守、点検、購入の検討
- ・人員補充に関する取り組み

### ■ 2024 年度の取り組み

- ・手術部の効率的運用に向けて引き続き検討
- ・急性期充実加算取得にむけた緊急手術の増加
- ・手術部マンパワーの十分な確保

## 院内感染対策委員会

### ■開催実績

12 回

### ■ 2023 年度活動報告

- ・新型コロナウイルス感染症対策（5 類移行後の対応）、COVID-19 専用病棟、マニュアル改定、陽性職員対応。
- ・新型コロナウイルス感染症の院内発生への対応。
- ・ICT（耐性菌）、AST（抗菌薬適正使用支援）環境、中心ライン関連血流感染、手術部位感染が 1 回 / 週ラウンドを実施。
- ・院内感染予防研修会を全職員対象に 2 回 / 年開催。
- ・感染防止マニュアルの部分的改訂（感染による重大事故時の体制、院内感染報告体制、アウトブレイク時の対応、洗浄・消毒・滅菌、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、届出感染症）。
- ・手洗い強化期間を実施し、手洗いマニュアルの周知徹底、啓蒙活動の実施。
- ・感染防止対策合同カンファレンスを 2 病院と連携し、4 回 / 年開催（院内感染対策の現状、新型コロナウイルス感染症の

院内感染対策、環境整備の現状と課題、インフルエンザ対策、訓練：N95 マスク着脱・定量的フィットテスト）。

・感染防止対策相互評価を東京新宿メディカルセンターと実施。

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ・手指衛生遵守の向上（1 患者 1 日当たりの手指衛生回数 12 回以上）。
- ・抗菌薬適正使用支援における指導・助言が適切に施行され、助言後のフォローを行う。
- ・特定感染症入院医療管理加算を取得し、適切な感染対策が実施できる。

## 診療材料物品管理委員会

#### ■ 開催実績

11 回

#### ■ 2023 年度活動報告

1. 新規購入診療材料の検討・承認
2. 臨時購入診療材料の検討・承認
3. 緊急購入診療材料の承認
4. Covid-19 により一時高騰した診療材料に対し、安価な診療材料へ切り替えの検討を行った。

#### ■ 2024 年度の取り組み

1. 高額な手術材料、心カテ関係の納入価再評価
2. 新たな委員長の方針に基づく活動

## 栄養・NST 委員会

#### ■ 開催実績

11 回

#### ■ 2023 年度活動報告

（栄養）定例：給食材料費、栄養指導件数、特別食割合、インシデント発生件数、検査簿未記入数報告。給食日より発行、嗜好調査結果報告。

取り組み：GFO の配合見直し。特食加算数・栄養指導件数増加への取り組み。粥ゼリーの導入。

（NST 他）定例：NST 介入件数と改善率、NST ラウンド率の報告。摂食嚥下支援チームの活動報告。

取り組み：入院時嚥下機能スクリーニングの導入。胃瘻造設時嚥下機能評価加算の算定。新宿栄養連携の会講演会への参加。院内研修会開催。日本栄養治療学会（2024 年 4 月～日本臨床栄養代謝学会より名称変更）NST 認定教育施設として第 1 回臨床実地修練を開催し、修練生 7 名受け入れ。

#### ■ 2024 年度の取り組み

（NST）第 2 回臨床実地修練生を外部より受け入れ、院内の専任者育成も行う。

誤嚥・窒息防止のため、入院時に嚥下機能チェック（旧入院時嚥下機能スクリーニングシート改訂）が確実に実施されるようシステムを作る。

栄養評価方法として GLIM 基準（国際基準）の導入を検討する。

## 防火防災管理・病院災害対策委員会

#### ■ 開催実績

11 回

#### ■ 2023 年度活動報告

- ・委員会を毎月 1 回開催した（8 月のみ休会）。
- ・消防用設備点検の結果をもとに消防用設備の改修を行った。
- ・2023 年度前期防火・防災避難訓練を地下 1 階で行った（9 月 22 日）。
- ・新宿西戸山中学校医療救護所訓練参加した（1 月 13 日、参

加者 山名）

- ・防火防災・災害対策研修を e-ラーニング形式で配信した（2 月 13 日から 2 週間）

「当院の BCP について」（水谷先生）

「消防訓練の共有」（山名）

「トリアージ」（新井副師長）

- ・2022 年度後期防火・防災避難訓練を 2 階透析センターで行った（3 月 6 日）。

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ・消防用設備の改修を年度内に終了する。
- ・災害時における初動 24 時間の医療体制の準備をすすめる。
- ・災害時の緊急避難救護所の立ち上げ準備をすすめる。

## BCP 策定委員会

#### ■ 開催実績

10 回

#### ■ 2023 年度活動報告

- ・サイバーテロ時 BCP マニュアルを作成した。
- ・紙カルテ運用ファイルを各部署へ設置した。
- ・大規模地震時アクションカード、BCP マニュアル、大規模災害マニュアルを防災センターへ設置した。
- ・BCP の Up date につき E-learning で周知した。
- ・年 2 回の防災通信訓練に参加した。
- ・東京都がん診療連携 BCP ワーキンググループへ参加した。

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ・BCP 策定マニュアルを改訂する。（サイバーテロ BCP の追加、緊急参集システム・参集メンバー確認 等）
- ・院内の訓練を行なう。（サイバーテロ関連）
- ・防災通信訓練に参加する。

## DMAT (災害派遣医療チーム) 委員会

#### ■ 開催実績

11 回

#### ■ 2023 年度活動報告

- ・DMAT マニュアルが完成し、2024 年 4 月 1 日～運用を開始した。
- ・DMAT 隊員の資格更新を行った。
- ・DMAT 隊員の養成研修に応募したが当選せず。
- ・年 2 回の防災通信訓練（EMIS）に参加した。
- ・備品の整備を行った。（トリアージタッグの追加購入 など）
- ・防災倉庫の整頓を行った。

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ・DMAT マニュアルを再検討し充実を図る。
- ・DMAT 隊員養成研修への応募を継続する。（今年度新設の厚労省枠にも応募する。）
- ・引き続き備品の整備を行なう。
- ・関東ブロック訓練に参加する。
- ・院内のトリアージ訓練を行う。

## 内視鏡検査運営委員会

#### ■ 開催実績

10 回

#### ■ 2023 年度活動報告

当委員会は内視鏡検査数増加を目指し内視鏡センターの円滑な運営を進めるために開催されている。検査を増やすためにいかに効率よく安全に検査を行うか検討を重ねてきた結果上部消

化管内視鏡は 5000 件を越すことが出来ました。また同意書を改訂し院内共通の文書として使用することになりました。

#### ■ 2024 年度の取り組み

上部内視鏡は 1 日 40 件行うこととなります。大腸内視鏡については検査数増加のために医師の技術向上による検査時間の短縮が必要です。

透視下内視鏡や緊急内視鏡が増加傾向であるため効率化が必要で

す。今年度内に内視鏡機器およびファイリングシステムの入れ替えがあるため運用についての話し合いが必要となります。

## 厚生委員会

#### ■ 開催実績

2 回

#### ■ 2023 年度活動報告

互助会主催事業として、例年は 8 月夏の納涼会、12 月の忘年会を計画し、開催のための予算や運営内容について検討している。2023 年度はポストコロで、7/28（金）にビールパーティー、12/22（金）に忘年パーティーを開催した。また 11/10～12/10 の期間に、「ロングランボウリング大会」を開催した。今年度も互助会収支は適正であった。

#### ■ 2024 年度の取り組み

2024 年度も互助会事業をサポートし、ビールパーティーと忘年パーティーを開催、またボウリング大会などの企画を開催すべく検討する。

## クリニカルパス委員会

#### ■ 開催実績

11 回

#### ■ 2023 年度活動報告

- ・クリニカルパスの毎月の運用状況（パス適応状況、中止、終了した件数）、バリエーション登録状況を把握し検討した。
- ・各パス適用と入院期間（2021 年度）の検討を DPC II 期も考慮し、入院期間の調整を行った。
- ・退院確認時のパス終了とバリエーション入力 of の徹底を行った。
- ・電子パス環境の整備・保守（電子パス番号の採番、新規公開、修正）を行った。
- ・看護師の負担軽減のため、アウトカムを達成するのみで、看護記録記載不要とした。

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ・バリエーション入力とクリニカルパスの改訂、見直しの推進。
- ・クリニカルパス大会または講演会の開催（1 回/年）
- ・クリニカルパス委員会便りの発行（1 回/年）

## 排尿自立支援委員会

#### ■ 開催実績

11 回

#### ■ 2023 年度活動報告

- ・改定「排尿ケアマニュアル」を配布した。
- ・院内研修会（e-learning）を 2023 年 8 月に行った。
- ・2023 年 8 月から排尿自立支援加算再算定開始した。
- ・2023 年度で 24 回、排尿自立支援を行った。
- ・リンクナース勉強会を 2023 年 5 月から 10 月まで 5 回行った。

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ・3 年以上の経験を有し、所定の研修を修了した。2024 年 1 月からは専任の常勤看護師が 5 人になった。それにより 2024 年度より充実した排尿ケアが可能になると考える。

## 委託費削減検討委員会

#### ■ 開催実績

10 回

#### ■ 2023 年度活動報告

- ・委託費を削減するため契約の必要性や内容の見直しを行うことを目的に 2023 年度に発足した
- ・病院におけるすべての物品調達、保守、役務に関する契約の妥当性を緊急性の高いものから検討した
- ・同規模の他病院の同様の契約を調査し、調達内容と金額をベンチマークとして比較することにより削減可能性を追求した
- ・職員定員の妥当性についても随時検討した

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ・病院に必要な物品・役務に関して最小限の調達と契約により行えるよう効率性の追求と契約方法の工夫を検討していく
- ・特に額の大きい以下の契約については早くから慎重に検討する必要がある

①健康管理センター業務委託（閑散期の人員削減や職員による業務遂行を検討）

②医事業務委託（配置の最適化、職員の活用）

③清掃業務委託（価格だけではなく内容検討）

④電子カルテなど IT 関連

⑤医薬品調達（特に IBD 関連医薬品）

⑥医療材料調達及び管理業務（SPD）

## 病院・職員寮改修管理委員会

#### ■ 開催実績

11 回

#### ■ 2023 年度活動報告

実績

- 1) 下落合寮の大規模修繕
- 2) 泉寮温水器の交換
- 3) 泉寮カビ発生居室への対応

#### ■ 2024 年度の取り組み

- 1) 下落合寮入居準備
- 2) 旧看護学校上の寮の整備

## 医療放射線管理委員会

#### ■ 開催実績

1 回

#### ■ 2023 年度活動報告

- ①放射線診療従事者の検診受診率について
- ②放射線診療従事者の被ばく状況について  
被ばくの多い検査を控える
- ③ TV 装置更新による被ばく
- ④診療用放射線安全利用のための研修会受講率 84.9%
- ⑤ MRI 安全研修会受講率 59.4%
- ⑥東京都監査結果  
排気設備のチャコールフィルタは更新不要
- ⑦放射線防護衣点検結果  
破損は 2 枚
- ⑧診療用放射線安全利用のための指針について  
DRLs との比較結果を報告

#### ■ 2024 年度の取り組み

- ①検診受診率 100% に向けた取り組み
- ②被ばく管理の徹底
- ③ TV 装置更新に伴った被ばく量低減率の算出

- ④研修会受診率 100% に向けた取り組み
- ⑤ MRI 安全研修会受診率 100% に向けた取り組み
- ⑥医療被ばく低減施設更新の関する報告

## 虐待対策委員会

### ■開催実績

1回

### ■2023年度活動報告

虐待を疑ったときの対応と通告までの流れについて、対象が高齢者、児童、障害者の場合、及びDVの場合についてフローの整備を行いました。また虐待疑い事例の検討も行っています。

### ■2024年度の取り組み

引き続き虐待、及び虐待疑い症例の抽出、対応の協議を進めてまいります。皆さまのご協力をお願いいたします。

## キャンサーボード

### ■開催実績

11回

### ■2023年度活動報告

キャンサーボードは、当院のがん治療に関わる委員会の最上位組織として2022年11月に発足した。症例検討会では、治療方針決定に難渋する症例について、委員のほか多職種のスタッフが積極的に参加し、病院としての意見を決定してきた。また、定期開催の実績を踏まえ、東京都がん診療連携協力病院としての認定を受けることができた。

### ■2024年度の取り組み

症例検討会の定期開催に加え、免疫チェックポイント阻害剤による免疫関連有害事象(irAE)に対する対策チームの発足を目指している。

## ハラスメント委員会

### ■開催実績

3回

### ■2023年度活動報告

当院で勤務する職員が個人として尊重され、ハラスメントを受けることなく就労できるよう十分な配慮と必要な措置を取ることを目的とする。ハラスメントが発生した場合には、被害を受けた職員が安心してハラスメントの苦情を申し立て、相談を受け付けられる窓口を設置している。適切な調査と慎重な手続を経たうえで、厳正な処分を含む効果的な対応をするが、その際、関係者（事案の当事者の他、監督・指導の責任を負う者等、当該事案に利害関係を有する者を含む。）のプライバシーの尊重と秘密厳守には特に留意する。2023年度は3件の事案に対して、聞き取り調査・委員会での審議・ハラスメント認定を行った。

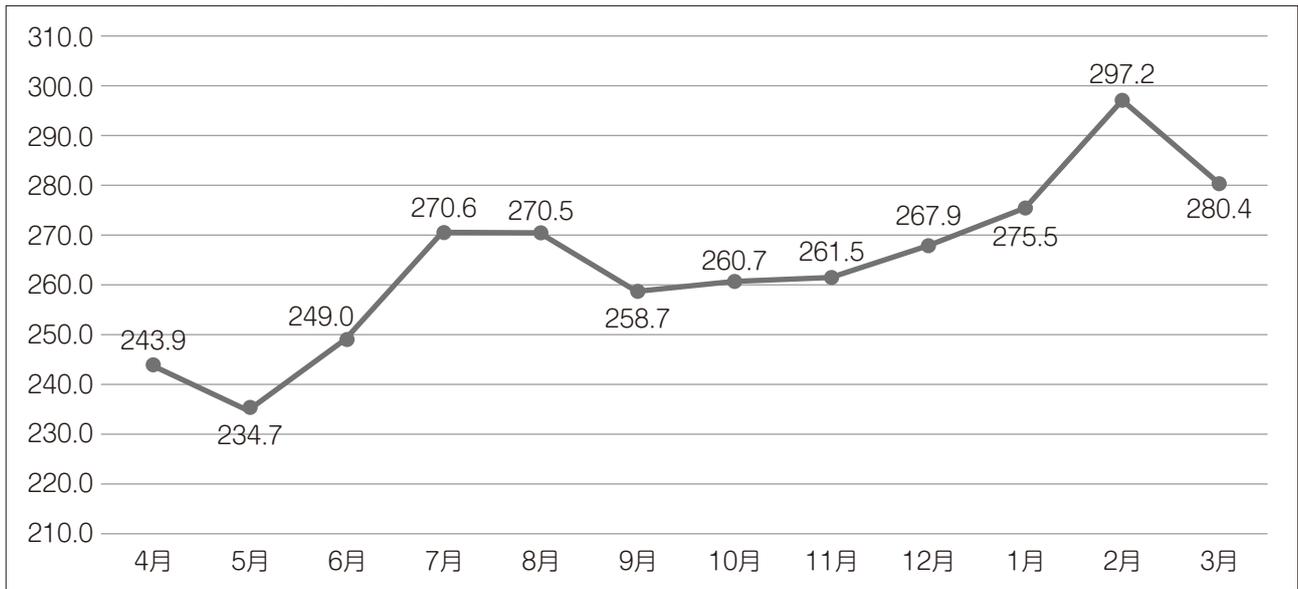
### ■2024年度の取り組み

苦情・相談窓口の設置、苦情処理手続等を定め、相談および苦情申し立てに対する報復措置その他の不利益取扱いの禁止、関係者のプライバシー保護、懲戒処分の勧告、研修や教育を通じた予防・啓発の促進に努める。院内研修会は引き続き開催予定である。

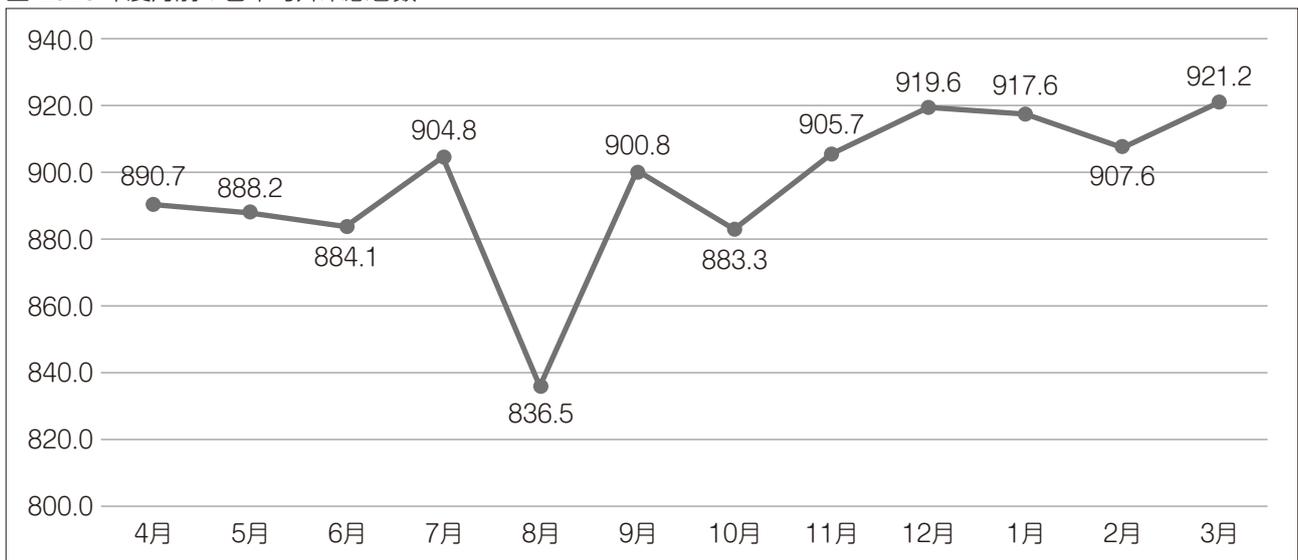
# 病 院 統 計

病院統計

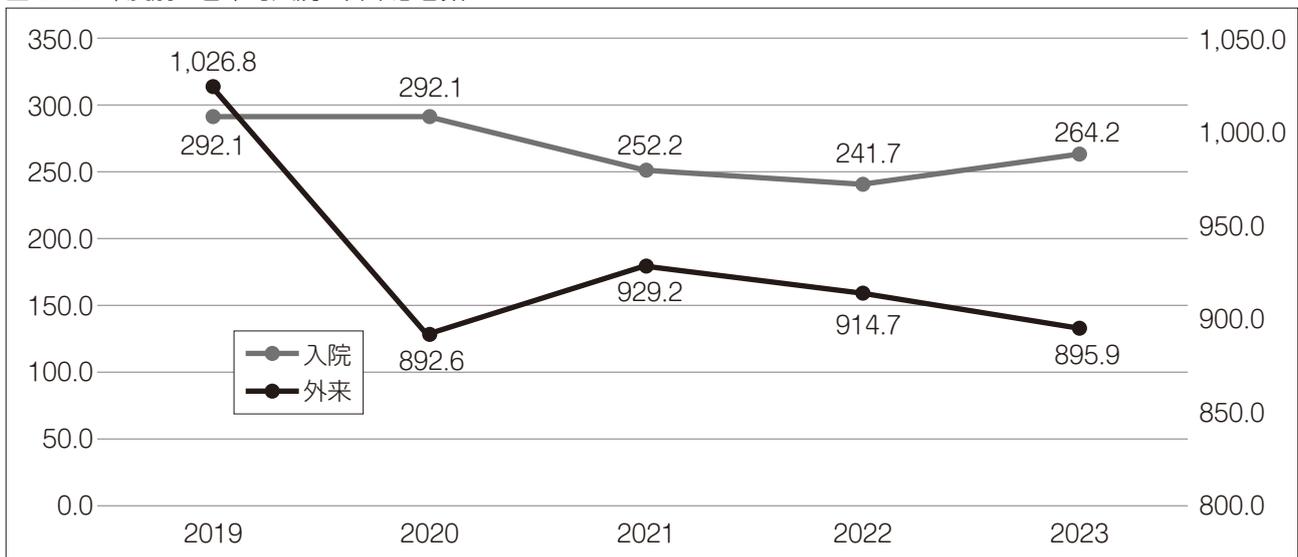
■ 2023年度月別1日平均入院患者数



■ 2023年度月別1日平均外来患者数



■ 2023年度別1日平均入院・外来患者数



■ 2023 年度 科別病床利用状況 (平均の数字は、実数より算出)

科別	診療月	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計		
	表日数	30		31		30		31		31		30		31		30		31		31		29		31		366		
内科	入院	67	272	89	274	90	289	136	323	122	317	105	277	92	275	78	292	105	346	94	310	92	305	89	302	1,159	3,582	
	退院	73	246	107	256	98	261	155	291	132	290	110	271	112	250	96	254	116	331	108	236	111	280	99	289	1,317	3,255	
	死亡	10		10		6		8		13		13		14		10		19		20		12		21		156		
	実数	3,656		3,565		3,373		4,052		4,204		3,731		3,785		3,528		4,106		4,224		4,169		4,164		46,557		
	延数	3,912		3,831		3,640		4,351		4,507		4,015		4,049		3,792		4,456		4,480		4,461		4,474		49,968		
科	一日平均	121.9		115.0		112.4		130.7		135.6		124.4		122.1		117.6		132.5		136.3		143.8		134.3		127.2		
小児科	入院	0	7	0	5	0	7	0	2	0	12	0	7	0	9	0	6	0	11	0	8	0	5	0	4	0	83	
	退院	0	10	0	6	0	6	0	2	0	11	0	9	0	6	0	8	0	12	0	7	0	6	0	3	0	86	
	死亡	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		
	実数	64		32		26		20		48		35		54		43		61		34		26		17		460		
	延数	74		38		32		22		59		44		60		51		73		41		32		20		546		
科	一日平均	2.1		1.0		0.9		0.6		1.5		1.2		1.7		1.4		2.0		1.1		0.9		0.5		1.3		
外科	入院	2	38	5	43	4	47	6	43	6	44	4	36	5	35	13	31	9	31	3	50	10	42	2	46	69	486	
	退院	2	39	0	44	2	46	0	51	1	45	3	48	1	35	2	32	4	44	1	40	1	47	3	49	20	520	
	死亡	0		0		0		0		0		1		0		4		1		3		1		0		10		
	実数	370		470		463		467		430		453		340		481		476		506		557		535		5,548		
	延数	409		514		509		518		475		502		375		517		521		549		605		584		6,078		
科	一日平均	12.3		15.2		15.4		15.1		13.9		15.1		11.0		16.0		15.4		16.3		19.2		17.3		15.2		
呼吸器科	入院	0	9	0	4	0	13	1	7	0	3	1	4	0	9	1	11	1	6	1	14	0	4	0	9	5	93	
	退院	0	9	0	4	0	11	2	7	0	6	0	4	0	6	0	11	0	12	0	8	0	11	0	7	2	96	
	死亡	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		
	実数	95		78		100		96		51		39		66		124		78		94		77		90		988		
	延数	104		82		111		103		57		43		72		135		90		102		88		97		1,084		
科	一日平均	3.2		2.5		3.3		3.1		1.6		1.3		2.1		4.1		2.5		3.0		2.7		2.9		2.7		
心臓血管外科	入院	1	1	0	5	0	2	0	1	0	1	0	0	0	3	0	0	0	2	2	6	2	1	0	4	5	26	
	退院	0	4	2	1	0	2	0	3	0	1	0	1	0	3	0	0	2	0	2	2	0	5	0	2	6	24	
	死亡	1		1		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		1		3
	実数	113		72		77		52		13		23		3		0		1		39		102		82		577		
	延数	118		74		79		55		14		24		6		0		1		41		107		85		604		
科	一日平均	3.8		2.3		2.6		1.7		0.4		0.8		0.1		0.0		0.0		1.3		3.5		2.6		1.6		
整形外科	入院	4	59	5	59	5	61	4	82	4	69	2	55	3	74	2	76	4	75	2	76	4	70	5	67	44	823	
	退院	0	65	2	50	5	70	4	74	4	74	1	56	1	67	1	80	3	83	0	62	2	74	1	88	24	843	
	死亡	0		0		0		0		0		0		0		1		1		0		0		0		2		
	実数	1,061		1,288		1,290		1,560		1,359		1,252		1,381		1,456		1,485		1,515		1,438		1,531		16,616		
	延数	1,126		1,338		1,360		1,634		1,433		1,308		1,448		1,537		1,569		1,577		1,512		1,619		17,461		
科	一日平均	35.4		41.5		43.0		50.3		43.8		41.7		44.5		48.5		47.9		48.9		49.6		49.4		45.4		
脳神経外科	入院	0	2	1	3	0	6	2	9	0	10	0	6	1	4	1	6	0	9	1	5	1	9	0	6	7	75	
	退院	0	5	0	5	0	4	0	8	0	7	0	6	0	9	1	6	0	7	0	7	0	5	0	8	1	77	
	死亡	0		0		1		1		0		1		0		0		0		0		1		0		4		
	実数	137		80		45		119		211		222		107		156		181		201		163		186		1,808		
	延数	142		85		50		128		218		229		116		162		188		208		169		194		1,889		
科	一日平均	4.6		2.6		1.5		3.8		6.8		7.4		3.5		5.2		5.8		6.5		5.8		6.0		4.9		
皮膚科	入院	0	3	0	0	0	2	0	1	0	3	0	0	0	6	0	5	0	1	0	4	0	1	2	0	2	26	
	退院	0	1	0	2	0	2	0	1	0	3	0	0	2	3	0	2	0	5	1	2	0	1	1	0	4	22	
	死亡	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		
	実数	35		1		16		7		23		0		26		28		45		22		17		54		274		
	延数	36		3		18		8		26		0		29		30		50		24		18		54		296		
科	一日平均	1.2		0.0		0.5		0.2		0.7		0.0		0.8		0.9		1.5		0.7		0.6		1.7		0.7		
泌尿器科	入院	0	15	0	15	1	16	1	15	1	22	0	18	0	16	1	14	0	12	2	17	2	13	0	6	8	179	
	退院	0	13	0	12	0	19	0	13	1	22	0	20	0	16	0	15	0	15	0	14	0	15	0	9	1	183	
	死亡	0		0		0		0		0		0		0		0		0		2		0		1		3		
	実数	99		108		179		172		230		148		142		160		108		154		100		53		1,653		
	延数	112		120		198		185		252		168		158		175		123		170		115		63		1,839		
科	一日平均	3.3		3.5		6.0		5.5		7.4		4.9		4.6		5.3		3.5		5.0		3.6		1.7		4.5		
大腸・肛門外科	入院	5	229	10	219	7	209	11	208	10	215	3	191	16	226	4	195	7	191	8	223	5	211	6	197	92	2,514	
	退院	3	226	0	217	2	212	3	228	5	211	1	204	2	215	1	202	2	243	2	181	2	214	2	217	25	2,570	
	死亡	1		1		2		1		0		1		0		1		1		1		0		0		9		
	実数	1,388		1,319		1,616		1,562		1,515		1,577		1,808		1,506		1,369		1,337		1,616		1,551		18,164		
	延数	1,615		1,537		1,830		1,791		1,726		1,782		2,023		1,709		1,613		1,519		1,830		1,768		20,743		
科	一日平均	46.3		42.5		53.9		50.4		48.9		52.6		58.3		50.2		44.2		43.1		57.7		50.0		49.6		
産婦人科	入院	1	40	0	43	0	47	2	38	1	45	0	52	1	52	0	47	2	47	0	57	0	37	1	61	8	566	
	退院	2	40	0	41	0	46	0	42	1	46	0	53	0	46	0	45	2	57	0	52	0	36	0	61	5	565	
	死亡	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		
	実数	235		204		235		231		243		224		275		257		285		334		257		352		3,132		
	延数	275		245		281		273		289		277		321		302		342		386		293		413		3,697		
科	一日平均	7.8		6.6		7.8		7.5		7.8		7.5		8.9		8.6		9.2		10.8		9.2		11.4		8.6		
眼科	入院	0	20	0	27	0	32	0	32	0	17	0	27	0	32	0	55	0	54	0	30	0	28	0	19	0	373	
	退院	0	20	0	27	0	32	0	32	0	16	0																

科別	診療月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計													
実日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366													
耳鼻咽喉科	入院	0	11	1	10	0	8	1	5	0	10	0	6	0	12	1	12	1	11	0	10	1	8	6	114		
	退院	0	11	0	12	0	8	0	5	0	9	0	7	0	13	0	12	0	12	0	12	0	10	0	11	0	122
	死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	実数	54	41	36	29	51	44	71	63	65	53	71	64	64	642												
	延数	65	53	44	34	60	51	84	75	77	65	81	75	764													
一日平均	1.8	1.3	1.2	0.9	1.6	1.5	2.3	2.1	2.1	1.7	2.4	2.1	1.8														
放射線科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	退院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	実数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0												
	延数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0													
一日平均	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0														
歯科	入院	0	2	0	1	0	1	0	2	0	1	0	3	0	3	0	1	0	4	0	3	0	2	0	24		
	退院	0	2	0	1	0	1	0	2	0	1	0	3	0	2	0	2	0	4	0	2	0	3	0	24		
	死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	実数	6	3	2	6	3	3	9	8	5	9	7	7	68													
	延数	8	4	3	8	4	4	12	10	7	13	9	10	92													
一日平均	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	0.2	0.2														
各科合計	入院	80	708	111	708	107	740	164	768	144	769	115	680	118	756	101	753	129	797	114	815	116	739	106	731	1,405	8,964
	退院	80	691	111	678	107	720	164	759	144	742	115	708	118	703	101	723	129	878	114	658	116	733	106	767	1,405	8,760
	死亡	12	12	9	10	13	16	14	16	22	26	14	23	187													
	実数	7,318	7,276	7,469	8,388	8,387	7,762	8,083	7,845	8,306	8,542	8,620	8,693	96,689													
	延数	8,021	7,966	8,198	9,157	9,142	8,486	8,800	8,584	9,206	9,226	9,367	9,483	105,636													
一日平均	243.9	234.7	249.0	270.6	270.5	258.7	260.7	261.5	267.9	275.5	297.2	280.4	264.2														

■ 2023年度 科別外来患者数

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一日平均
診療実日数	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243	
内科	8,097	7,986	8,931	8,491	8,676	8,325	8,374	8,162	8,362	8,158	7,761	8,414	99,737	410.4
小児科	366	444	556	538	471	403	511	560	481	408	373	412	5,523	22.7
外科	991	972	1,020	881	961	933	945	957	945	841	957	995	11,398	46.9
整形外科	1,133	1,132	1,264	1,217	1,222	1,238	1,212	1,185	1,217	1,270	1,259	1,287	14,636	60.2
脳神経外科	376	375	423	371	399	362	370	413	368	359	376	388	4,580	18.8
皮膚科	554	566	572	560	673	578	584	570	530	563	561	542	6,853	28.2
泌尿器科	540	525	576	517	589	577	567	562	585	527	530	567	6,662	27.4
大腸・肛門外科	2,727	2,650	2,939	2,613	2,692	2,506	2,612	2,613	2,601	2,508	2,639	2,677	31,777	130.8
産婦人科	898	943	1,036	919	968	1,011	1,092	989	1,077	913	952	1,131	11,929	49.1
眼科	986	1,004	954	844	592	904	1,025	907	1,006	724	685	847	10,478	43.1
耳鼻咽喉科	300	326	340	352	340	372	390	386	416	416	349	364	4,351	17.9
放射線科	26	19	15	13	7	8	14	8	13	9	12	8	152	0.6
歯科口腔外科	682	685	679	628	666	670	694	663	648	609	655	660	7,939	32.7
麻酔科	34	42	48	41	42	37	55	39	47	41	36	34	496	2.0
メンタルヘルズ科	104	94	97	111	106	91	105	100	95	88	99	98	1,188	4.9
合計	17,814	17,763	19,450	18,096	18,404	18,015	18,550	18,114	18,391	17,434	17,244	18,424	217,699	895.9
一日平均	890.7	888.2	884.1	904.8	836.5	900.8	883.3	905.7	919.6	917.6	907.6	921.2	895.9	

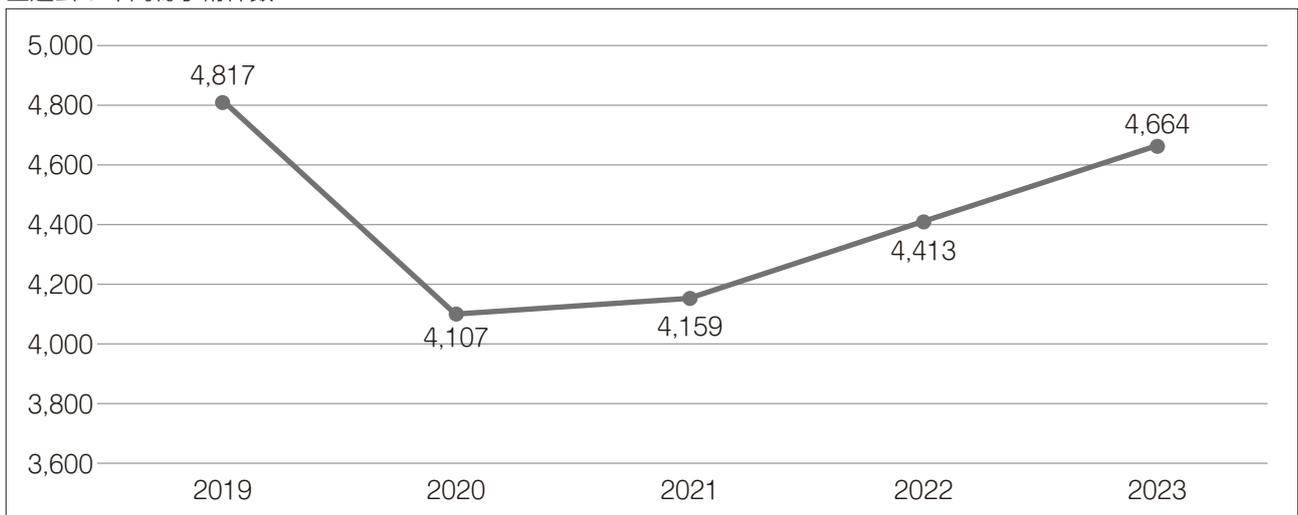
■ 2023年度 分娩数・出生新生児数

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一日平均
診療実日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366	
分娩数	14	12	10	10	21	17	20	13	17	21	24	18	197	0.5
出生新生児入院数	96	71	53	74	93	93	124	95	105	122	70	108	1,104	3.0

■科別手術件数

診療科	2023年度
一般外科	419
心臓外科	55
呼吸器外科	60
形成外科	67
肛門科	2,321
脳神経外科	16
整形外科	829
産婦人科	289
眼科	384
耳鼻咽喉科	45
皮膚科	0
泌尿器科	155
透析科	0
歯科口腔外科	23
内科	1
合計	4,664
(全身麻酔)	2,044

■過去5年間総手術件数

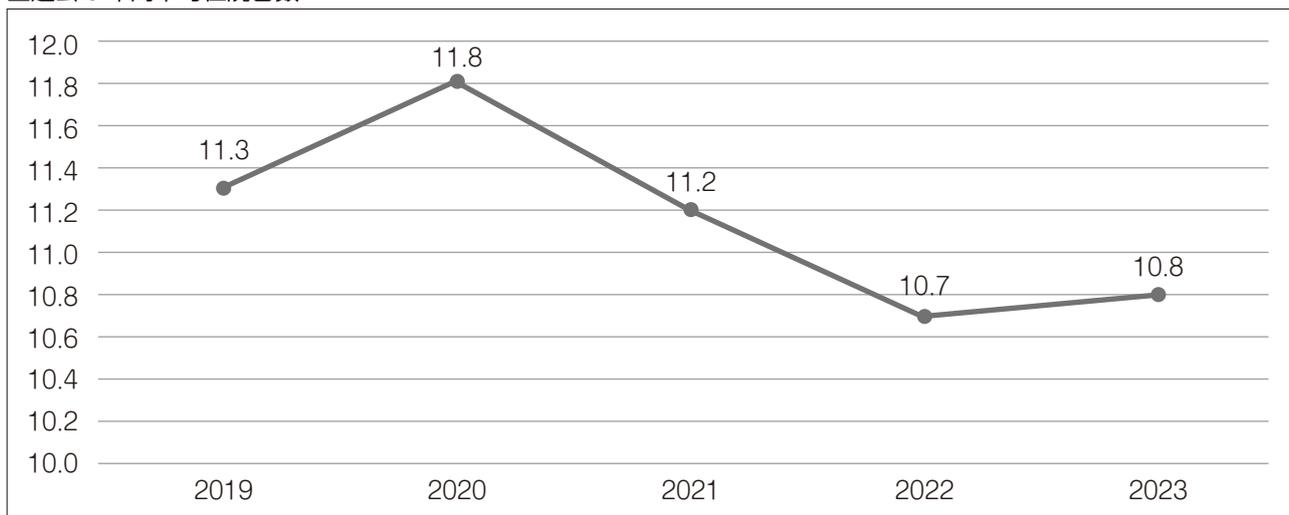


■ 2023 年度平均在院日数調べ

病棟	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5 階 東 病 棟	入院													0
	退院													0
	死亡													0
	延数													0
	平均在院													0
5 階 西 病 棟	入院	133	121	129	146	143	126	136	138	152	144	140	143	1,651
	退院	137	125	121	138	148	131	128	135	169	130	134	156	1,652
	死亡	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
	延数	876	732	636	928	879	787	795	811	893	948	989	1,009	10,283
	平均在院	6.5	6.0	5.1	6.5	6.0	6.1	6.0	5.9	5.6	6.9	7.2	6.7	6.2
6 階 東 病 棟	入院	87	94	86	105	111	92	113	97	92	110	97	83	1,167
	退院	87	101	96	105	118	101	118	99	120	89	99	98	1,231
	死亡	2	4	2	3	4	4	3	1	6	9	2	4	44
	延数	1,178	1,077	1,102	1,226	1,200	1,095	1,159	1,134	1,172	1,222	1,235	1,195	13,995
	平均在院	13.4	10.8	12.0	11.5	10.3	11.1	9.9	11.5	10.8	11.8	12.5	12.9	11.5
6 階 西 病 棟	入院	20	84	100	76	94	84	68	74	75	100	96	81	952
	退院	13	61	104	73	81	94	70	63	85	69	88	78	879
	死亡	0	1	2	1	3	2	5	4	6	4	2	4	34
	延数	148	593	962	1,035	1,177	1,034	919	951	1,084	1,102	1,099	1,161	11,265
	平均在院	9.0	8.1	9.3	13.8	13.2	11.5	12.9	13.5	13.1	12.7	11.8	14.2	12.1
7 階 東 病 棟	入院	112	120	114	133	113	93	96	125	142	145	102	122	1,417
	退院	108	115	105	134	118	102	96	123	156	118	102	125	1,402
	死亡	3	1	2	2	0	1	0	2	3	4	2	4	24
	延数	1,237	1,106	1,169	1,279	1,254	1,239	1,255	1,131	1,220	1,185	1,282	1,267	14,624
	平均在院	11.1	9.4	10.6	9.5	10.9	12.6	13.1	9.0	8.1	8.9	12.4	10.1	10.3
7 階 西 病 棟	入院	100	89	98	84	86	96	121	107	117	99	101	101	1,199
	退院	108	93	90	91	72	95	96	102	135	78	108	105	1,173
	死亡	4	1	1	2	4	4	0	1	1	2	1	4	25
	延数	1,252	1,161	1,037	1,120	1,066	960	1,204	1,192	1,233	1,276	1,251	1,292	14,044
	平均在院	11.8	12.7	11.0	12.7	13.2	9.8	11.1	11.4	9.7	14.3	11.9	12.3	11.7
8 階 東 病 棟	入院	80	58	69	72	76	57	72	64	67	69	46	60	790
	退院	88	57	74	67	72	58	69	65	71	55	55	71	802
	死亡	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	3
	延数	1,281	1,297	1,218	1,332	1,343	1,267	1,293	1,304	1,291	1,305	1,290	1,303	15,524
	平均在院	15.3	22.6	17.0	19.2	18.1	21.8	18.3	20.1	18.7	21.0	25.3	19.9	19.5
8 階 西 病 棟	入院	160	125	133	139	134	114	142	133	133	129	137	123	1,602
	退院	150	124	130	148	132	125	126	131	141	118	145	131	1,601
	死亡	1	3	1	0	1	1	1	4	2	6	1	2	23
	延数	1,199	1,171	1,203	1,316	1,326	1,227	1,310	1,186	1,267	1,341	1,313	1,292	15,151
	平均在院	7.7	9.3	9.1	9.2	9.9	10.2	9.7	8.9	9.2	10.6	9.3	10.1	9.4
I C U	入院	16	17	11	13	12	18	8	15	19	19	20	18	186
	退院	0	2	0	3	1	2	0	5	1	1	2	3	20
	死亡	2	2	1	2	1	3	4	2	4	1	5	5	32
	延数	147	139	142	152	142	153	148	136	146	163	161	174	1,803
	平均在院	16.3	13.2	23.7	16.9	20.3	13.3	24.7	12.4	12.2	15.5	11.9	13.4	15.2
総 合 計	入院	708	708	740	768	769	680	756	753	797	815	739	731	8,964
	退院	691	678	720	759	742	708	703	723	878	658	733	767	8,760
	死亡	12	12	9	10	13	16	14	16	22	26	14	23	187
	延数	7,318	7,276	7,469	8,388	8,387	7,762	8,083	7,845	8,306	8,542	8,620	8,693	96,689
	平均在院	10.4	10.4	10.2	10.9	11.0	11.1	11.0	10.5	9.8	11.4	11.6	11.4	10.8

		4~6	5~7	6~8	7~9	8~10	9~11	10~12	11~1	12~2	1~3
直 近 三 か 月	入院	2,156	2,216	2,277	2,217	2,205	2,189	2,306	2,365	2,351	2,285
	退院	2,089	2,157	2,221	2,209	2,153	2,134	2,304	2,259	2,269	2,158
	死亡	33	31	32	39	43	46	52	64	62	63
	延数	22,063	23,133	24,244	24,537	24,232	23,690	24,234	24,693	25,468	25,855
	平均在院	10.3	10.5	10.7	11.0	11.0	10.8	10.4	10.5	10.9	11.5

■過去5年間平均在院日数



■救急外来患者数（休日・全夜間）

2023年度	取扱患者数	内 訳		
		救急車	入院	(内救急車)
4月	259	152	85	52
5月	309	171	117	71
6月	225	141	86	61
7月	288	157	130	78
8月	293	159	113	65
9月	274	153	114	73
10月	252	144	100	64
11月	234	133	89	57
12月	323	162	130	80
1月	288	140	119	73
2月	249	138	115	79
3月	228	138	89	60
合計	3,222	1,788	1,287	813

■ 2023年度 科別入院患者数

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一日平均
診療実日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366	
内 科	3,656	3,565	3,373	4,053	4,204	3,731	3,785	3,529	4,106	4,226	4,169	4,164	46,561	127.2
小 児 科	64	32	26	20	48	35	54	43	61	34	26	17	460	1.3
外 科	578	620	640	616	494	515	409	604	555	639	736	707	7,113	19.4
整形外科	1,061	1,288	1,290	1,560	1,359	1,252	1,381	1,456	1,485	1,513	1,438	1,531	16,614	45.4
脳神経外科	137	80	45	119	211	222	107	156	181	201	163	186	1,808	4.9
皮 膚 科	35	1	16	7	23	0	26	28	45	22	17	54	274	0.7
泌尿器科	99	108	179	172	230	148	142	160	108	154	100	53	1,653	4.5
大腸・肛門外科	1,388	1,319	1,616	1,560	1,515	1,577	1,808	1,506	1,369	1,337	1,616	1,551	18,162	49.6
産 婦 人 科	235	204	235	231	243	224	275	257	285	334	257	352	3,132	8.6
眼 科	5	15	11	15	6	11	16	35	41	20	20	7	202	0.6
耳鼻咽喉科	54	41	36	29	51	44	71	63	65	53	71	64	642	1.8
放 射 線 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
歯科口腔外科	6	3	2	6	3	3	9	8	5	9	7	7	68	0.2
合 計	7,318	7,276	7,469	8,388	8,387	7,762	8,083	7,845	8,306	8,542	8,620	8,693	96,689	264.2
一 日 平 均	243.9	234.7	249.0	270.6	270.5	258.7	260.7	261.5	267.9	275.5	297.2	280.4	264.2	

■ 2023年度 科別外来患者数

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	一日平均
診療実日数	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243	
内 科	8,097	7,986	8,931	8,491	8,676	8,325	8,374	8,162	8,362	8,158	7,761	8,414	99,737	410.4
小 児 科	366	444	556	538	471	403	511	560	481	408	373	412	5,523	22.7
外 科	991	972	1,020	881	961	933	945	957	945	841	957	995	11,398	46.9
整形外科	1,133	1,132	1,264	1,217	1,222	1,238	1,212	1,185	1,217	1,270	1,259	1,287	14,636	60.2
脳神経外科	376	375	423	371	399	362	370	413	368	359	376	388	4,580	18.8
皮 膚 科	554	566	572	560	673	578	584	570	530	563	561	542	6,853	28.2
泌尿器科	540	525	576	517	589	577	567	562	585	527	530	567	6,662	27.4
大腸・肛門外科	2,727	2,650	2,939	2,613	2,692	2,506	2,612	2,613	2,601	2,508	2,639	2,677	31,777	130.8
産 婦 人 科	898	943	1,036	919	968	1,011	1,092	989	1,077	913	952	1,131	11,929	49.1
眼 科	986	1,004	954	844	592	904	1,025	907	1,006	724	685	847	10,478	43.1
耳鼻咽喉科	300	326	340	352	340	372	390	386	416	416	349	364	4,351	17.9
放 射 線 科	26	19	15	13	7	8	14	8	13	9	12	8	152	0.6
歯科口腔外科	682	685	679	628	666	670	694	663	648	609	655	660	7,939	32.7
麻 酔 科	34	42	48	41	42	37	55	39	47	41	36	34	496	2.0
メンタルヘルズ科	104	94	97	111	106	91	105	100	95	88	99	98	1,188	4.9
合 計	17,814	17,763	19,450	18,096	18,404	18,015	18,550	18,114	18,391	17,434	17,244	18,424	217,699	895.9
一 日 平 均	890.7	888.2	884.1	904.8	836.5	900.8	883.3	905.7	919.6	917.6	907.6	921.2	895.9	

## 各部門の実績と目標

## ■スタッフ

内科は総勢 45 名の各臓器別専門領域医師で構成されています。2014 年度より「内科」改め「総合内科」とし、総合医マインドを持つ診療を心がけています。

<各専門領域の構成および責任者>

分野	責任者	
救急科・総合診療科	院長補佐 部長	笠井 昭吾
各専門分野	責任者	
消化器 (炎症性腸疾患センター)	センター長 部長 部長	深田 雅之 酒 匂 美奈子 岩本 志穂
消化器 (消化管)	部長	齋藤 聡
消化器 (肝臓)	院長補佐 部長	三浦 英明
呼吸器	部長 部長	大河内 康実 笠井 昭吾
循環器	部長 部長	薄井 宙男 鈴木 篤
集中治療科	部長	吉川 俊治
血液	部長	米野 由希子
腎臓・透析	部長	鈴木 淳司
糖尿病・内分泌	部長	山下 滋雄
リウマチ・膠原病科	部長	金子 駿太

## ■診療内容

2021 年度、新たにリウマチ・膠原病科を立ち上げました。患者数 3000 名以上と国内屈指の診療実績を誇る炎症性腸疾患センターをはじめとして、各専門分野で多くの専門医を有し、それぞれの領域で高いレベルの医療、大学病院に引けを取らない医療を提供しています。そして高い専門性を有しつつ、その中で「内科」として 1 つの科にまとまっており、専門領域間の「垣根が低い」のではなく「垣根がない」チームワーク・総合力を持っています。スペシャリストが集まり、チームとして行う総合診療は、他の病院にはない、当院内科の大きな特徴です。

## ■2023 年度実績

- ・総外来患者数：99,737 人
- ・平均外来患者数：410.5 人 / 日
- ・紹介患者数：全科；10,144 人、内科；2,718 人
- ・総入院患者数（内科）：3,582 人

- ・平均入院患者数（内科）：127.3 人 / 日
- 詳細は各専門分野を参照下さい。

## ■2024 年度の取り組み

内科全体の平均入院患者数 143 人 / 日を目指します。2024 年度も引き続き、各専門領域の高い専門性は維持しつつも総合医マインドを持った診療に努めていきます。

### 【地域医療連携】

地域医療支援病院として地域包括ケアの推進に更に力を入れていきます。

また引き続き新宿区の在宅緊急一時入院病床制度に協力し、新宿区の在宅療養患者さんの緊急入院病床を確保します。在宅療養後方支援病院としての役割にも引き続き積極的に取り組みます。

### 【救急診療体制】

2019 年度より救急科・総合診療科として日中の救急診療体制を強化しています。夜間・休日は従来通り内科救急と循環器救急を設け、救急対応 24 時間体制で行っています。年間救急車受け入れ数（全科）は 2023 年度は 3,621 台でした。応需率は 84.4% でした。引き続き応需数増に努めるとともに、応需率アップに取り組みます（JCHO 目標 85%）。

### 【研修医教育】

JCHO の基本方針の一つに「総合医の育成」が挙げられています。初期臨床研修に加え、2018 年度から内科、総合診療領域で専門研修プログラムによる研修を行っており、継続します。

## ■スタッフ

救急科・総合診療科部長 笠井昭吾  
救急科医長 鈴木淳司  
救急科顧問 武田泰明、飯島卓夫  
非常勤医師 岩田裕子、鈴木菜由、野口啓、  
結城将明、川島秀明、大道寺洋顕、  
中西直子、石橋なぎさ、三橋昌平  
救急クラーク 山本美由紀

## ■診療方針と内容

・日中の救急診療体制の充実（内科領域中心）  
・地域医療に貢献する医師の育成、総合医マインドを持つ医師の育成  
2019年4月より、「地域診療・救急部門」改め、救急科・総合診療科として新たなスタートを切りました。2016年4月より、地域に根差した救急医療を提供する部門として「地域診療・救急部門」を設立、当院の弱点であった救急診療、そして11時以降の紹介患者様の初期対応も充実しました。2019年度からは、救急科・総合診療科として引き続き地域の先生方の後方支援に努めています。

## ■2023年度実績

・救急搬送患者数：  
全科；3,621台（夜間・休日：1,788台）、  
内科；2,746台（夜間・休日：1,502台）  
・救急車応需率：84.37%  
救急応需数目標の3,600台（＝300台/月）をクリアしました。また2023年度は応需率の改善に取り組みました。JCHO全体での目標は85%、当院個別目標は80.1%とされており、84.37%と当院個別目標をクリアしました（2022年度実績69.7%から大幅アップ）。

## ■2024年度の取り組み

・日中8時半～17時の救急患者の診療（内科領域中心）を行っています。  
・2024年4月より常勤救急医：小川菜生子医師を迎えました。後記の目標達成に向けともに取り組んでいきます。  
・2024年度は、応需数3,600台、応需率85%、救急搬送者の入院率50%を目標に取り組みます。

## ■受診案内

- ・当院内科各専門領域外来は、11時までの受付となっています。しかし11時以降でも、緊急性の高い患者の場合、まずは地域医療連携室にご連絡下さい。内科専門領域医と協力しつつ、緊急性の高い患者（救急搬送が必要な患者）の場合、当部門のスタッフが初期対応させていただきます。
- ・救急搬送が不要な患者の場合は、地域医療連携室長（三浦部長）がトリアージを行い、専門領域医が各科外来で対応します。

★なお当科は、内科救急診療をメインとしており、原則再診は行っていません。救急搬送患者、平日11時～17時の緊急性の高い紹介患者対応を行います。緊急性が高くない患者は、内科に紹介下さい。不明熱など総合診療的な鑑別が必要な患者に関しても、内科に紹介下さい。11時まで内科初診外来を設けています。

## ■スタッフ

消化器内科として、消化管・胆膵、炎症性腸疾患、肝臓内科があり、全体で協力しながら診療にあたっている。当科では、食道から肛門に至る消化管、胆膵疾患を中心とした診療を行っている。下記スタッフのみならず、炎症性腸疾患内科医師にも消化管、胆膵疾患の患者の診療を依頼している。

### <スタッフ構成>

部長	齋藤	聡
医長	佐野	弘仁
医員	廣瀬	雄紀
医員	齋藤	悠一
医員	立石	翔
レジデント	茂木	智拓

## ■診療内容

消化管早期癌に対して、NBI、拡大内視鏡を含めた内視鏡診断とX線診断の両者から正確な範囲診断、深達度診断を行うようにしている。治療については主に内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)であるが、病変の大きさや部位によってはデバイスの工夫や内視鏡的粘膜切除術(EMR)も行うなど症例に応じて行っている。

当院は炎症性腸疾患の患者が多いことから、小腸疾患の症例も豊富である。それに対して、シングルバルーン内視鏡(SBE)、カプセル内視鏡(CE)、小腸造影検査など適切な検査により的確な診断と治療を行っている。

消化管良性狭窄に対するバルーン拡張等の透視下内視鏡は炎症性腸疾患内科と協力しながら行っている。

また食道、胃・十二指腸、大腸の悪性狭窄に対しては術前の減圧や緩和目的にステント留置を行っている。

胆膵疾患については内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)、細胞診などによる診断や閉塞性黄疸に対する減黄術(ENBD, ERBD, ステント)やEST, EPBDなどによる総胆管結石の治療を積極的に行っている。近年は90歳以上の超高齢者に対するERCPが急増している。

手術適応のない消化管、胆膵悪性腫瘍に対する化学療法も行っている。化学療法の導入後には外来での治療も行っている。免疫チェックポイント阻害薬の使用も開始した。

## ■2023年度実績

ルーチン検査、大腸ポリープ切除・EMR等の件数は内視鏡センターの項を参照。

胃・十二指腸EMR	3件
ESD 上部	12件
大腸	22件
APC	5件
ERCP 関連手技	115件
結石治療	43件
EST	38件
EPBD	1件
ERBD	56件
金属ステント	11件
ENBD	16件 (重複あり)
消化管ステント	10件

## ■2024年度の取り組み

2023年度は上部消化管内視鏡は増加した。検査数が増加すれば早期癌の発見も増加し、治療に繋がると考えられる。大腸内視鏡を増やすためには挿入技術の向上さらに必要である。

ESDやERCP等の治療技術を持ったスタッフ複数在籍しているため治療内視鏡はさらに増やすことが出来ると考えている。救急外来と連携して、止血術を中心とした緊急内視鏡も行っていく。

当院の課題は超音波内視鏡である。導入するためには経験豊富なスタッフが必要である。

引き続き臨床研修医、消化器内科レジデントへの知識、技術の教育にも力を入れていきたい。

2023年度は入院患者数が増加したが病診および病病連携に力を入れることにより、消化器内科外来および救急外来からの入院患者受け入れをさらに増やせるものと考えている。

## ■スタッフ

当センターは診療科の垣根を越えて、上下部消化管および胆膵の内視鏡検査および内視鏡治療にあたっている。

### <スタッフ構成>

センター長 齋藤聡（消化器内科診療部長兼務）  
消化器内科（消化管・胆膵、炎症性腸疾患、肝臓）、外科、大腸肛門外科などの医師が検査・治療を担当。

気管支鏡検査は呼吸器内科・外科医師が行っている。

非常勤医 7人

（上下部消化管内視鏡検査を担当）

## ■診療内容

午前中は主に上部消化管内視鏡検査で、健診・ドックの内視鏡も含めて、消化器内科・外科の医師などが行っている。ルーチンの内視鏡検査に加え、NBI、拡大内視鏡なども適宜行っている。今年度は経鼻内視鏡、鎮静下内視鏡が増えたため、7年ぶりに検査数が年間 5000 件を超えた。

午後は、大腸内視鏡が中心で、外来にて切除可能なポリープはその場で切除している。近年は小さなポリープの場合にはコールドポリペクトミーを行うことが多い。

水曜日午後に内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、月・木曜日午後に内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）関連の検査 / 治療、シングルバルーン小腸内視鏡、バルーン拡張等の透視下内視鏡を行っている。

内視鏡的止血、異物除去等の緊急内視鏡は年間 197 件であった。

食道静脈瘤に対する治療は、主に肝臓内科医師により、内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL）を行っている。

消化管の早期癌に対する治療としては ESD、EMR を行っている。ESD は食道、胃、大腸の症例に対応可能であり、十二指腸の小病変に対しては EMR を行っている。

進行癌による消化管狭窄に対するメタリックステントも食道だけではなく、胃・十二指腸、大腸にも対応可能である。

小腸疾患に対するアプローチとして、当院は小腸造影の技術も高いが、それに加えてシングルバ

ルーン小腸内視鏡（SBE）、カプセル内視鏡も常備している。

胆膵疾患については ERCP 関連手技（ENBD、ERBD、ステント、EST、EPBD など）を行っている。

呼吸器内科・外科での気管支内視鏡検査では特に超音波気管支鏡（EBUS）症例も多い。

## ■ 2023 年度実績

上部消化管内視鏡検査	5,105 件
EMR	3 件
ESD	12 件
内視鏡的止血	39 件
異物除去	6 件
EVL	4 件
胃瘻 造設 12 件、	交換 17 件
大腸内視鏡検査	4,565 件
ポリペクトミー	908 件
EMR	336 件
ESD	22 件
内視鏡的止血	21 件
小腸カプセル内視鏡	69 件
シングルバルーン小腸内視鏡	19 件
バルーン拡張	30 件
気管支内視鏡検査	97 件

## ■ 2024 年度の取り組み

2023 年度は前述のように上部は 5,000 件を超え、目標を達成することが出来た。しかし下部についてはコロナ禍と比べて横ばいである。検査数を増やすためには被検者の苦痛を軽減するように各医師の技術の向上が必要である。そのため若手医師の教育が重要と考えている。

苦痛の少ない内視鏡の実現により医療連携は強化されると考えられ、それに伴って検査数の増加、さらには早期消化管癌の内視鏡治療、胆膵内視鏡治療や緊急内視鏡の増加を目指したい。

## ■スタッフ

肝臓内科ではウイルス性・代謝性・自己免疫性肝疾患から肝細胞癌の診断・治療など肝疾患全般にわたる診療を行っている。

<スタッフ構成>  
部長 三浦 英明

## ■診療内容

2014年にC型慢性肝炎に対して、我が国初である経口薬だけの直接作用型抗ウイルス薬(DAA)が登場した。HCVセログループ1型の肝炎患者さんに対して、ダクラタスビル(ダクルインザ®)+アスナブレビル(スンペブラ®)/24週による抗ウイルス療法が可能となった。これに引き続いて2015年にはHCVセログループ2型の患者さんに対しても経口2剤ソホスブビル(ソバルディ®)+リバビリジン/12週の抗ウイルス療法が可能となり、それまでIFN中心であった治療法から経口薬だけで治る時代へと激変した。さらに同年セログループ1型の患者さんに対しては新たにレジパスビル/ソホスブビル配合錠(ハーボニー®)、パリタプレビル/オムビタスビル/リトナビル配合錠(ヴィキラックス®)/12週による治療が導入され、2016年になるとHCVの薬剤耐性変異の有無を測定する必要がなく、透析患者さんにも使用可能なグラゾプレビル(グラジナ®)+エルバスビル(エレルサ®)/12週が導入された。DAAによる治療は副作用が少なく、短期間で完治する夢のような治療で、それまで高齢や副作用で治療をあきらめていた患者さんが次々と治るようになった。2017年にはセログループに関係なく、どのウイルスタイプにも効果を発揮し、また腎不全患者さんにも使用可能で、治療期間も8週とこれまでより最短で治療できるグレカプレビル/ピブレンタスビル(マヴィレット®)が登場した。さらに非代償性肝硬変の患者さんにもソホスブビル/ベルパタスビル(エブクルーサ®)が保険適用となり、ここにおいてDAAによる治療は完成されたものとなっている。当科ではこれらの治療薬を駆使してこれまでに236例のC型肝炎の患者さんにDAA治療を導入し、HCV-RNA陰性化による肝炎の進展防止・肝癌発生防止に努めてきた。さまざまなDAAが登場してきたが、現在はマヴィレット®とエブクルーサ®の2剤に集約されている。

肝細胞癌に対してはラジオ波凝固療法(RFA)による局所療法、肝動脈化学塞栓療法(TACE)、早期からの分子標的阻害薬の導入など個々の肝癌患者さんの臨床背景を考慮した治療法を選択し、予後の改善に結びつくように努力している。2020年に切除不能の肝細胞癌に対して免疫チェックポイント阻害剤であるアテゾリズマブ(テセントリク®)とベバシズマブ(アバスチン®)の併用療法が承認され、2023年3月には免疫チェックポイント阻害剤トレメリムマブ(イジユド®)とデュルバルマブ(イミフィンジ®)2剤併用療法が新たに保険適用となった。免疫チェックポイント阻害薬による化学療法も徐々に導入されているが、

これらのなかにはPRの症例も出現しており、肝細胞癌の治療においては新たな局面が展開されつつある。

肝炎ウイルスマーカー陰性の慢性あるいは急性の肝障害の中には自己免疫性肝炎(AIH)、原発性胆汁性胆管炎(PBC)といった疾患が混在していることがしばしばある。これらは決してまれな疾患ではなく、当科では積極的に肝生検を行い、的確に診断・病勢評価を行い治療に結びつけており、現在AIHとPBCあわせて100例以上をフォローしている。

単純性脂肪肝と非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)との鑑別は、時には肝生検による積極的な診断を行い、診断確定後はインスリン抵抗性改善薬を導入するなど病態に沿った治療を行っている。

アルコール性肝障害は、禁酒の指導と主に肝硬変の患者さんの病態に対応している。

## ■2023年度実績

### 【外来通院中】

・C型慢性肝炎(IFN、DAA後症例も含む)	174例
ダクラタスビル+アスナブレビル	18例
ソホスブビル+リバビリジン	21例
レジパスビル/ソホスブビル	44例
パリタプレビル/オムビタスビル/リトナビル	5例
グラゾプレビル/エルバスビル	6例
グレカプレビル/ピブレンタスビル	35例
ソホスブビル/ベルパタスビル	9例
・B型慢性肝炎	164例
核酸アナログ製剤治療	90例
・自己免疫性肝炎(AIH)	47例
・原発性胆汁性胆管炎(PBC)	76例
・非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)	25例
・アルコール性肝障害(ALD)	43例
・肝細胞癌(HCC)(治療後寛解症例も含む)	77例
分子標的薬治療	0例
免疫チェックポイント阻害剤	3例

### 【入院実績】

・肝細胞癌に対する内科的治療	
肝動脈化学塞栓療法(TACE)	12件
ラジオ波焼灼療法(RFA)	11件
・経皮的肝生検	5件

## ■2024年度の取り組み

HCV陽性の慢性肝炎患者さんに対しては、経口薬によるDAA治療を2023年度までに236例に導入し肝発癌の予防に努めてきたが、これまで同様に病診連携を積極的に行い、治療に結びつけていきたいと考えている。

DAA治療後にHCV-RNAが陰性になったにも関わらず、肝発癌してくる症例が少なからず存在する。HCVが消失すると通院しなくなってしまう患者さんが増加しているが、ドロップアウトしないように啓蒙し、画像診断によるHCCのスクリーニングを強化して、早期治療をめざしていく。

## 炎症性腸疾患内科(炎症性腸疾患センター) 部長・センター長 深田 雅之

### ■スタッフ

当センターは、炎症性腸疾患という難病に対する探究心と情熱を持った医師とコメディカルのスタッフが、様々な垣根を超えて全国から集まって構成されており、個々の特徴を生かして多角的なアプローチを行なっています。

#### <スタッフ構成>

センター長・部長	深田 雅之
顧問	高添 正和
部長	酒匂美奈子
部長	岩本 志穂
医長	園田 光
医長	岡野 荘
医員	山崎 大
医員	西口 貴則
医員	大久保 亮
研究員	岡山 和代

### ■診療内容

炎症性腸疾患（IBD）センターでは、豊富な診療経験を生かして、クローン病と潰瘍性大腸炎を中心に、慢性の炎症性腸疾患診療を行っています。

IBDの診療では必須となる小腸の検査は、個々の症例に合わせて、経験豊富な小腸造影検査、内視鏡センターにおける小腸内視鏡、侵襲の少ないカプセル内視鏡、そしてMR enterographyなどを組み合わせて病状病態を迅速に把握できる体制を整えました。

治療に関しては、エビデンスとリスク因子に基づき各治療薬の作用機序が相当する病態病勢を見極めることで、治療効果を最大限発揮させる工夫をしています。またベストなタイミングでIBDの外科的治療および繊細な術前術後管理が行える様に内科医と外科医が連携をとっています。

当センターでは、在宅中心静脈栄養や在宅成分経管栄養の管理、IBDを専門とする管理栄養士による効果的な栄養指導を積極的に行っています。当院ホームページにて成分栄養を含むIBDの食事レシピを定期的に更新していますのでご覧ください。

### ■2023年度実績

新患紹介患者数	362名
外来患者総数	24,909名
入院患者総数	9,156名

### ■2024年度の取り組み

IBD患者は年々増加しており、どの規模の医療施設でも、日常診療でよく遭遇する疾患となってきました。今年度からは新たなメンバーも増え、当センターはより充実しています。2024年度も引き続き以下の3点において、全国のIBD患者さん、実地医家の先生方とのネットワークを広げる活動を展開したいと考えています。

- ①当院の特徴を生かした情報発信。
- ②IBDの各専門性を持ったスタッフの育成。
- ③IBD医療連携の拡充、より迅速かつ柔軟な対応を促す体制作り。

**■スタッフ**

呼吸器疾患は肺腫瘍、呼吸器感染症、アレルギー性疾患、間質性肺炎など多岐にわたる。当科ではこれらの全てについて全員で積極的に診療を行っている。

## &lt;スタッフ構成&gt;

部長 大河内康実  
部長 笠井 昭吾 (救急科・総合診療科部長兼任)  
医長 東海林寛樹  
医員 井窪祐美子  
長島 哲理  
服部 元貴  
小堀 朋子

## レジデント

井上 智康 (4～9月)  
高嶋 紗衣 (10～3月)  
吉永 忠嗣  
田中 健太  
鈴木 祐平  
井村 慎吾

## 非常勤

徳田 均 (元常勤顧問)

**■診療内容**

当院の呼吸器内科の入院患者の特徴は、同規模の施設と比べて「びまん性肺疾患」と総称される疾患群(肺に広汎な陰影を呈する疾患;間質性肺炎、薬剤性肺障害、膠原病関連肺疾患、一部の感染症など)が多いことが挙げられる。これらの疾患に対して、詳細な問診、自宅調査、血清学的検査(原因物質への抗体保有の有無など)、画像検査、気管支鏡検査(気管支肺胞洗浄や経気管支肺生検)などを行い総合的に診断し治療を行っている。内科的な検索を行っても診断困難な症例では、呼吸器外科に依頼して外科的肺生検を行い診断に努めている。このような診断努力により慢性過敏性肺炎と診断し、ステロイド治療だけではなく抗原回避による進行の抑制が可能となった症例を経験しており、正確な診断が治療に結びついていると自負している。

近年は特発性の気管支拡張症及び二次性の気管支拡張症(関節リウマチの気道病変、炎症性腸疾患の気道病変)の患者数が増加している。

肺炎、肺化膿症、胸膜炎などの感染症については、

近隣の医院、呼吸内科を持たない医療機関、救急受診などを通して入院している。難治症例の転院要請には可能な限り受け入れている。ウロキナーゼ供給停止により、膿胸治療は外科的対応の判断を要する症例が増加し、呼吸器外科と協力して治療を行っている。

肺癌について治療方針は各種ガイドラインに則った治療を原則としているが、患者さんの状況を考慮した治療選択を心がけている。当院で実施できない放射線治療、ガンマナイフ治療などは他施設に紹介している。

気管支鏡検査については笠井部長を中心に気管支腔内超音波断層法(EBUS)を導入し診断率の向上に努めている。

**■2023年度実績**

腫瘍 66 (肺癌 64, 他 2)、間質性肺炎・びまん性肺疾患 154、肺感染症 121、気管支喘息・COPD・気管支拡張症 81、胸水・胸膜・膿胸 6、気胸・縦隔気腫 4、サルコイドーシス 4、咯血 1、誤嚥性肺炎 21、その他の呼吸器疾患 5、COVID-19 52、他 58

気管支鏡検査 91 件 (2023 年)

**■2024年度の取り組み**

地域医療支援病院として患者さんの受入を積極的に行い、また、他施設と診断と治療の分野で、協力・連携して診療していきたい。

学術活動としては、当科の特徴である、間質性肺炎等のびまん性肺疾患、炎症性腸疾患の肺病変、近年増加している気管支拡張症などの難治性気道疾患を中心に、発表、論文化を行いたい。

## ■スタッフ

部長 米野由希子  
顧問 柳 富子

## ■診療内容

各種貧血および造血器悪性疾患、血栓性疾患や止血異常による出血性疾患、HIV感染症を各科/多職種連携によるチーム医療で診療している。昨年5月末で常勤医が1名退職したため、マンパワー不足となり非常に厳しい状況となったが、なるべく紹介患者を断らないよう努めてきた。2023年度の延べ入院患者数 2,634人（前年度は2,466人）、延べ外来患者数 3,828人（前年度は4,012人）紹介患者数 59人であった。

2023年に当科で新規に診断された造血器疾患患者数は41例で、昨年の56例より減少した。内訳は悪性リンパ腫が最多で、MDS、骨髄腫、本態性血小板血症が続いた。骨髄穿刺・生検数は検査の安全性を考慮して適応を厳格化したこともあり、96件（昨年度138件）と減少した。至急骨髄検査が必要な時も検査科の協力に対応できている。

各科との連携により最短の全身精査（骨髄検査、ルンバー、CT、MRI、GS、CS、エコー）が可能で、治療が速やかに開始できている。

学術面での業績としては、日本血液学会学術集会での発表2例、血液学会関東甲信越地方会での発表1例、内科学会地方会での発表1例、エイズ学会の発表2例、英文論文2報であった。

臨床研究としては、京都大学が主導している「造血器腫瘍における遺伝子異常の網羅的解析」の臨床試験に2023年1月から参加し、随時検体を送付している。また、国立成育医療研究センターが主導している「先天性血小板減少症の遺伝子解析」の臨床研究にも継続して参加しており、MYH9異常症の新規遺伝子異常を同定できた（2024年10月の日本血液学会学術集会にて発表予定）。

血液疾患領域の薬剤の進歩はめざましい。チーム医療にて良い治療を提供したい。当院は複数の合併症を有した患者に対し各科連携により総合病院としての利点を発揮している。

## ■2023年度実績

新規診断患者数：41例

悪性リンパ腫 11例（DLBCL 5例、FL 3例、AITL 1例、バーキットリンパ腫 1例、ホジキンリンパ腫 1例）、BPDCN 1例、AML 2例、MDS 8例、骨髄腫 6例、MGUS 2例、原発性マクログロブリン血症 2例、本態性血小板血症 4例、巨赤芽球性貧血 1例、ITP 1例、CML 2例、TAFRO症候群 1例

HIV感染患者数 約300名

骨髄検査（骨髄穿刺/生検）96件

## ■2024年度の取り組み

新規レジメン登録を速やかに行い、最新の治療を患者さんに提供できる体制を維持していきたい。マンパワー不足の状況ではあるが、効率的な診療を心がけていきたい。

2023年3月 Spectra Optia を購入し、自家末梢血幹細胞移植の再開の準備を整えることができた。初発多発性骨髄腫や再発難治性の悪性リンパ腫が適応となる。原発性マクログロブリン血症の過粘稠度症候群にも利用可能である。2023年度には適応患者がいなかったが、今後近隣の病院からの紹介患者を積極的に受け入れ、実績を伸ばしたいと考えている。

HIV診療については今年度から血液内科の管轄外となり、柳医師と吉野医師で感染症外来にて診療を継続することとなった。

## ■スタッフ

<スタッフ構成>

部長 鈴木 淳司

医長 水野 智仁

医師 塩入瑛梨子 計 3名

## ■診療内容

健康診断や人間ドックにおいて尿検査異常やeGFR低下を指摘された患者の精密検査やフォローアップを行っています。尿蛋白陽性が持続する場合や、腎炎・ネフローゼが疑われる場合には積極的に腎生検を提案しています。

腎生検の結果でIgA腎症や一次性ネフローゼ症候群の組織診断に至った患者さんに対しては、ステロイドや免疫抑制剤による治療を案内しています。国内外のガイドラインや文献を参考に、エビデンスに基づいた最新・最善の治療を実践しています。

尿検査異常はあるが腎生検を希望されない患者さんや、eGFRが低下している患者さんは慢性腎臓病CKDとして外来でフォローさせていただきます。CKDの進行を遅らせ透析を先延ばしにすることを目標に、高血圧、脂質異常、高尿酸血症などリスク因子の治療を行っています。腎性貧血、CKD-MBD、代謝性アシドーシスなど腎機能障害に伴う当科ならではの合併症の治療もご案内しています。糖尿病や心血管病については適宜スクリーニングを行い、必要に応じて専門診療科へ紹介しています。

## ■2023年度実績

延外来患者数（透析患者含む）	11,970名
延入院患者数	3,057名
紹介患者数	85名
腎生検数	計11例
IgA腎症	7例
ANCA関連腎炎	1例
菲薄基底膜病	1例
膜性増殖性糸球体腎炎	1例
巣状分節性糸球体硬化症	1例

## ■2024年度の取り組み

塩入医師が退職し、新たに常勤として岡野医師と専攻医の帯刀医師が入職されました。マンパワー増加により診療体制がより充実する見込みです。

長らく新宿区・城西地区の腎臓病診療を牽引されてきた元大久保病院副院長の若井医師が顧問として就任されました。大久保病院との医療連携や、IgA腎症診療の強化が期待されます。

当院は今まで腎代替療法（血液透析、腹膜透析、移植）について情報提供および選択を促す専門外来枠がなく、通常の外來診療で説明を行っていました。しかし腎代替療法の選択は大きな決断でもありますので、十分な時間をかけて、複数の医療スタッフから、繰り返しての説明が望ましい。今後は当院でも腎代替療法選択外来を開設できるように調整してゆきます。

国民全体の高齢化もあいまって慢性腎臓病CKD患者は増加する一方で、透析予防のための総合的な取り組みが求められています。複数の職種からなる透析予防診療チームを結成し、CKD診療になお一層注力してゆく方針です。

## ■スタッフ

医師	3名
看護師	10名
臨床工学技士	11名

## ■診療内容

当院透析センターは41台（個人機7台）の透析ベッドで外来と入院患者の血液透析を行っている。約60名の患者が外来通院中である。現在は患者数とスタッフ勤務時間の関係で、月水金・火木土とも1クール体制で血液透析を行っている。今年度は透析導入患者が増加に転じた影響で、外来透析患者も増加に転じた。

手術や入院治療が必要な入院患者の血液透析も随時行っている。当院外来透析患者が入院が必要になったときはもちろん、痔核手術等で当院を紹介受診されて入院する他院かかりつけ透析患者の入院中の透析も行っている。

2023年度は新規に1名の腹膜透析導入を行い、当院の腹膜透析外来で維持透析を継続している。腹膜透析血液透析併用療法（ハイブリッド透析）の維持透析患者が血液透析に移行されたため、当院の腹膜透析患者数は変わらず1名である。

医師や臨床工学技士は必要に応じてエコーガイド下穿刺を施行可能である。透析シャント造設術は心臓血管外科に、シャント機能不全に対する経皮的血管形成術は循環器内科に依頼している。

血液透析以外の血液浄化療法として、炎症性腸疾患に対する顆粒球除去療法、自己免疫疾患に対する血漿交換、敗血症性ショックに対するエンドトキシン吸着等の血液浄化療法も行っている。2024年3月からレオカーナを用いたLDL吸着療法を新たに開始した。

## ■2023年度実績

血液透析	1,299回
血液ろ過透析	7,280回
出張透析	
持続的腎代替療法	0日
血液透析74回（ICU、COVID19病棟）	
その他の血液浄化療法	
顆粒球除去	55回
腹水濃縮再還流	10回
単純血漿交換	15回
エンドトキシン吸着	4回
LDL吸着療法	2回
エコーガイド下穿刺	579回

## ■2024年度の取り組み

外来通院患者向けの透析中運動療法は患者さんから好評であり、引き続き順番にご案内する。

2023年度は外来透析患者を対象にした個別面談が実施できなかったため、今年度は個別面談を再開できるように計画している。

大規模災害時の透析医療について当院は患者を受け入れる責務があるため、近隣の大学病院・中核病院および地域の透析クリニックの先生方との連携を強化してゆく。

## ■スタッフ

必要な方に必要な治療を提供する地域を包括した医療を目指し循環器救急を中心とした循環器急性期疾患に対応している。

### <スタッフ構成>

部長 薄井宙男 1名  
 副部長 第一循環器内科 鈴木篤  
 第二循環器内科 吉川俊治 2名  
 医師 山本康人、渡部真吾、村上輔、佐藤弘典、  
 中村玲奈、増田怜、川勝紗樹、  
 沼部紀之 8名

## ■診療内容

24時間365日急性心筋梗塞や心不全、致死性不整脈、大動脈解離などの循環器救急疾患の受け入れを積極的に行っている。平日日中は常時2系統で救急を受け入れ、夜間休日にも独立した当直医を確保し救急診療体制を維持している。コロナ禍で呼吸不全患者の受け入れなどに影響が出たが5類移行に伴いようやく安定した診療が行えるようになった。東京都CCUネットワークに参画。2019年7月からは大動脈スーパーネットワークでも活動を開始した。

狭心症・心筋梗塞等の虚血性心疾患に関しては、いたずらに件数を追いかけることなく、ロータブレード、エキシマレーザー冠動脈形成術、DCAなどあらゆる選択肢を用意し、外科手術を含めた必要な治療を適切に提供する体制を整えている。

不整脈疾患に対しては心房細動や各種頻脈性不整脈へのカテーテル治療を積極的に行っており、高周波カテーテル、クライオバルーン、ホットバルーンなどを駆使し最善の結果を追求している。

心不全については適切な心臓超音波検査に基づく薬物療法、在宅持続陽圧呼吸療法などの他、新宿区特有の背景因子にも積極的に介入。大学等と連携しハートシート、植込み型補助人工心臓などの最新治療を含む適切な治療への道筋を構築している。

閉塞性動脈硬化症に対する末梢血管インターベンションではようやくエキシマレーザー治療を導入することができた。腎臓内科、心臓血管外科と連携し透析シャントの血管内治療も行っている。

冠動脈CT、心臓MRI、シャントエコー、冠動脈石灰化スコアなど新規検査を順次導入。MRI対

応ペースメーカー等の埋込み機器につきMRI撮影の体制を構築した。心疾患予後改善のため重要な心臓リハビリテーションについても積極的に取り組んでいる。

COVID-19の影響が残る中、Web講演会の他可能な限り顔の見える地域医療連携会等を行い近隣医療機関との関係構築を模索している。

循環器専門医、心血管インターベンション治療学会専門医、不整脈専門医などの研修施設となっているほか、心リハ指導士取得など地道に診療レベルの維持と向上のための努力を行っている。

## ■2023年度実績

・冠動脈造影	287件
・緊急カテーテル検査	94件
・冠動脈インターベンション	146件
・末梢血管インターベンション	75件
・心臓電気生理検査	136件
・カテーテルアブレーション	135件
・ペースメーカー/ICD/CRTD等	40件
・研究業績など	
学会発表 20件	その他講演 24件
論文 6件	

## ■2024年度の取り組み

1) 地域医療連携と循環器救急疾患受け入れの強化  
 COVID-19の影響で心ならずも制限せざるを得なかった循環器救急、地域連携につき感染防御を心掛けつつ再構築を図る。循環器救急を積極的に受け入れると共に、虚血性心疾患スクリーニングのための冠動脈石灰化スコア、BNP/NT-proBNP高値患者に対する心エコーなど連携検査に積極的に取り組む。

### 2) 診療内容の充実

循環器疾患の診療の多様化がみられる中、最新の適正な診療を当院から正しく発信・提供できるよう努めてゆく。引き続き糖尿病、透析患者の重症虚血肢に対する積極的な介入を試みる。

## ■スタッフ

当科は、糖尿病、代謝、内分泌疾患の診断と治療を外来および病棟で実施している。2023年度の医師スタッフは、常勤医3名と後期研修医2名による構成となっていた。

外来非常勤医師であった堀越医師を医長として、慈恵医大第三病院から日高医師を医員として迎え、常勤医3名の体制となった。東京大学糖尿病・代謝内科から新たに松山医師を後期研修医として受け入れた。2022年度後半は、実質的に部長1名と1年目の後期研修1名の常勤医2名体制であったため、2016年度以降最も充実した人員となった。

### <スタッフ構成>

部長 山下滋雄

医長 堀越桃子

医員 日高章寿 常勤3名

後期研修医2名

會田光 (東大 PG) 松山正英 (東大 PG)

非常勤医師 (外来) 6名

堀江有実子 實重真紀 竹下智史

中西直子 石橋なぎさ 鈴木禎房

## ■診療内容

当科では、主に糖尿病のほか脂質異常症、高尿酸血症などの代謝性疾患、原発性アルドステロン症 (PA) や甲状腺機能異常を含む各種内分泌疾患の診療を行っている。2019年度からPAなど副腎疾患の患者数が増加しており、選択的静脈サンプリングも不定期ではあるが行っている。

糖尿病診療の目標は、血糖、血圧、脂質、尿酸、体重などのリスクファクターを適切にマネージし、合併症の発症、進展を阻止して、糖尿病のない人と変わらぬ寿命とQOLを確保することである。新しい診療用デバイスや新薬により治療方法は益々多様化している。新しいものについても、引き続き積極的に取り入れる。肥満症治療薬ウゴビ®が院内採用となり、地域のニーズにも応ずる。

糖尿病療養サポートチーム (DMST; DM support team) としての活動実績はDMST委員会からの報告に記載した。1型糖尿病患者会は、2023年6月と11月に現地開催し、今後も1年に2度の開催予定。

## ■2023年度実績

外来患者では、糖尿病、高血圧症、脂質異常症、副腎疾患が増えている。糖尿病患者は、前年比104%であった。逆紹介も積極的に行っているため、複数疾患を抱える困難な症例が増えている印象。以下の表で示しているのは、複数の疾患を合併している患者を含む人数である。

入院患者数は、2022年度と比較すると13%増加して229名であった。他科入院中併診患者は668名から718名に7%増加し、2021年度と同水準。

主病名	実患者数	延べ人数
外来	2,770	12,343
糖尿病	2,178	9,326
高血圧症	1,465	6,865
脂質異常症	1,730	8,180
視床下部・下垂体疾患	31	142
甲状腺疾患	492	2,073
副甲状腺疾患	87	458
副腎疾患	108	487
入院	229	2,599
他科入院中併科併診	718	

## ■2024年度の取り組み

後期研修医は松山医師に加え、当院で2年間の初期研修を修了した加納医師 (当院 PG) を受け入れた。常勤医3名は変わらず。後期研修希望者がいたため外来非常勤医を1名減としたが、直前に辞退されたため外来は常勤医が代行している。下半期には、加納医師が担当する。

### <スタッフ構成>

部長 山下滋雄

医長 堀越桃子

医員 日高章寿

後期研修医2名

會田光 (東大 PG) 松山正英 (東大 PG)

非常勤医師 (外来) 5名

堀江有実子 實重真紀 竹下智史

中西直子 石橋なぎさ

国立国際医療研究センターと日本糖尿病学会が主導している全国多施設共同研究「診療録直結型全国糖尿病データベース事業」J-DREAMSに参加し、症例登録を継続している。このデータベースを元にして、糖尿病と脂肪肝、糖尿病とIBDの関連について臨床研究を開始する。

## ■スタッフ

当科は、関節リウマチを含めた膠原病全般や不明熱、不明炎症などにわたり診断・治療を外来・入院で実施しております。

### <スタッフ構成>

部長	金子 駿太
医員	石黒 賢志
専攻医	八木 貴寛
顧問	三森 明夫
非常勤	小林 晶子
	落合 萌子

## ■診療内容

2021年4月より当院初のリウマチ膠原病科の立ち上げを行っております。これまでも多数紹介をいただきましたが、これまでと変わらず平日の午前、午後問わず、外来、転院相談など常に即日行っています。

関節リウマチを代表として近年目覚ましい治療の進歩があり、特にインフリキシマブを始めとした生物学的製剤やトファシニブなどの分子標的薬などが登場し、膠原病患者の治療成績が大きく改善しています。現在関節リウマチに対しては生物学的製剤が9種類、バイオシミラーが3種類、分子標的薬であるJAK阻害薬は5種類の薬剤があり、当院においては全てが処方可能となっております。また、全身性エリテマトーデスについても、関節リウマチと同様に生物学的製剤B細胞をターゲットとしたベリムマブ（ベンリスタ®）やI型IFNをターゲットしたアニフロルマブ（サフネロー®）が登場し、非常に治療の選択肢の幅が広がっています。

このように治療の進歩により、疾患活動性をコントロールし、病気を寛解の状態にすることが可能となってきましたが、その中でもステロイドやメトトレキサート（MTX）フリーの状態での寛解を目指して日々診療しております。ステロイドは高い効果の反面、副作用が非常に多岐に渡ります。また、MTXについても腎障害やMTX関連リンパ増殖性疾患などの致死的な副作用もあり、ステロイドも含めて可能な限り使用を終了した薬剤です。従って、これらステロイドやMTXを最終的に使用しないで寛解を達成することが、この先の理想の寛解状態であると考え、ステロイド・MTX

フリーを目指しています。

## ■2023年度実績

【外来】延人数 5,123 例、紹介人数 122 例

【入院】229 例

【講演】23 講演：金子 駿太

4月	リンヴォック適正使用推進セミナー
5月	中野区医師会 胸部レ線読影会
	Lilly RA Web Conference
	関節リウマチ Web セミナー
6月	Lilly RA Web Conference
	SLE New generation Expert Summit
	SLE オンライン勉強会 FROM SHINJUKU
7月	GSK web seminar
8月	RA web seminar
9月	BARISTA 10+ SUMMIT
10月	リンヴォック適正使用推進セミナー
	Next New Generation Club
11月	明日からの重症喘息治療を考える懇話会
12月	ジセレカ WEB セミナー in 新宿
	膠原病疾患 web seminar
1月	TAISHO Rheumatoid Arthritis Seminar
	Olumiant Focus Month Web Conference
2月	第2回リウマチ・膠原病ブリッジセミナー
	当院 地域連携会
3月	OHIRUNO Rheumatology Seminar
	Olumiant Focus Week Web Conference
	JAK STAT Cross Functional Conference
	Next Rheumatology Seminar in 東北

## ■2024年度の取り組み

更なる外来患者及び入院患者の受け入れ増加に取り組めます。また患者に最適な医療を提供し、QOL 向上に努め、人生に寄り添って参ります。

## ■スタッフ

当科では、食道癌、胃癌などの上部消化管疾患、肝癌、胆道癌、膵癌、胆嚢結石症などの肝胆膵疾患の外科治療に加えて、鼠径ヘルニアの手術や、虫垂炎、腸閉塞、消化管穿孔など急性腹症に対する手術、さらには体表・腹腔内リンパ節生検やCVポート造設など、下記スタッフの協力体制のもとで幅広い外科診療を行っている。

### <スタッフ構成>

食道胃外科部長	久保田啓介	
肝胆膵外科部長	伊地知正賢	
肝胆膵外科医長	工藤 宏樹	
医員	森戸 正顕	
専攻医	渡邊 圭佑	
外科顧問	柴崎 正幸	計6名

## ■診療内容

食道癌の手術では、胸腔鏡と腹腔鏡を用いた鏡視下手術を導入し、多職種チームによる周術期管理を行う早期回復プログラムを実施している。

胃癌の手術では、腹腔鏡手術の定型化に加えて、なるべく胃を残して機能を温存する術式を選択するなどオーダーメイド治療の実施に努めている。

肝切除術においては、腫瘍条件に加えて肝機能評価を綿密に行い、必要に応じて3Dシミュレーションソフトを用いて肝切除範囲を決定している。

膵癌、胆道癌は予後不良の疾患であり、化学療法を先行し腫瘍を縮小させてから手術を行う術前化学療法を取り入れ、切除率を上げる努力をしている。

腹腔鏡下胆嚢摘出術においては、術中の胆管損傷を回避するために、当科が開発に携わったICG蛍光胆道造影法を駆使し胆管損傷の予防に努めている。

鼠径ヘルニア手術においては、腹腔鏡手術（TAPP）を第一選択とし、また固定の必要がないセルフグリップメッシュを導入し、創痛や神経痛の低減に努めている。

## ■2023年度実績

主たる疾患の手術

食道癌（鏡視下手術）	4(4)例
胃癌（鏡視下手術）	10(6)例
胆嚢摘出術（鏡視下手術）	71(70)例
肝切除（鏡視下手術）	15(7)例
膵・胆道の悪性腫瘍	4例
鼠径ヘルニア（鏡視下手術）	38(56)例
虫垂炎（鏡視下手術）	74(70)例
腸閉塞（鏡視下手術）	9(6)例

## ■2024年度の取り組み

### 1) 内視鏡下外科手術の充実

食道癌、胃癌、鼠径ヘルニア、虫垂炎、胆石・胆嚢炎に対しては、鏡視下手術を第一選択とし、良好な成績が得られている。肝切除や膵切除に対しても症例を限定して腹腔鏡手術を導入している。今後さらに内視鏡下手術の技術向上に努め、適応を拡大していきたい。

### 2) クリニカルパスの推進

鼠径ヘルニア手術、腹腔鏡下胆嚢摘出術、胃癌手術、食道癌手術に加えて、虫垂切除術のパスを重症度に応じて作成した。

### 3) 手術部位感染（SSI）の減少

予防抗菌薬の術前からの投与および術中追加投与、閉鎖式ドレーンの選択、体内異物を残さない吸収糸による結紮、術中ビニール製の創保護材の使用、創閉鎖前の術野・皮下の洗浄、周術期における患者の栄養状態の改善など。今後もSSI対策に努めたい。

### 4) サージカルスモーク対策

手術で使用する電気メスやエネルギーデバイスにより発生する煙には、有害な化学物質や細菌・ウイルスが含まれることが知られており、これに対する曝露をなるべく少なくする必要がある。腹腔鏡手術では排煙装置を必ず使用しており、長時間となる開腹手術においては電気メスに吸引システムが連動した装置を使用し曝露対策を実施している。

## ■スタッフ

副院長・部長 橋本 政典  
 顧問 柴崎 正幸  
 非常勤医師 竹島 雅子  
 その他 一般外科医師 4名

## ■診療内容

当科は乳癌の診療を行っている。他に乳腺炎、乳頭異常分泌など女性が不安を抱く乳腺疾患についても広く対応している。

乳癌の罹患率は40代及び60～70代で高くなっており、人口の高齢化により高齢者乳癌は増える傾向にある。高齢化社会において「がん」はもはや common disease であり、そういう意味でも近隣に高齢者が多い当院が地域医療支援病院として標準的ながんの診療機能を有することは非常に重要である。

実際、診断された患者が治療目的で受診するがんと専門病院と異なり、当院にはむしろ高い診断能力が求められているが、3D マンモグラフィーや最新の体表超音波機器 3T の MRI を導入し、乳腺専門医・超音波専門医・超音波検査判定医師・マンモグラフィー認定技師・読影医を擁するため難なく行える。2024年1月からは女性の乳腺専門医1名が火曜日の午前だけではあるが非常勤として診療に加わった。

当院は対策型健診事業や任意型乳癌検診もこなっている。また常勤の形成外科専門医・リンパ浮腫セラピスト看護師2名が在籍し、緩和ケアチームも整備されたので検診、診断、治療、緩和ケアの全ての進行度の患者の診療を行える体制を整えている。実際、乳癌では手術前から専従看護師の介入による指導管理を行い不安の軽減等に努めている。2022年度には病院全体のキャンサーボードも開始され、2023年度からは当院は東京都がん診療連携協力病院に指定され、2024年1月には乳癌学会認定施設にも認定された。

乳癌の治療は手術や照射などの局所治療と薬物による全身治療とに大別できる。残念ながら当院では現在放射線治療ができないが、近隣施設には照射ができる病院が多く問題はない。現在、国立国際医療研究センター病院、杏雲堂病院、駒込病院と連携を強化した。数年後には当院での放射線治療を再開できる予定である。HBOC のスクリーニング適応症例には順天堂大学臨床遺伝外来を紹介

介できる。

手術は乳房温存手術から乳房切除 + 同時再建まで全ての標準術式が可能な施設である。(乳房再建用エキスパンダー/インプラント責任医師・形成外科専門医が在籍し実施施設に認定されている)

cN0 症例にはセンチネルリンパ節生検を行い2mm以上の転移がある場合にのみ郭清を行なっている。当院では ICG 蛍光法を行なっている。

周術期補助療法適応症例には HER2 陽性乳癌では術前 pertuzumab 併用レジメン→術後 T-DM1 等、triple negative 乳癌では KEYNOTE-522 レジメン等、ER 陽性 HER2 陰性中間リスク乳癌の OncotypeDX 検査によるスクリーニング、高リスク症例では標準補助化学療法と AI+abemaciclib, AI+TS1、BRCA 変異陽性乳癌では olaparib 等、なんでもできる。

また不幸にも再発をきたした患者さんに対しては最新のエビデンスに基づくあらゆる薬物療法(内分泌療法、化学療法、分子標的療法など)、放射線療法、緩和ケアを実施し、より長く生き、かつより高い QOL が得られるように努めている。

## ■ 2023 年度の実績

☆乳癌初発手術数 41 例 (43 側)  
 ・乳房切除術 31 例 (33 側)  
 ・乳房部分切除術 10 例 (10 側)  
 再掲：センチネルリンパ節生検 29  
 SLNB →郭清 3  
 腋窩リンパ節郭清術 12  
 同時再建手術 2 (SSM1 NSM1)  
 ☆追加切除 1 例  
 ☆術前化学療法 2 (KEYNOTE-522 レジメン 2)  
 ☆乳腺腫瘍画像 (US) ガイド下吸引術 35 件

## ■ 2024 年度の取り組み

- 1) 乳腺専門医の雇用と手術・再建症例の増加
- 2) 新規レジメン・説明資料等の充実
- 3) 新人養成、リクルート
- 4) 学会発表等の活性化

## ■スタッフ

3名のスタッフで、成人虚血性心疾患、弁膜症、大血管疾患、末梢血管等に対する手術を（月）の定期枠および、緊急枠で行っている。

### <スタッフ構成>

心臓血管外科部長：恵木 康壮  
副 院 長：高澤 賢次  
心臓血管外科医長：明石 興彦

## ■診療内容

心臓病センターとして、循環器内科と密接な連携を図り、内科治療・外科治療の方針は常に議論しながら患者さんの best な治療法を決定している。虚血性心疾患は、個々の症例を慎重に判断し、人工心肺の使用の有無を検討し、心拍動下バイパス術を積極的に選択、施行している。

弁膜症は、僧帽弁においては可能な限り形成術を行っている。大血管手術は大動脈ネットワークに加盟しており、積極的に受け入れ、緊急手術を行っており、大動脈解離の手術は増加している。

末梢血管では、膝下の血管バイパス術を行っており、下肢静脈瘤はレーザー治療、グルー治療可能であり、針穴からの瘤切除術を積極に行い傷跡の残らない様に心がけています。シャント手術は閉塞、狭窄の治療はもちろん、尺側皮静脈の受動も行っており、なるべく人工血管の使用は避け、自己血管でのシャント作成に尽力しております。

心臓手術においては通常、術後2週間、小切開心拍動脈下バイパス術（MIDCAB）では術後7日、大血管手術では緊急症例が増加しているが術後3週間程度の入院となっている。

下肢静脈瘤、シャント作成は1泊の入院となっている。

## ■2023年度実績

冠動脈バイパス術：8例  
弁膜症手術：4例  
大動脈解離、瘤：5例  
末梢動脈手術：4例  
下肢静脈瘤：4例  
透析シャント関連：28例  
その他：3例  
緊急手術：9例

## ■2024年度の取り組み

1. 大動脈ステント治療の開始
2. 大動脈解離受け入れの増加

**■スタッフ**

肺癌、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍などの悪性疾患、そして気胸をはじめとする良性疾患を含めた呼吸器領域の外科治療を専門的に行っている。

特に肺癌の外科治療、中でも胸腔鏡下の肺癌手術に力を注いでいる。2023年度に施行した手術の98%以上が完全鏡視下手術であった。

## &lt;スタッフ構成&gt;

部長 水谷 栄基  
顧問 森田理一郎  
医師 山本 沙希  
医師 3名

**■診療内容**

特に肺癌の外科治療に力を注いでいる。手術方法は、完全鏡視下手術を施行している。手術の創は小さく、切除肺を体外へ取り出すために3～5cmの創が一つ必要だが、それ以外は1～1.5cmの創が2、3か所で済む。患者の身体的体負担は少なく、痛みも軽く、手術後も短期間で退院できる等のメリットがある。

標準術式は肺葉切除だが、腫瘍径が小さい早期癌の場合には切除肺が小さくて済む区域切除も取り入れている。

手術後は、病理病期・遺伝子変異・免疫抗体の発現によって、術後補助化学療法を行っている。

術後再発や切除不能進行肺癌に対して、次世代シーケンサーを用いた遺伝子解析ができる検査態勢を整え、遺伝子診断に基づいた最新の個別化治療を進めている。各種ドライバー遺伝子(EGFR等)変異/転座陽性例に対して、それぞれのキナーゼ阻害薬(分子標的治療薬)を投与することで高い有効性が得られる。また、2015年以降、本邦で使用可能となった免疫チェックポイント阻害薬をPD-L1の発現状態によって使い分けることで、良好な治療成績をあげている。

他臓器悪性腫瘍からの肺転移に対して積極的に手術を行っている。2個以上の転移があっても、両側肺に転移があっても、手術治療によって生存期間の延長が期待できる場合は手術する方針としている。手術方法は、胸腔鏡手術を第一選択にしている。

気胸の治療も積極的に行い、創部を1ヶ所や2ヶ所に減らす手術にも取り組んでいる。自然気胸に

対しては、胸腔鏡下に肺嚢胞を切除し、生体吸収性シートを貼付する方法で、術後再発が少ない手術を心掛けている。難治性気胸に対しても前述のシートや生物学的組織接着剤を用いて胸腔鏡手術を積極的に行っている。

**■2023年度実績**

・手術総数	61件
肺癌手術	19件
気胸	25件
他臓器からの肺転移	4件
など	
(完全鏡視下手術	60件)

**■2024年度の取り組み**

## 1) 手術件数の充実

日本呼吸器外科学会が定める認定修練施設(基幹施設)の要件である年間75例以上の手術を達成する。

## 2) 手術治療の充実

手術を安全に、そして低侵襲に行なう。

3) 病理診断科と連携し、肺癌の遺伝子診断を充実させ、遺伝子情報に応じた治療薬の選択を可能にする。

## ■スタッフ

当科は大腸肛門外科を専門とする診療科として、肛門疾患、大腸癌、炎症性腸疾患、骨盤底疾患、排便障害など下部消化管に関する幅広い領域の専門的な診断・治療を外来および入院で実施している。

### <スタッフ構成>

センター長 山名哲郎  
 部長 岡本欣也  
 医長 古川聡美、西尾梨沙、大城泰平  
 医師 藤本崇司、井上英美、工代哲也  
 東侑生、中林瑠美、二宮葵

## ■診療内容

**肛門疾患：**専門施設として診断や治療の難しい症例や併存疾患のため周術期管理を要する紹介患者を中心に診療している。

**大腸癌：**直腸癌、肛門癌、痔瘻癌、腸炎関連癌など比較的まれな大腸癌の症例が多いのが当科の特徴である。集積したデータに基づいて適切な治療方針をたて集学的な治療に取り組んでいる。

**炎症性腸疾患：**当院の内科医師と連携して外科的治療の適応になった症例の診療を担っている。緊急や準緊急手術が必要な患者に対しても適切なタイミングでいつでも手術できるような体制をとっている。手術においては積極的に腹腔鏡手術を取り入れている。

**直腸脱：**腹腔鏡下直腸固定術に積極的にとりこんでおり、また適応を選んでデロールメ手術やティールシュ手術を施行している。また直腸瘤に対する後腔壁形成術や会陰裂傷や直腸腔瘻に対する会陰体形成術など、他の施設ではあまり行われていない手術の症例も行っている。

**排便障害：**直腸肛門機能検査で評価したうえで保存的・外科的治療を行っている。先進的医療である仙骨神経刺激療法も行っている。

## ■2023年度実績

肛門疾患手術件数	1,884件（月平均157件）
全麻手術件数	424件（月平均35件）
大腸癌	76件
炎症性腸疾患	151件
直腸脱	83件
その他	114件

大腸内視鏡検査	1,437件
注腸造影検査	79件
排便造影検査	180件
肛門管MRI検査	699件
直腸肛門機能検査	226件

入院患者数	18,168人（1日平均50人）
外来患者数	31,777人（1日平均131人）
紹介患者数	3,400人

## ■2024年度の取り組み

- ・肛門疾患手術2,000件、大腸癌手術120件、炎症性腸疾患手術200件、下部内視鏡検査2,000件を目指して診療体制や医療連携を強化する。
- ・外来予約枠を適切に設定し、外来3人体制を維持することで待ち時間のさらなる軽減をめざす。
- ・働き方改革にあわせて超過勤務時間を軽減し、当直明けの午後休や年休を適切に取得する。
- ・術後管理を相互チェックすることで診療チームとして医療安全にとりくむ。
- ・専攻医が充実した臨床研修を行える環境づくりを行う。
- ・診療情報提供書Iをもれなく作成し、紹介・逆紹介率のさらなる向上をめざす。

## ■スタッフ

部長 大野博康 顧問 武田泰明  
非常勤医師（外来、手術） 脳神経外科 2名  
脳神経内科 3名

### <施設認定>

日本脳神経外科学会専門医認定関連施設  
日本脳卒中学会一次脳卒中センター  
東京都脳卒中急性期医療機関、tPA 実施認定施設

## ■当院脳神経外科の沿革

昭和 39 年 2 月：脳外科診療部門を外科に併設。  
昭和 41 年 5 月 20 日：脳神経外科新設。

当院の脳外科診療の発足が全国でもかなり早かったのは、おそらく日本脳神経外科学会の前身：日本脳・神経外科研究会の結成に加わったメンバーに当時の社会保険中央総合病院長 渡辺茂夫（名古屋大学）先生の功績であり、詳細は、学会ホームページ 日本脳神経外科学の歩み <http://jns.umin.ac.jp/jns/ayumi> に記載があります。昭和 55 年から東京医大脳外科から医師派遣が始まり、その後 40 年以上にわたり 30 人以上が出向、赴任されて今日に至ります。

## ■診療内容

脳神経系疾患に対して手術例を中心に、非手術例も含めて総合的に治療・健康管理まで包括的な診療を行っています。緊急性を要する脳血管障害患者に対して高水準、均質、効率的な医療を提供することを目標とし、早期離床のうえに急性期リハビリテーションの提供、必要度に応じた最適な回復期リハビリ病院への転院、在宅医療や社会復帰を視野に入れ、地域連携パスなどを利用して切れ目のない円滑な医療を目指しています。また超急性期 tPA 血栓溶解療法や最新血管撮影装置 AlluraClarity による破裂、未破裂脳動脈瘤のコイル塞栓術、頸動脈高度病変のステント留置術に特に力を入れています。

頭蓋内腫瘍に対しては、他の医療機関と連携して開頭手術のみならず定位放射線治療（γナイフ、ライナック、サイバーナイフ）、脳血管内治療（脳動脈瘤塞栓術など）、神経内視鏡治療（水頭症、内視鏡支援手術）などを視野に入れた集学的治療を心がけています。

脳卒中予防活動では、人間ドックのオプション脳検査 MRI で発見された無症候性脳血管障害や無

症候性頭蓋内腫瘍に対して、予防的治療のみならず、適切な疾患管理（生活栄養指導、定期的検査など）を実践しています。（過去実施の脳ドックケース含めて、のべ 16,790 名、2023 年 12 月現在）

## ■ 2023 年度実績

### 脳卒中医療連携

61 件（脳卒中、脳血管障害入院）

脳血管疾患リハビリ（廃用障害含めて）553 件手術件数（2023.1-12） [過去 5 年 2019-23]

- ・頭蓋内腫瘍（摘出術、下垂体手術など） 0 件 [10]
- ・脳血管障害（動脈瘤クリッピング、血腫摘除、AVM、CEA、バイパスなど） 6 件 [20]
- ・頭部外傷（血腫摘除、穿頭術、減圧開頭など） 8 件 [37]
- ・水頭症（髄液シャント、内視鏡手術など） 0 件 [5]
- ・感染症（膿瘍摘除、ドレナージなど） 0 件 [2]
- ・その他（小手術 / 機能的手術 / 他院定位放射線治療など） 1 件 [7]
- ・脳血管内手術 0 件 [9]  
（コイル塞栓、ステント留置術、腫瘍血管塞栓術）

### 学会・研究会・臨床研究

日本脳神経外科学会総会・脳神経外科学会コンgress・脳卒中学会総会・脳神経血管内治療学会総会・心血管脳卒中学会・東京医大脳神経外科カンファランス・新宿神経疾患研究会・新宿区脳卒中医療連携の会・新宿脳卒中フォーラム J-ASPECT study、Japan Neurosurgical Database (JND 2018 ~) に参加、その他、脳神経領域の稀少病態解明の協同研究に参画。

## ■ 2024 年度の取り組み

- ・毎週の高職種合同入院症例カンファランスの充実
- ・東京都脳卒中急性期医療、新宿区脳卒中医療連携の推進
- ・脳卒中の積極的救急受入を行い、脳血管内治療適応例の拾い出しに努める。
- ・初期研修医の外科系救急研修に対する指導教育内容充実

## ■スタッフ

当科では外傷などの一般整形外科に加えて田代部長、田中医長が中心となって膝関節、スポーツを、河野部長の手の外科、飯島顧問の骨軟部腫瘍の特別外来を設置して診療を行っています。脊椎脊髄領域を除いた、すべての整形外科領域を対象としています。

### <スタッフ構成>

部長 田代 俊之  
 部長 河野慎次郎 (手の外科)  
 医長 田中 哲平  
 顧問 飯島 卓夫  
 医師 鹿島 康弘 大平 俊介  
       桑原 俊樹 藤村 綾夏  
       前田 憲秀

## ■診療内容

整形外科すべての領域で診療ガイドラインに基づいた標準的治療を行ないつつ、医療の進歩にも遅れないような診療を常に心がけています。生命とともに機能が問題となる領域なので特に説明と同意は十分行うようにし、患者の自己決定権を尊重した診療を行なうように心がけています。またリハビリテーション施設も充実しており、リハビリテーション科とチームで治療を進めています。

手の外科部長の河野部長は長年大学病院の手の外科グループを主催していたベテランで、知識・経験・技術を兼ね備えており、すでに多くの紹介を頂いております。

膝・スポーツグループでは高齢者の変形性膝関節症の治療から靭帯損傷、半月損傷などスポーツ損傷に対する治療まで幅広く膝疾患の診断、治療を行っており、症例数も増加しています。特に田中医師はオリンピックの医療サポートでも大活躍しており、オリンピック選手から学生・高齢者など幅広くスポーツ選手の治療を行っています。

骨軟部腫瘍の診療は、飯島部長が中心となって行なっています。がん専門医療機関や大学病院に比べて小回りが利くことを特徴にしていますが、悪性腫瘍など集学的治療が必要な場合は東京大学病院と連携して治療しています。良性腫瘍、悪性腫瘍を問わず骨軟部腫瘍を疑われるときは、お気軽にご紹介頂ければと思います。

骨折などの外傷では症例ごとに保存、手術から

適切な治療法を選択しています。手術が必要な場合でも、麻酔科・手術室と協力して、早期の治療が可能となっています。

## ■2023年度実績

紹介患者数 849件 (768件 前年度)  
 救急車搬送数 366件 (285件 前年度)  
 手術件数 (脊椎含む) 829件 (650件 前年度)

### <内訳>

骨折手術	319件
腫瘍手術	36件
人工膝関節置換術	63件
高位脛骨骨切術	22件
前十字靭帯再建術	28件

## ■2024年度の取り組み

1. 専門領域のさらなる充実  
 当科の強みをより知ってもらい、多くの患者様の治療をしていく。
2. 救急医療の充実  
 2次救急病院として、地域医療に貢献し、救急外傷症例数を増やしていく。
3. 合併症の減少  
 病棟、外来、手術室、リハビリ科とも協力し、より安全な医療を目指していく。
4. 市民講座などを通じての地域貢献  
 院内で月一回「中高齢者の膝痛教室」を実施しており、本年もより充実させ、地域住民の健康に貢献していく。

## ■スタッフ

当科は、頸椎から腰椎仙骨までの脊椎・脊髄疾患に対し検査・診断を行い、治療は脊椎内視鏡から多椎体に渡る変形矯正手術まで対応しています。

### <スタッフ構成>

部長 熊野 洋  
 医師 大平 俊介  
 顧問 俣田 敏且  
 非常勤 平林 茂  
 医師 4名

## ■診療内容

体への負担の少ない低侵襲手術を心掛けています。特に腰椎椎間板ヘルニアや狭窄症に対し椎間板内酵素注入療法や脊椎内視鏡手術を行っています。高齢者に対して低侵襲な手術が大事であることはもちろん、仕事をしている患者さんが早期に社会復帰できるよう目指しています。

また高齢化社会に伴い増加する骨粗鬆症性の胸腰椎椎体骨折後の下肢麻痺症例や透析脊椎症に対しても他科に協力を仰ぎ手術を実施しています。

胸腰椎圧迫骨折に対してはバルーン椎体形成術(BKP)やステント椎体形成術(VBS)を行い、除痛・早期ADL回復を図っています。

胸腰椎後側弯症いわゆる腰曲がりのため立位・歩行障害、摂食障害、逆流性食道炎を来している場合は胸椎から骨盤に渡る矯正固定術を行っています。

頸椎症性脊髄症、頸椎椎間板ヘルニア、RAによる環軸関節亜脱臼、歯突起骨折などの外傷に対して椎弓形成術や固定術で対応しています。

指定難病である後縦靭帯骨化症や黄色靭帯骨化症に対する手術も多数行っています。

また、他院で受けられた脊椎手術後の悪化例に対しても、改善の見込みがあれば積極的に手術を行っています。

当院の設備として3テスラのMRIによる高精細な画像での診断、術中に安全・正確なインプラントの設置を行うためのナビゲーションシステム、術中の合併症予防のための脊髄神経モニター装置、低侵襲手術に有用なカーボン製手術台を使用しています。

## ■2023年度実績

脊椎手術件数 160件（複数部位含む）

内訳

頸椎 27件

胸椎 12件

腰椎 122件（内視鏡20件 椎体形成30件）

## ■2024年度の取り組み

脊椎内視鏡や経皮的椎弓根スクリューなど低侵襲手術を更に進めていきます。

脊椎固定術の更なる低侵襲化（脊椎内視鏡手術、UBE/BESS）と低被爆化と低リスク化を可能とする3D C-armと次世代ナビゲーションシステムの導入を目指していきます。

近隣の医療機関（特に中野区、豊島区）への訪問を継続します。

理事を務めている日本脊椎・脊髄神経手術手技学会(JPSTSS)を通じて海外の最新の知見を取り入れて、治療成績の向上に努めます。

合併症を予防し良好な治療成績が得られるよう病棟・手術室スタッフと協力していきます。

## ■スタッフ

形成外科は体表を中心に頭の頭頂部から足尖部まで幅広く治療を行う分野である。体表の異常を主に手術で機能的かつ整容的に修復することで患者のQOL改善を目指して診療を行う。

### <スタッフ構成>

医師 藤田 純美  
富岡 容子（非常勤医師）

## ■診療内容

### ・顔面骨骨折

頬骨骨折観血的整復術や眼窩骨折観血的手術・鼻骨骨折の徒手整復術・頬骨弓骨折の整復を行っている。

### ・眼瞼下垂症・眼瞼内反症

眼瞼下垂手術（挙筋前転法・眉毛下皮膚切除術、挙筋前転法で上眼瞼が十分に挙上されない重症例には大腿筋膜または人工膜による前頭筋吊り上げ術）を行っている。

眼瞼内反症・睫毛内反症に対しては内反症手術を行う。

### ・乳房再建

乳癌による乳房切除後に乳房の形態を再建する乳房再建（エキスパンダー留置、インプラント入れ替え、広背筋皮弁を用いた自家組織移植）を行っている。

### ・皮膚・皮下腫瘍・軟部腫瘍切除

表皮嚢腫や脂肪腫などを含む皮膚・皮下腫瘍・軟部腫瘍切除術を多く施行している。

顔面皮膚悪性腫瘍の切除も行っており、単純縫合で閉鎖が不可能な腫瘍切除後の組織欠損に対しては植皮術や皮弁形成術を必要に応じて行う。

### ・難治性潰瘍・瘢痕修正

褥瘡などの難治性潰瘍の加療やケガや手術の瘢痕修正を行う。

創傷治癒遅延をきたしている創に関しては必要に応じてブリードマンや陰圧閉鎖療法を行う。また単純縫合で閉鎖が困難な創は植皮や局所皮弁を組み合わせ創を閉鎖し、可能な限り再発防止に努める加療を行う。

### ・その他

2023年度は新たに腋窩膿皮症の切除および植皮を行った。また、腹壁瘢痕ヘルニアに対して腹壁再建を行った。

### ・リンパ浮腫

当科ではリンパシンチを含めたリンパ浮腫の診断と治療としては圧迫療法の指導を行う。リンパ浮腫の治療は大前提として圧迫療法が必要であり、正しいスリーブ・弾性ストッキングの装着方法や包帯の巻き方を患者自身が習得し日々行う必要がある。当科では、2名のリンパ浮腫セラピストNs.と共に、リンパ浮腫ケア外来を立ち上げており、弾性ストッキングの計測や圧迫療法の指導、リンパマッサージを行っている。

## ■2023年度実績

手術処置件数：137件

## ■2024年度の取り組み

形成外科の手術手技は多岐にわたる。

2024年度も他科と連携して当科で施行可能となる手術の種類と手術件数をさらに増やすことを目標とする。

## ■スタッフ

心臓病センターは、循環器疾患に対し包括的かつ迅速に対応することを目的として平成19年3月より設置され、診療科として「循環器内科」と「心臓血管外科」の二診療科で構成されている。「集中治療科」とは密接な関係を持ち、さらに外来・救急部、ICU/CCU、各病棟をはじめ、臨床工学部・放射線部・検査部・リハビリテーション部・薬剤部ならびに栄養科など多くの診療部門より積極的なサポートを受けている。

### <スタッフ構成>

統括診療部長 高澤賢治（心臓血管外科）1名  
 部長 薄井宙男（循環器内科）  
 恵木康壮（心臓血管外科）2名  
 副部長 鈴木篤（第一循環器内科）  
 吉川俊治（第二循環器内科）2名  
 医長 明石興彦（心臓血管外科）1名  
 医師 山本康人、渡部真吾、村上輔、佐藤弘典、  
 中村玲奈、増田怜、川勝紗樹、  
 沼部紀之（循環器内科）8名

## ■診療内容

### 1) 多職種スタッフが一体となって診療

本センターの最大の特徴は常に内科・外科・多職種スタッフが一体となって診療している点である。毎日午前8時30分よりICU内での多職種モーニングカンファレンスから一日が始まり、緊急入院患者の症例検討と治療指針決定・その日の検査や手術症例の提示などが行なわれている。

### 2) 内科・外科治療のシームレスな選択

内科・外科間の連絡が緊密であるため、全体としての治療方針のみではなく個々の症例での治療の選択に関しても real time に内科外科合同での検討が行われる。近年では平均寿命の延長もあり短期的な視野では後々の治療に差支えが生じる事態も多々起きている。こうした状況を踏まえ急性期内科的治療を行ってから将来的に外科的治療を考慮する、外科治療を行ったうえで risk の問題から残存する病変には内科的治療を行うといった時間軸を考慮した内科外科の連携が行なわれている。

### 3) 救急診療への対応

心臓病センターのスタッフでCCU単独の当直を独立して行っており、365日24時間対応で昼夜を分かたず循環器救急疾患の診療を提供してい

る。新宿区の中でも循環器独立当直システムを院内で確立し、かつ常勤心臓血管外科医を有する病院はまだ希少であり、都民の心臓性救急疾患の受け皿となっている。東京都CCUネットワークに加盟。東京都大動脈スーパネットワーク支援病院として大動脈緊急症の診療にも積極的に参加している。

## ■2023年度実績

・循環器内科ならびに心臓血管外科を参照

## ■2024年度の取り組み

### 1) 循環器救急対応の強化

コロナ禍で呼吸不全患者の受け入れなどに影響が出た経緯もあり低下してしまった近隣医療機関、救急隊からの信用を回復するべく、24時間365日循環器救急疾患の診療を提供する体制を再構築し、今後の心不全パンデミックにも対応できるよう地域との連携を図る。

### 2) 血管疾患への対応

内科外科の連絡が緊密である体制を生かし、末梢血管疾患、大動脈疾患等の血管疾患対応を拡大する。ステントグラフトの導入を目指すとともに、ようやく導入することができた末梢血管疾患に対するエキシマレーザー治療などの末梢動脈疾患の症例増加を図る。

## ■スタッフ

当科は、産婦人科疾患全般に関する診断・治療を行っており、生命の誕生と、女性の健康に深く関与する診療科として女性の一生に寄り添った医療を提供しています。

## &lt;スタッフ構成&gt;

副院長・部長 小林浩一  
部長 橋本耕一  
医師 中林正雄、丸山麻梨恵、  
岡村彰子、入江美穂、  
嘉和知成美、高梨真琳

## ■診療内容

1. 妊娠と分娩：妊産婦の皆様とご家族には十分な妊婦ケアを行いつつ、安全で満足のいく分娩を経験できるよう配慮しています。経産婦に限り、和痛分娩にも対応しています。
2. 良性婦人科手術：子宮筋腫や卵巣嚢腫の手術では、良性と思われる場合は積極的に腹腔鏡下または腹腔鏡補助下手術を行っています。さらに粘膜下筋腫や子宮内膜ポリープは、子宮鏡下手術を行い、外陰・腔壁のコンジローマには下平式高周波電気手術器による焼灼を行っています。
3. 婦人科悪性腫瘍：婦人科の悪性腫瘍には子宮頸癌、子宮体癌（内膜癌）、卵巣癌などがあります。当科では、子宮頸癌、体癌（内膜癌）や悪性の疑われる卵巣腫瘍については、婦人科腫瘍専門医の橋本耕一部長を中心にできるだけ迅速に必要な検査を行い、早期に手術を行うことを心がけています。外科、大腸肛門外科、泌尿器科などとも密接に連携をとっており、必要十分な手術ができる体制を確立しています。手術後の抗癌化学療法も行っています。放射線治療が必要な患者さんには、他院と連携を取って行っています。

## ■2023年度実績

分娩数 179件  
開腹手術件数 26件  
(帝王切開を除く)  
腹腔鏡手術数 72件

## ■2024年度の取り組み

1. 2012年1月から産婦さんが分娩室に入室した時点で会陰から超音波断層法を用いて分娩の進行と児頭の下降をみています。入室から分娩までに時間のかかる場合は、適宜超音波を行い、児頭の下降や回旋の状態をチェックしています。
2. 2024年2月から、経産婦に限り和痛分娩に対応しています。計画分娩として頸管の熟化を確認しながら日程を調整し、麻酔科医による硬膜外麻酔下の陣痛誘発による和痛分娩を行っています。
3. 2023年度に橋本耕一部長が内視鏡技術認定医を取得しました。これまで以上に腹腔鏡下手術に対応できる体制が整っています。
4. 産後約2週間に、助産師による「産褥サポート外来」を行っています。サポート外来ではマタニティブルーや産後うつ病といった褥婦さんの心の問題に対するケアと、授乳や子育てに対するサポートを行います。

## ■スタッフ

泌尿器科は腎臓、尿管、膀胱、尿道などの排泄器官と、精巣、前立腺などの生殖器官という多岐にわたる臓器の診断、治療を行っている。

## &lt;スタッフ構成&gt;

部長 加藤 司 顯 1名  
 医師 佐藤 千紗 1名

## ■診療内容

- 1) 前立腺癌の診断は経直腸エコーガイド下生検が必要だが、検査に伴う痛みがしばしば問題となる。当科では、全身麻酔下で痛みが軽減できるように検査をおこなっている。
- 2) 各外科系診療科と連携を密にし、尿管狭窄や尿管癒着の疑われる症例に対し、術中尿管損傷の合併症を低減させるべく、尿管カテーテルや腎瘻の挿入をおこなっている。
- 3) 尿路結石の治療に関しては、体外式衝撃波結石碎石術（ESWL）に加え、ホルミウムレーザーを使用した経尿道的尿路結石碎石術（TUL）も行っている。

## ■2023年度実績

膀胱鏡	304例、	前立腺生検	52例
尿管カテーテル挿入	片側		19例
	両側		46例
尿管ステント挿入	片側		15例
	両側		3例
尿管ステント抜去術			12例
腎瘻造設術			5例
腎全摘除術			1例
腎尿管全摘除術			3例
経尿道的膀胱腫瘍切除術（TUR-BT）	30例		
経尿道的前立腺切除術（TUR-P）	2例		
経尿道的尿路結石碎石術（TUL）	33例		
体外式衝撃波結石碎石術（ESWL）	19例		
経尿道的膀胱碎石術	7例		
陰嚢水腫根治術	2例		
高位精巣摘除術	1例		
膀胱全摘除術+回腸導管造設術	1例		

## ■2024年度の取り組み

- 1) 腹腔鏡下手術での腎、腎盂尿管、精索静脈瘤の治療

腎腫瘍、腎盂腫瘍、尿管腫瘍などの手術療法は腹腔鏡もしくは後腹膜鏡でおこなうことが標準術式となってきた。今後も安全を第一に侵襲性の低い腹腔鏡下手術の推進を行ってまいりたい。

- 2) 尿路結石の治療

長径5mm以下の結石は自然排石する可能性が高いので、まずは排石を促す薬物療法を行う。

結石の大きさが5mm以上の尿路結石は、手術療法が必要になってくる。当科では、体外で発生させた衝撃波を収束させて結石に伝え、結石を砂状に碎石する治療法である、体外式衝撃波結石碎石術（ESWL）に加え今年度からホルミウムレーザーを使用した経尿道的尿路結石碎石術（TUL）も行っている。

尿路結石治療はESWLとTULの併用療法が有効である。今後、ESWLとTULでより積極的な尿路結石の治療を行っていく。

- 3) 前立腺癌の治療

前立腺癌の治療法として、内分泌療法、外科療法、放射線療法がある。今後も当科では治療を受ける方の体力や生活習慣なども考え合わせ、治療にあたっていく。

**■スタッフ**

全ての皮膚疾患を対象とした診断および治療を外来・入院にて行っている。またグローバル規模の臨床試験にも参加し、高度かつ先進的な治療の開発にも携わっている。

## &lt;スタッフ構成&gt;

部長 鳥居 秀嗣 1名  
医師 小久保美央 1名

**■診療内容**

あらゆる皮膚疾患を対象としてエビデンスに基づいた治療を、学会等から示されているガイドラインなどに沿って実践している。最近治療の進歩が目覚ましい乾癬においては、活性型ビタミンD3・ステロイド配合剤のフォーム等の新しい基剤が導入されている。さらにナローバンドUVBやエキシマライトによる光線療法あるいはアプレミラストやシクロスポリン、レチノイドに加え、最近ではデュークラバシチニブ（TYK2阻害薬）による内服療法も行っている。これらに対しても効果不十分の場合や、著しくQOLが障害されている症例に対しては、生物学的製剤による治療も行っており、現在保険承認を受けている全ての生物学的製剤について、豊富な使用経験を有している。乾癬性関節炎に対してはウパダシチニブ（JAK阻害薬）も使用する場合がある。

アトピー性皮膚炎に対しては、悪化因子の検索やスキンケア指導を行った上で、従来のステロイドやタクロリムスに加え、近年はデルゴシチニブやジファミラスト等も用いた外用療法を行っている。また重症例に対しては、短期的なシクロスポリン内服療法あるいはデュピルマブやトラロキヌマブ（皮下注）による治療を行なっているが、こちらも経口JAK阻害薬（バリシチニブ、ウパダシチニブ、アプロシチニブ）を使用するケースが増えてきている。また蕁麻疹に対しては難治例に対しオマリズマブ（皮下注）を使用することもある。

皮膚腫瘍の手術も積極的に行っており、粉瘤や脂肪腫などの良性腫瘍は主に外来にて手術を行っているが、基底細胞癌や有棘細胞癌などの悪性腫瘍に対しては、状況に応じて形成外科に依頼することもある。さらに帯状疱疹や蜂窩織炎、中毒疹などは必要に応じて入院の上、点滴による治療を行い、皮膚筋炎やエリテマトーデスなどの膠原病

や類天疱瘡、天疱瘡などの水疱症に対しては免疫グロブリン大量療法を含む治療を行っている。また前出の乾癬に加え、白斑や皮膚悪性リンパ腫などに対しても、主にナローバンドUVBやエキシマライトによる光線療法を月、木、金の午後予約制にて行っている。また入院患者を対象とした褥瘡回診を毎週木曜日に行っている。

**■2023年度実績**

入院患者数 延べ 274名  
外来患者数 延べ 6,853名

**■2024年度の取り組み**

## 1) 地域医療への貢献

密な病診連携を心がけており、引き続き診断が難しい症例や特に乾癬、アトピー性皮膚炎等においては生物学的製剤使用承認施設として、難治例や入院加療の必要な患者の迅速な受け入れに努める。

## 2) 新しい治療法への取り組み

現在乾癬に対する複数の国際共同臨床試験を行っているが、これ以外にも各種皮膚疾患において新規薬剤の開発が進んでおり、今後ともこれらに積極的に参加し、治療選択肢の拡大に貢献してゆきたい。

## ■スタッフ

当科は、感染性疾患などの小児の一般診療から発達相談や遺伝学的検査など専門分野まで幅広い診療を外来で行っております。当院で出産した新生児も入院から退院後の外来まで診せて頂いております。

### <スタッフ構成>

部長：高松 朋子

医員：上田 美希、伊上 敦也 3名

## ■診療内容

流行性疾患の感染症の診療は予約外で午前・午後と受け入れております。

慢性頭痛や、起立性調節障害、神経発達症、夜尿、夜泣きなどの発達相談は専門外来の神経外来でほぼ毎日診察を行っております。質問紙表を用い、当日MRI検査を行えるなどクリニックや周辺医療機関からご紹介を頂いております。

遺伝外来は東京医大遺伝子診療センター元教授の沼部博直先生が行っており、数か月先まで予約が埋まっております。遺伝学的検査のみならず、患者様の成育歴に沿ったカウンセリングや助言を行っております。出生前コンサルト相談や家族性疾患・遺伝性疾患が疑われる成人の紹介も受けております。

2023年からは舌下免疫療法を開始し、アレルギー診療の範囲を広げています。

## ■2023年度実績

2023年度は新生児入院数85例、総外来患者5,567人でした。遺伝学的検査ではマイクロアレイ染色体検査は14件、外部へのエクソーム検査依頼数16件と検査数を増やしております。

研究業績：

原著論文：

当院における新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症11例の臨床像 東京医科大学雑誌、81(3)2023  
伊上敦哉、千代反田雅子、渡邊駿、大野幸子、赤松信子、長尾竜兵、西亦繁雄、柏木保代、山中岳  
学会発表：

### ①小児薬剤抵抗性てんかん患者における末梢

単球の免疫学的検討について 第65回日本小児神経学会 高松朋子、中澤はる香、林佳奈子、渡邊由祐、春日晃子、鈴木慎二、森那月美、竹

下美佳、森地振一郎、石田悠、呉宗憲、小穴信吾、柏木保代、山中岳（推薦演題選出）

- ② A female patient of Weiss-Kruszka Syndrome with 6 MB interstitial deletions of 9p31.1q32 including a whole ZNF462 gene. Human Genetics Asia 2023. Hironao NUMABE, Tomoko TAKAMATSU, Noriko MIYAKE

## ■2024年度の取り組み

### ①遺伝外来の拡充

これまで月2回であった遺伝外来は、2024年度は月3回に外来枠を増設して対応しています。2023年より国立国際医療研究センター疾患ゲノム研究部の共同研究先としてエクソーム解析件数の増加を見込んでいます。

### ②小児生活習慣病外来の開始

学校健診で肥満傾向を指摘された小児を主に対象とし、生活習慣病の精密検査や食事・運動の細やかな指導を行います。無理のない指導で心理面のサポートも大事にしています。

### ③新生児対応の拡充

- ・2023年より無侵襲的出生前遺伝学的検NIPTが産科で開始されました。当科では出生前コンサルト専門医としての協力を行っております。
- ・2023年より2週間健診、2ヶ月健診を開始しております。出産からその後のフォローまで継続した母子のサポートが行えるよう体制を強化したいと思います。

## ■スタッフ

耳鼻咽喉科は常勤医 2 名、非常勤医 4 名で診療にあたっている。

### <スタッフ構成>

部長 金谷 佳織

医師 柴崎 仁志 2名

### <非常勤医師>

医師 水上 藍子（嚥下専門外来）

医師 鴨頭 輝（めまい専門外来）

医師 勝然 昌子（補聴器外来）

医師 橘 澄（一般外来）

## ■診療内容

耳鼻咽喉科領域全般に関して内科的治療ならびに外科的治療を行っている。

内科的治療の対象となる疾患としては、急性咽喉頭炎などの炎症性疾患に加え、突発性難聴、めまい、顔面神経麻痺などがある。病状によって適宜入院加療を行っている。

外科的治療の対象となる疾患としては、慢性副鼻腔炎などの鼻副鼻腔疾患、声帯ポリープや慢性扁桃炎などの咽喉頭疾患、耳下腺腫瘍などの頭頸部疾患がある。特に鼻科疾患については内視鏡、マイクロデブリッターなどの手術支援機器により安全性、手術時間の短縮が可能になっている。

嚥下外来では医師、摂食嚥下認定看護師、言語聴覚士、栄養士で構成される摂食嚥下チームで嚥下内視鏡検査（VE）、カンファレンスを行い、嚥下障害患者への介入、訓練指導を行っている。

めまい外来では電気眼振図検査（ENG）、前庭誘発筋電位検査（VEMP）などによる精査を行っている。

## ■2023 年度実績

外来患者数：4,351 名（延べ）

入院患者数： 642 名（延べ）

紹介患者数： 278 名

手術患者数： 47 名

## ■2024 年度の取り組み

### I. 外来・入院診療

2023 年度は、前年度と比較し紹介患者数、入院延患者数は増加したが手術件数はほぼ同数であった。2024 年度も引き続き、近隣医療機関からの紹介患者に対する適切な精査加療を行い、状態が落ち着いている患者は逆紹介で連携を密にしながら、紹介率、逆紹介率の維持、向上に努めていく。また新たな知識、技術、資格を得るため積極的に研修会等に参加し研鑽を積んでいきたい。

## ■スタッフ

当科は、幅広い眼科疾患の診断・治療を外来および入院にて実施している。手術は白内障手術、緑内障手術、外眼部手術を中心に、外来は緑内障・ぶどう膜炎・視神経疾患・角膜疾患を含む眼科疾患全般の診療を行っている。

### <スタッフ構成>

部長 地場達也

非常勤医師：藤野雄次郎（ぶどう膜炎診療） 1名

視能訓練士：市橋 幸子

山田 仁美

中島 佳恵 3名

## ■診療内容

白内障、緑内障、ぶどう膜炎、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性症、視神経疾患、眼窩炎症性疾患など、幅広い眼科疾患の診療を行っている。また眼外傷や急性緑内障発作などの緊急疾患にも可能な限り対応している。

白内障手術は、日帰り手術や入院手術で行っており、手術患者の負担を軽減させる様々な改善を行っている。

緑内障手術は、線維柱帯切除術、線維柱帯切開術、隅角癒着解離術、毛様体光凝固術等、病期に応じたほぼすべての緑内障手術に対応している。

外眼部手術（霰粒腫、翼状片、眼瞼内反、眼瞼痙攣、眼瞼下垂等）も積極的に行っている。

加齢黄斑変性症、網膜静脈閉塞症、糖尿病黄斑浮腫、近視性脈絡膜新生血管などの網膜疾患に対する抗 VEGF 薬硝子体内注射に関しては、患者の負担を軽減させるべく眼科外来処置室で施行しており、現在安定した成績が得られている。

現在、常勤医師 1 名・非常勤医師 1 名の体制で入院・外来診療を行っている。

## ■2023年度手術実績(2023年4月～2024年3月)

白内障手術	399件
緑内障手術（濾過手術、流出路再建術他）	17件
眼瞼手術（眼瞼下垂、眼瞼内反他）	9件
眼表面手術（結膜嚢形成）	1件
抗 VEGF 薬硝子体内注射	142件
ボトックス注射（眼瞼・顔面痙攣）	5件

## ■2024年度の取り組み

低侵襲な緑内障手術を導入し、線維柱帯切開術や線維柱帯切除術の日帰り緑内障手術を開始しており、今後さらなる手術患者の負担軽減や安定した手術成績を目標としていく。

白内障手術においても積極的な日帰り手術を目標とし地域医院との連携を充実させていく。

眼疾患の手術加療、抗 VEGF 薬硝子体内注射等の治療に関して、近隣病医院との病診連携をさらに推進し、眼科診療における地域医療への貢献を目指す。

一般眼科疾患においても、外来待ち時間の短縮、患者満足度の向上、病診連携のさらなる推進を目指す。

## ■スタッフ

部長 竹下 浩二  
 医長 牟田 信春  
 医師 佐々木 巴  
 北川 幹太

## ■診療内容

当科では、主に、CT、MRI、核医学（RI）の画像診断や診断手技を応用した IVR (interventional radiology) を実施している。

また、病診連携としては、他施設依頼の CT、MRI、核医学検査、骨塩定量検査も随時施行している。

## 放射線診断：

CT、MRI、核医学検査を安全、円滑に遂行するためのリスク管理を行いつつ、機器を有効に活用し、必要な情報が迅速に提供できるようなマネジメントを行っている。また、当院で施行した CT、MRI、RI 検査は、放射線科診断専門医が読影し、報告書を作成した。（ただし、一部の検診や循環器関連の症例を除く）

CT では、通常の撮影に加え、80 列ヘリカル CT 装置による 3D、Volumetry、CT アンジオグラフィー、冠動脈 CT、CART CT など各診療科の要望に応じた検査を施行した。救急疾患にも即時対応した。

MRI では、通常の撮像法に加え、心疾患への対応、全身拡散 MRI (DWIBS) による悪性腫瘍の精査も施行可能とした。救急疾患にも随時対応した。3.0TMRI 装置の導入により画質の向上がみられた。

核医学では、心臓、骨、脳血流、腎血流、肺血流、リンパ管シンチグラフィーなどを中心に施行した。

IVR では、血管系では、主として肝細胞癌に対する動脈塞栓術 (TACE)、消化管出血、子宮不正出血、喀血に対する塞栓術、CV ポート埋め込み術などを施行した。病変の局在と手術適応を決める副腎静脈サンプリングも施行した。新たな試みとして乳糜腹水や乳糜胸に対しリンパ管塞栓術や胸管塞栓術を施行した。非血管系では CT ガイド下生検、膿瘍ドレナージ、肺病変に対する VATS 前マーキングなどを施行した。

## 放射線治療：

2025 年度の放射線治療稼働再開を目指し委員会を立ち上げた。

## 病診連携：

病診連携を拡充し近隣医療機関からの画像診断の要請に迅速に対応した。

## ■ 2023 年度実績

CT	13,991 件
MRI	6,057 件
核医学	492 件
IVR (血管系)	103 件
(非血管系)	32 件

## ■ 2024 年度の取り組み

- 放射線診断では、機器およびスタッフの改変にともない、診療サービスの向上に専心努力中。
- 3.0TMRI 装置を用いた診断の質的向上や検査件数の増加に努める。
- 引き続き、CT、MRI、RI 検査の全件レポート読影に加え、読影加算 2 を取得することにより病院収益の向上に寄与する。
- 読影レポート既読管理により、読影レポート見落としによる医療事故の防止に努める。
- 血管系、非血管系を含めた IVR 件数の増加に努め、各科の診療支援に貢献する。
- 初期研修医を積極的に受け入れ研修指導を充実に努める。
- 放射線治療装置導入計画を具体的に推進する。

## ■スタッフ

2022年度より日本麻酔科学会指導医5名と専門医2名体制となった。また、業務量に応じて、適宜非常勤医を招聘し、手術を安全に行えるよう人員を配置している。

### <スタッフ構成>

部長 赤澤 年正

医長 中村里依太

医師 牧瀬 杏子、鈴木 由貴、

金井理一郎、佐藤 友彦、今西 佑美

以上7名

## ■診療内容

近年、内視鏡手術の増加など、手術術式が多様化している。このような多様化する手術術式に対応できる麻酔法や術後鎮痛を心掛けている。当麻酔科では日本麻酔科学会の専門医または指導医が常駐し、安全・安心な麻酔に加えて、急変時に対応できる体制を整えている。

患者の高齢化は全国的な傾向であり、当院の手術患者も高齢化が進んでいる。それに伴い、複数の重症な合併症を有する患者も増加傾向である。このような患者に対して綿密な術前評価を行い、関連他科や、ICUなどの関連部署と連携を図りながら安全な術中及び術後管理を心掛けている。

さらに、高齢の患者に安心して手術を受けていただけるよう、丁寧な手術前の説明を心掛けている。

手術中の安全対策とともに、手術後の鎮痛も重要である。手術後の鎮痛に対して、適応のある症例では硬膜外カテーテルによる持続鎮痛を行い、そのほかの症例には経静脈的自己調節鎮痛法 (intravenous patient-controlled analgesia : IV-PCA) も積極的に取り入れている。また、各種神経ブロックも症例に応じて行っている。

## ■2023年度実績

年間麻酔科管理症例数 2,098 例

(うち全身麻酔症例 1,901 例)

## ■2024年度の取り組み

- ①日中及び夜間の緊急手術に対して迅速かつ柔軟な対応を心掛ける。
- ②産婦人科と協力して和痛分娩を安全に行う。

## ■スタッフ

当科は、全身疾患を有する患者の歯科診療と口腔外科診療を中心に（小児歯科を除く）、口腔ケアも積極的に行っている。

### <スタッフ構成>

部長	中野 雅昭	1名
医長	熊谷 順也	1名
非常勤医師	生田 稔、儀武 啓幸、 木原恵理奈	3名
歯科衛生士	大島あゆみ、有馬 利江、 石井寿美子	3名
非常勤歯科衛生士	北出すみ子	1名
歯科技工士	中野 英子	1名

## ■診療内容

・全身疾患を有する方の歯科診療  
心疾患、肝疾患、腎疾患、糖尿病、感染症などの全身疾患を有する患者の歯科診療を行っている。他科で入院中の患者の歯科治療依頼にも積極的に対応している。骨粗鬆症やがんの骨転移に対する薬剤のうち副作用として顎骨壊死の報告があるものに対して、導入前に口腔内の感染源チェック、抜歯などの観血的処置や口腔清掃を行っている。必要に応じて院内各科のコンサルトを受けながら連携の上診療にあたっている。

### ・口腔外科診療

埋伏智歯抜歯、歯性感染症、良性腫瘍や嚢胞病変、外傷（歯の脱臼や骨折、口腔内裂傷など）、粘膜疾患（口内炎、扁平苔癬など）や顎関節症に対する治療などを行っている。悪性腫瘍に関しては東京医科歯科大学口腔外科と連携している。外来での小手術以外に、複数の埋伏歯の抜歯や嚢胞摘出、骨隆起除去などに対する全身麻酔下での入院手術も行っている。

### ・口腔ケア

がんや心臓血管外科、整形外科（人工関節置換術）、脳神経外科などの全身麻酔手術や、化学療法、緩和医療中の周術期等口腔機能管理を行っている。他科入院中の臥床患者に対して誤嚥性肺炎予防などの目的で、病棟での口腔ケアを行っている。また、NST、DMST チームとして歯科介入も行っている。

### ・インプラント、顎義歯診療

デンタルインプラントによる咬合再建や、口腔内にがんの切除や口唇裂口蓋裂などによる欠損のある方の顎義歯作成なども行っている。

## ■2023年度実績

外来延患者数	7,939人
入院延患者数	68人
義歯総件数	81例
レジン床義歯	78例
金属床義歯	3例
顎補綴	1例
インプラント	8本
埋伏智歯	137例
嚢胞	20例
炎症	28例
良性腫瘍	15例
外傷	34例
粘膜疾患	22例
顎関節症	11例
全身麻酔手術件数	23件
周術期等口腔機能管理	559件
病棟口腔ケア介入件数	2,325件
NST 歯科連携算定件数	632件

## ■2024年度の取り組み

### 1) 入院手術件数の増加

顎骨嚢胞、埋伏智歯、骨隆起等に対する全身麻酔下手術件数を増やしたい。

### 2) 口腔ケア

緊急手術に対する周術期等口腔機能管理を、可能であれば術前から介入したい。

**■スタッフ**

当科では常勤医師1名と非常勤医師2名体制で多様な精神疾患に診療を行っている。専門看護師をはじめ多職種の協力にて成り立っている。

## &lt;スタッフ構成&gt;

部長 野本 宏 (精神保健指定医)

非常勤医師 古田 夏紀

非常勤医師 武田 詩穂

3名

**■診療内容**

総合病院の精神科においては、身体疾患で入院した患者が治療をスムーズに受けられるように、また精神症状が身体治療の妨げとならないように、主科をサポートすることが重要になる。当院においては、心疾患の緊急入院、周術期患者、ICU加療を要する患者などの急性期から、クローン病などの炎症性腸疾患、間質性肺炎を始めとした呼吸器疾患、悪性腫瘍など、治療が長期に亘る患者まで、幅広い疾患の対応が必要になる。昨今はCOVID-19感染やその後遺症患者の情緒が不安定となることがあり、抗不安薬を用いる機会が増えている。2020年度からはせん妄ハイリスク患者ケア加算を新たに算定する方針となり、当科も参画した。当院は地域で急性期病院としての役割を担っており、地域との連携、退院や入所を考える都合上、過度な鎮静や廃用を避ける必要がある。精神科単科病院と異なり、入院日数や行動制限の限界など制約が多い中で、薬物療法、非薬物療法の併用が必要で、日々試行錯誤している。急性期の患者は意識障害や拘禁反応、急性ストレス障害や適応障害を来たしやすく、予後が限られている患者には、往々にして抑うつ症状や不眠、不安・焦燥が出現する。これらの症状には非薬物療法が重要であるため多職種で支持的な対処を行っている。また、時として他科入院患者が華々しい精神症状を呈したり、入院後に初めて精神疾患の既往が判明したりすることがある。このような場合、SWの協力や当科独自のネットワークを通じて、大学病院・有床総合病院や精神科単科病院への転院を調整している。そのほか、院内他部署との連携としては、認知症ケアチーム、精神科リエゾンチーム（精神看護専門看護師、認知症看護認定看護師、MSW、理学療法士、臨床検査技師、放射線技師など多職種）に精神保健指定医として加わりチーム回診を行っ

ており、精神看護専門看護師の役割が非常に重要となっている。情報共有と多職種によるカンファレンスを行い、より良い対応ができるように心掛けている。緩和ケアチームにも精神科として参加し、がん患者の精神症状に対処している。外来診療に関しては、精神科病棟をもたないこともあり、当院を退院した患者のフォローアップや慢性期患者の継続加療を重点的に行っている。児童思春期症例、依存症症例などは専門機関へ紹介している。常勤医師のみでは微力であるが、非常勤医師の協力を得て外来診療を行うことで、初診患者から突発的な事例まで対応できるように工夫している。また、院内産業医として職員のメンタルヘルス向上に努めている。

**■2023年度実績**

・精神科リエゾンチーム診療数

せん妄（認知症含む）165件、うつ病29件、神経症31件、人格障害4件、器質性精神障害5件、統合失調症11件、精神遅滞1件、依存症8件

・外来診療数 2,312件

**■2024年度の取り組み**

入院患者の迅速な対応、幅広い症例への対応を行う。産業医として、過重労働の防止、労働負担の適正化、COVID-19対応による精神的疲弊など職員のメンタルヘルス改善を試みる。せん妄ハイリスク患者ケア加算を啓蒙する。自科症例のみならず他科との連携症例や、入院患者に頻発するせん妄の症例を蓄積して、学会発表や論文作成を行っていく。精神科単科病院と連携し研修医の指導に当たる。また、ハラスメント委員会にて精神科の立場から院内のハラスメント問題の解決を試みる。



## ■スタッフ

### <スタッフ構成>

部長 阿部 佳子  
 医長 児玉 真 非常勤医師 8名  
 常勤医 阿部 佳子  
 児玉 真

### 非常勤医

矢澤 卓也(獨協医科大学病理学講座教授)  
 八尾 隆史(順天堂大学医学部人体病理病態学教授)  
 笹島ゆう子(帝京大学医学部病理学講座教授)  
 本田 一穂(昭和大学医学部顕微解剖学講座教授)  
 森 正也(三井記念病院病理診断科前部長)  
 福里 利夫(帝京大学医療共通教育センター教授)  
 李 治平(さいたま赤十字病院病理診断科)  
 岩谷 舞(信州大学医学部附属病院臨床検査部)

常勤技師:6名(細胞検査士4名、検査技師2名)

非常勤技師:細胞検査士2名

## ■診療内容

- ・病理組織診断
- ・病理組織迅速診断
- ・細胞診断
- ・病理解剖
- ・手術検体切り出しおよび標本作製
- ・免疫組織化学検査
- ・PCR 検査
- ・in situ hybridization
- ・各臨床科の研究発表または論文投稿における病理写真の準備提供などの研究協力
- ・カンファレンス (CPC 5回、呼吸器カンファレンス8回、婦人科・放射線・病理カンファレンス10回、外科カンファレンス6回、血液カンファレンス5回、腎臓カンファレンス2回 IBD カンファレンス1回)

## ■2023年度実績

組織診検体総数 5,875件  
 (生検4,032件、手術1,843件)  
 迅速診断 50件  
 細胞診検体総数 5,094件  
 (院内:2,762件、健診センター:2,332件)  
 (院内婦人科1,784件、院内その他978件)  
 病理解剖 14件  
 顕微鏡写真提供 25件

表1:過去5年の組織診検体数の動向

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
組織診検体総数	6,001	5,665	5,848	5,886	5,750
生 検	4,035	3,748	4,061	3,706	3,633
手 術	1,966	1,917	1,787	980	2,117
迅速診断	60	60	48	56	52
病理解剖	11	15	10	13	15
細胞診検体総数	3,675	3,310	3,080	3,059	4,986

表2:過去5年の細胞診検体数の動向

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
細胞診総件数	7,736	7,019	5,456	5,477	4,986
院内総件数	3,665	3,310	3,077	3,059	2,725
院内婦人科	2,293	2,017	1,833	1,853	1,690
健診センター総件数	4,071	3,709	2,379	2,418	2,261

## ■2024年度の取り組み

1. 各分野に高い専門性を持つ非常勤医がそろった状況を生かし、迅速かつ正確な診断をめざす。
2. 臨床科と必要かつ十分な情報を交換し、治療につながる病理診断をめざす。
3. 病理診断支援システムを活用し、医療安全に十分に配慮した効率の良いシステム管理を行う。
4. 外部制度管理制度に参加し、当科業務に対する客観的な評価を受け、改善が必要な点を是正する。
5. 病理診断および細胞診断に求められる専門知識更新のための講習会などに参加するとともに、学会における発表や論文投稿の機会をもつ。
6. 組織診断、細胞診断ともに定期的な内部検討会を行い、内部精度管理を高める。
7. 技師の細胞診資格取得などに向けた教育体制を整えるとともに、各技師の得意分野(細胞診、解剖補助、PCR検査など)の技術共有をはかる。
8. 研修医および若い病理医の育成をはかる。

## ■スタッフ

<スタッフ構成>

センター長 高澤 賢次  
医長 遠藤 陽子  
医長 江原 佳史  
医師 他 非常勤 17 名

## ■業務内容

医師は主に午前、午後の診察と結果の説明、判定を行う。常勤医師だけでは通常勤務の配置が不可能なため、非常勤医師が一部診察を担当している。

当日中に判明した D 判定や C 判定については、本人の希望を確認し、当日中に該当する専門外来受診を積極的に行っている。後日に判明した D 判定の受診者については内容に応じ、場合には至急仮結果報告書を郵送し、受診を促している。

そのほか画像読影については、二重読影や過去との比較読影を行ったりしている。また、心電図読影については循環器内科専門医が読影判定を行い、眼底写真については、眼科の専門医が読影を行うなど病院内の勤務医などが読影の判定を行っている。

## ■2023 年度実績

2023 年度の院内受診者総数は 16,719 名（男性 10,360 名、女性 6,359 名）であった。なお、2022 年度の院内受診者総数は 15,504 名（男性 9,249、女性 6,255 名）であり、1,215 名の増加となっている。

収益に関しては前年度比で 11,552（千円）の増であり人件費など費用の見直しを行った結果、2023 年度の収支は 32,928（千円）と、前年度比で 16,792（千円）の増収となった。

年末から渉外活動を再開し、費用の圧縮も努めたことから収支が改善した。

## ■2024 年度の取り組み

- ・ 渉外活動の更なる強化に努める。
- ・ 受診者がスムーズに健診を回れるように努める。
- ・ 1 日あたりの受診者数増加を目指すため、業務の効率を図る。
- ・ 病気の早期発見だけでなく生活習慣の改善などを通して罹患・発病の予防に努める。

## ■スタッフ

リハビリテーション科では、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が勤務し、それぞれ理学療法、作業療法、言語聴覚療法、摂食機能療法を実施している。

## &lt;スタッフ構成&gt;

部長	飯島 卓夫
疾患別専任医師	6名
理学療法士長	一条ふくこ
理学療法士	7名
作業療法士	3名
言語聴覚士	1名
事務員	2名

## ■診療内容

急性期医療機関のリハビリテーション部門として、主に入院患者を対象に心身機能回復及び機能低下予防、早期退院、家庭復帰・社会復帰への働きかけとして、下記の疾患別リハビリテーションを実施している。

## 1) 脳血管疾患等リハビリテーション

脳梗塞、脳腫瘍などの脳血管疾患、脊髄症などの疾患に対し理学療法・作業療法・言語療法を発症または術後早期から開始、起居動作や歩行、高次脳機能・コミュニケーション能力の回復に取り組んでいる。

## 2) 運動器リハビリテーション

変形性関節症、骨折、脊椎脊髄疾患、スポーツ障害、手の外科などの整形外科・脊椎脊髄外科疾患を対象に運動器の機能改善を図り、運動能力改善に努めている。

## 3) 呼吸器リハビリテーション

呼吸機能障害の軽減、運動機能の低下予防・改善を目的とした呼吸体操の指導や持続性改善のためのトレーニングを実施している。

## 4) 心大血管疾患リハビリテーション

急性心筋梗塞や心不全等の循環器内科疾患・心臓血管外科術後の運動機能低下予防、また、疾患の再発予防、それに伴う患者教育を病棟看護師と連携して実施している。

## 5) 廃用症候群リハビリテーション

上記に該当しない疾患群の診療過程で生じる廃用症候群に対して起居動作・歩行を中心にADLの改善を目標として実施している。

## 6) 摂食機能療法

言語聴覚士と病棟看護師が連携して、摂食嚥下機能に問題を有す患者への食機能療法を行っている。

## ■2023年度実績

新患依頼件数	2,739件
入院	1,814人
外来	155人
疾患別リハビリテーション患者数	
脳血管疾患等リハビリテーション	319件
運動器リハビリテーション	969件
呼吸器リハビリテーション	424件
心大血管疾患リハビリテーション	171件
廃用症候群リハビリテーション	661件
摂食機能療法	165件
各科別患者数	23,896件 (実施件数)
内科	8,671件
整形外科	7,726件
脊椎脊髄外科	2,704件
脳神経外科・神経内科	1,129件
外科	1,253件
大腸肛門科	654件
泌尿器科	177件
リウマチ膠原病科	1,552件
その他診療科	22件

## ■2024年度の取り組み

- ・多職種連携の取り組みとして関係各部署との業務の提携、相互連絡・情報共有に努めていく。
- ・職場環境の整備・安全管理に努める。また、職員の適正な働き方を検討し、改革を推進する。

## ■スタッフ

検体検査（生化学・免疫・血液・輸血・一般）、微生物検査、病理検査、生理機能検査、遺伝子検査で構成され 外来採血業務、COVID-19 検査検体採取業務、健康管理センター業務（採血、尿、心電図・呼吸機能・眼底・超音波検査）及び耳鼻科外来の聴力検査も担っている。技師が多項目の検査を行うことで、ルーチン業務と完全二交代制による夜間・休日の救急対応も維持し、DM、NST、ICT、AST 等各委員会チーム医療の参画、学会発表など学術活動も積極的に行っている。

## &lt;スタッフ構成&gt;

臨床検査科診断部長	三浦 英明
臨床検査医	遠藤 陽子
臨床検査技師長	栗田千恵美
副臨床検査技師長	鈴木 智子
臨床検査技師	38 名
事務員	1 名

## ■診療内容

- ① 2023 年度の資格取得者は、該当者なし。
- ②部門報告
  - ・ COVID-19 検体採取を検査部全員で行い、迅速な結果報告により、患者、職員の安心・安全に繋がった。
  - ・ 検体検査部門は、持続皮下グルコース検査のセンサー装着、患者への説明およびデータ取込みなど継続して行った。
  - ・ 外来採血・採尿受付業務では朝の混雑時においても検査部全員のチームワークにより円滑な運用ができ患者サービスに繋がった。
  - ・ 糖尿病ラウンド、NST ラウンド、血液カンファレンスに参加し、チーム医療にも参画した。
  - ・ 微生物検査部門は抗菌薬適正使用ラウンド、耐性菌ラウンド、SSI ラウンド、BSI ラウンド、環境ラウンドに関わり、情報提供を行った。
  - ・ 生理検査の機器を更新し、精度の高い検査結果の維持をはかった。
  - ・ 病理検査システムの更新を行い、医療安全も考慮した構築を行った。
- ③外部精度管理に参加し良好な成績を収めた。

## ■ 2023 年度実績

	2022 年度	2023 年度
生化学・免疫検査	1,720,593	1,793,892
内分泌検査	28,290	29,115
血液学的検査	246,206	256,071
尿・便・髄液等検査	86,179	88,670
微生物学的検査	19,336	23,549
製剤入庫数	1,754	1,577
血液製剤廃棄率 (%)	0.4	0.3
治験検体取り扱い	104	205
心電図等検査	29,714	31,047
脳波検査	122	166
超音波検査	13,648	13,594
呼吸機能検査	3,212	4,368
前庭・聴力・眼科関連検査	23,230	23,543
ホルター ECG 院内解析(別掲)	398	386
COVID-19 遺伝子検査	19,105	9,509
COVID-19 抗原定量検査	4,288	3,885

## ■ 2024 年度の取り組み

- ①検体検査機器の安定稼働及び、精度の維持管理を担保するために、臨床検査機器、臨床検査システムの更新に向け準備を進める。
- ②タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会を全員が修了し、多種職に対し負担軽減に貢献できるよう効率的な配置を考える。
- ③病院機能評価の更新にむけてマニュアルの見直しなどを行い、誰が検査しても同じ精度を担保できるようにしていく。

# 放射線部門

部長 竹下 浩二

## ■スタッフ

放射線部では、患者さんが安心して質の高い医療を受けられるように多職種と連携し、チーム医療を実践している。

### <スタッフ構成>

部長	竹下 浩二
技師長	高倉 徹也
副技師長	山本 進治 町田 弘之
診療放射線技師	22名
事務員	2名

## ■診療内容

放射線部は、画像診断部門・放射線治療部門（機器更新準備中）・健康管理センター部門により構成され、一般撮影（マンモグラフィ、骨密度測定、歯科パントモグラフィを含む）、X線 TV 透視、CT、MRI、心臓カテーテル・腹部等血管撮影、核医学（アイソトープ）等の検査を行い、良質な医療を患者さんに提供している。また、放射線業務従事者や患者さんの被ばく線量管理を行い、被ばく相談にも対応している。

（医療被ばく低減施設認定：2024 年度に更新予定）

## ■2023 年度 更新機器

- ・2023 年 4 月導入  
X 線 TV 透視診断装置 CUREVISTA Open  
（富士フィルムメディカル株式会社）
- ・2023 年 4 月導入  
一般撮影装置 RADspeed Pro（島津製作所）
- ・2023 年 7 月導入  
移動型 X 線透視診断装置 CoreVisionLD  
（富士フィルムメディカル株式会社）
- ・2024 年 1 月導入  
乳腺撮影装置 FDR MS-3500  
（富士フィルムメディカル株式会社）

## ■2023 年度実績

	2022 年度	2023 年度
一般撮影室	37,138 件	33,411 件
マンモグラフィー	865 件	581 件
骨密度撮影	1,381 件	1,375 件
TV 室撮影	1,738 件	1,872 件
CT 室撮影	12,215 件	13,712 件
MRI 室撮影	4,993 件	5,653 件
血管撮影	47 件	103 件
心血管撮影	589 件	565 件
核医学	453 件	492 件
健診胃部撮影	5,746 件	5,581 件
健診マンモグラフィー	2,558 件	2,735 件
画像複製（CD 化）	6,270 件	7,806 件
医療被ばく相談	0 件	0 件

## ■2024 年度の取り組み

- ・専門職としての知識と技術を日々研鑽し、患者さんに安全安心でやさしい医療を提供する。
- ・チーム医療の一員として、患者さんの安全を確保し、タスク・シフト/シェアを実現していく。

## ■専門・認定資格取得者数

第一種放射線取扱主任者	3名
第二種放射線取扱主任者	1名
検診マンモグラフィー撮影認定診療放射線技師	3名
日本 X 線 CT 認定技師	6名
肺がん CT 検診認定技師	1名
核医学専門技師	1名
胃がん検診専門技師	2名
胃がん X 線検診技術部門 B 資格	1名
胃がん X 線検診読影部門 B 資格	1名
磁気共鳴専門技術者	4名
放射線管理士	7名
放射線機器管理士	7名
医療画像情報精度管理士	2名
臨床実習指導教員	1名
Ai 認定診療放射線技師	5名
画像等手術支援認定診療放射線技師	2名
上級救命技能認定	1名
BLS プロバイダー	2名
告示研修（基礎講習・実技研修修了者）	10名

## ■スタッフ

臨床工学部は、生命維持管理装置の操作や保守点検などの業務を担い、循環、代謝、呼吸等の領域に関与している。どの領域でも、医療チームの一員として医師や他の医療関係者と密接に連携し、患者の状況に適切に対応した医療を提供するため、チーム医療の実践に努めている。

### <スタッフ構成>

部長 高澤賢次 / 技士長 中井 歩  
 副技士長 渡邊研人 / 主任 富樫紀季  
 技士 板谷祥子、大塚隆浩、御厨翔太、  
 石丸裕美、丸山航平、菅原彩夏、  
 佐藤 諒、柴田大輝

## ■診療内容

**血液浄化領域：**工学的見地から血液透析、アフエレンス、急性血液浄化等の多方面にわたる分野の治療技術提供が可能である。血液浄化理論に基づく血液浄化療法の治療条件設定、清浄化透析液の高水準レベルの維持・管理、透析支援システムの操作、血液浄化機器の保守・管理などを担っている。2024年3月からは新しいLDL吸着療法（レオカーナ）の技術提供を開始した。

**循環器領域：**人工心肺装置の操作、各種造影検査や血管内治療、アブレーションやペースメーカーなどの不整脈治療、植込み型デバイス設定の調整や遠隔モニタリングなど、心臓血管外科医、循環器内科医と緊密な連携をとり、高水準な医療の提供に努めている。

**人工呼吸器：**確実に使用可能な状態に整備し、8F医療機器管理室から供給される。また、臨床使用中のIPPV、NPPV、HFNCの各装置は、毎日各ベッドサイドへの巡回安全点検を行うとともに、過不足ないよう台数調整している。

**除細動器：**配置部署すべての装置が正常に機能するか日常点検にて動作確認を行い、AEDにおいてもインジケータの確認やパッド等の消耗品管理を確実に実施している。

**手術室業務：**大腸・肛門外科の仙骨神経刺激療法においては、手術室での事前処置としてのリード植え込みから刺激装置の植え込み、術後のプログラムの操作説明、退院後の定期外来フォローへの立ち会い、データ管理まで一貫して治療に関わる体制を構築している。また、脊椎整形外科領域においては、自己血回収装置およびナビゲーションシステムの操作を担当している。また、手術室業務支援のため、2024年1月から大腸・肛門外科の器械出しに従事し、2024年5月以降では、呼吸器外科の内視鏡手術におけるスコープオペレーターもトレーニングを開始する予定である。

**医療機器管理：**臨床工学部における保守管理機器は、生命維持管理装置とその関連機器、輸液・シリンジポンプ、電気メス、多機能生体情報モニタ、パルスオキシメータなど多岐に渡っており、機器は年々増加の一途を辿っているが、市販データベースソフトを運用し、効率的な中央管理を実施している。また、バーコード管理を導入し、日常的に貸し出しする機器の貸出先や点検時期等の把握に活用している。

**その他：**近年では業務ローテーションにて幅広い知識・技術・視野を持った臨床工学技士の育成に取り組んでおり、人工心肺操作、アブレーション、血液浄化業務、手術室業務へのローテーションが一層推進された。

臨床工学部では認定資格取得や学会発表、論文執筆などにも力を入れている。認定資格は、試験

難易度が高い不整脈治療専門臨床工学技士を1名が取得、第1種ME実力検定は3名が合格しており、臨床工学技士11名が保有する資格は合計33個である。今年度の講演等を含む学会発表は16件、文献等の実績は4編であり、JCHO創立の2014年から累計で発表121件、文献等32編となった。2023年度は、第6回医工連携アワードにおいて「ペースメーカー統合管理サービス」を開発した渡邊研人が優秀賞を授与され、臨床工学部として累計8回目の学会賞受賞となった。

## ■専門認定者数

専門認定種別	人数
体外循環技術認定士	2
不整脈治療専門臨床工学技士	1
心血管インターベンション技師	2
MDIC	1
3学会合同呼吸療法認定士	5
第2種ME実力検定	7
第1種ME実力検定	3
臨床ME専門認定士	2
透析技術認定士	6
認定医療機器管理関連臨床工学技士	1
認定血液浄化臨床工学技士	1
腎代替療法専門指導士	1
アフエレンス認定技士	1

## ■2023年度実績

### ■主な治療技術提供実績

	2022年度	2023年度
血液透析	1,462	1,299
血液透析濾過	7,733	7,280
病棟透析	28	55
コロナ感染患者に対する透析	69	19
持続緩徐式血液透析濾過	5	0
エンドトキシン吸着	3	4
顆粒球除去療法	50	55
腹水濾過濃縮再静注法	15	10
血漿交換	12	15
LDL吸着療法	0	2
PCI	150	156
CAG	350	444
IVUS	132	142
シャントPTA	40	26
EVT	52	47
EPS	128	145
ABL	131	144
PMI	28	35
植込み型デバイス check	335	314
人工心肺心臓手術	22	13
PCPS	1	1
IABP	7	8
人工呼吸器使用中点検	448	284
NPPV使用中点検	103	64
ネーザルハイフロー使用中点検	222	250
人工呼吸器日常点検	65	55
NPPV日常点検	47	49
ネーザルハイフロー日常点検	50	43
ME機器日常点検	4,244	4,076
ME機器定期点検	909	772
ME機器修理対応	171	114
保育器日常点検	88	85
SNM植え込み	1	3
SNM check	11	38
自己血回収システム	27	26
脊椎整形外科ナビゲーション	36	22
器械出し	0	223

## ■2024年度の取り組み

- 業務効率化およびローテーション推進
- 学会発表・論文投稿の積極的な取り組み
- 学会認定資格等取得への積極的な取り組み
- 積極的な学会・セミナーへの参加
- コスト意識を一層高め、より効率的な医療機器管理に取り組む

## ■スタッフ

栄養管理室では、365日欠かすことなく患者への食事提供業務を行い、その他外来・入院患者の栄養指導、栄養管理を以下の体制で行っている。

### <スタッフ構成>

部長	久保田 啓介
室長	遠藤 さゆり
副室長	市川 奈津子
主任	奥村 真美子
管理栄養士	6名 (うち任期付1名)
栄養士	1名
調理師・調理作業員 (非常勤等含む)	21名
委託洗浄員	17名

## ■診療内容

### 1. 入院患者への食事提供 (給食管理)

食事は衛生的で安全、美味しいことを基本とし、季節のサイクルメニュー、行事食、選択食など楽しんで召し上がっていただけるよう趣向を凝らしている。患者さんからも好評であり、毎日メッセージをいただいている。

2023年度は入院後早期の嚥下スクリーニングにて誤嚥・窒息のリスク抽出がなされた後、患者さん個々に合った食形態の提供ができるよう働きかけてきた。さらに、誤嚥・窒息しにくい食品選定や提供形態・食種の変更に対して積極的に取り組み、事故防止に努めている。食事提供においては、季節の食材を積極的に取り入れ、取引業者の見直しも行うなど献立の見直しとコスト削減を図った。

### 2. 外来及び入院栄養指導等

外来栄養指導は、月曜日から金曜日の午前・午後、栄養相談室で行っているが、当日指導にも対応しており、受診から栄養指導までスムーズに行なわれている。

栄養指導は、食事に影響する生活リズムや運動なども含めた聞き取りを行い、病態の悪化を防ぎ、セルフケアへの意識を高められるような指導を心掛けている。より重要度の高い項目に絞り、実践しやすい内容を提案もしている。指導回数や媒体等の見直しにより、指導件数が増加傾向の炎症性腸疾患 (IBD) 患者さんでは、診察の度に継続的な栄養指導を希望する方が多い。

入院栄養指導は、入退院支援室を通じて事前に特別治療食対象者を把握している。一般食の指示

であっても、管理栄養士の視点により必要と判断した際には、特別食の変更を付箋で医師へ依頼、対応をお願いしている。2024年度も必要な患者を漏らさないよう特別食の提供とともに、栄養指導へ積極的に取り組んでいきたい。

### 3. 入院患者の栄養管理、その他

2023年度は人員の事情により専従→専任体制に切り替えた月もあった。1回診での算定上限により、NST介入件数は前年度より331件減少した。

IBDの研究は継続中であり、症例を積み重ねて今後の食事療法の新しいあり方として結果を出していきたい。

## ■2023年度実績

・個人栄養指導件数	4,593件
(内訳: 入院1,495件 外来3,098件)	
・集団栄養指導件数	15件
・栄養管理計画書	7,050件
・NST介入件数	1,719件
・歯科連携加算	632件
・早期栄養介入管理加算	400点 607件
	250点 637件
・個別栄養食事管理加算	61件
・栄養情報提供加算	5件
・特別食	平均42.0%/月
・糖尿病教室 (食事会)	中止中
・給食だより発行	102~106号
・IBD通信発行	7号

## ■2024年度の取り組み

- ・栄養指導件数の維持: 月300件
- ・NST加算: 月120件の維持
- ・特別治療食加算40%以上の維持
- ・早期栄養介入管理加算算定 (400点/250点) 算定率月80%の維持
- ・栄養評価法の見直し 他

## ■スタッフ

薬剤部は、様々な薬物療法においてその薬学的な介入により、良質で安全な医療の提供と病院経営に貢献することを目標としている。医療過誤・事故を防止するセーフティマネージャーとしての役割も果たし、患者さんを中心としたチーム医療が実施されるよう他部門との協力体制をとり業務を構築している。

### <スタッフ構成>

薬剤部長 井出泰男  
 主任薬剤師 中村淳子 高橋理子 小笠原拓也  
 薬剤師 吉井 智 中村矩子 関 将行  
 坂倉裕佳 磯田一博 田口莉沙  
 小原悠那 高藤綾香 齋藤 舞  
 佐藤会連 榎本実里 江頭菜穂  
 小野直巳  
 (渡辺真美 向井由希子 浅川千尋  
 岡田夕佳 (育休中))  
 非常勤薬剤師 小川真理

## ■診療内容

今年度は、部内の中心業務である調剤・注射、抗がん剤調製、病棟業務に各1名の主任を配置して効率的な業務運営を行なうことができた。このことは薬剤管理指導算定件数や1週間あたりの平均病棟薬剤業務時間の増加などにその具体的な効果が表れている。薬剤管理指導算定件数については、月平均1,015件と1,000件以上を達成することができ、年12,177件となって前年度11,341件を上回った。

主たる業務は、一般調剤・注射調剤業務、医薬品管理業務(治験薬含む)、医薬品情報業務(DI)、製剤業務(院内製剤・抗癌剤調製・無菌注射薬調製)、病棟業務があり、絶えず業務の見直しを図り、業務効率の向上を図っている。また、病院機能の強化の取り組みとして、感染対策、抗菌薬適正使用支援(AST)、医療安全、NST、糖尿病、緩和ケアなどのチーム医療にも参画するとともに、薬事委員会、治験審査委員会、委託研究審査委員会、化学療法委員会の事務局業務や一般名処方の際のマスター登録など医薬品マスター管理も行っている。さらに、がん化学療法における従前のレジメンの見直しの完成、さらにはがん患者に対する質の高い医療を提供する観点から「連携充実加算」を継続している。薬剤の供給に関しては、従前からの供給不足が続いているものの、購入計画・在庫管理・品質管理と院内・部内の各部署への医薬品供給を通じて、診断や治療に必要な薬を安定して確保するよう注力している。

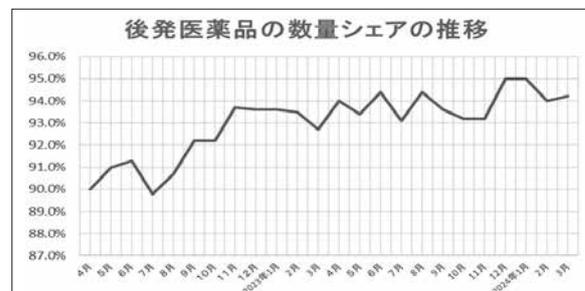
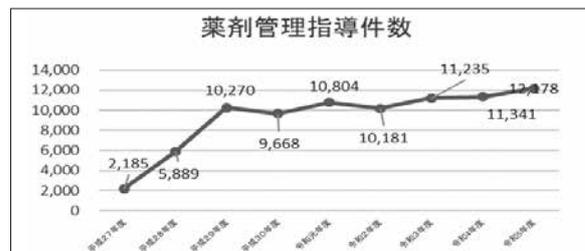
さらに将来の薬剤師を育成するため、コロナ禍ではあるが、薬学部5年生の長期実務実習(11週間)を3期で計7名受け入れた。

また、4月以降も医療従事者、住民向けのコ

ナワクチンの調製部門を担当、調製を行った。

## ■2023年度実績

- ・外来処方箋枚数
  - 院内 11,922 枚
  - 院外 129,095 枚
  - 合計 141,017 枚
- ・入院処方箋枚数 71,891 枚
- ・注射処方箋枚数 168,822 枚
- ・注射剤調製件数(ケモ、その他)
  - 外来 7,240 件
  - 入院 1,224 件
  - 合計 8,482 件
- ・薬剤管理指導件数
  - ハイリスク薬 5,219 件
  - その他 6,958 件
  - 合計 12,177 件
- ・麻薬管理指導加算 587 件
- ・退院時薬剤情報管理指導件数 4,945 件
- ・薬剤情報提供料 1,917 件
- ・病棟薬剤業務実施加算 18,522 件
- ・連携充実加算 493 件



## ■2024年度の取り組み

2024年度は20名でのスタートとなった。院内採用医薬品の見直しと適正な在庫管理、後発医薬品導入による医薬品購入額の抑制を継続、服薬指導管理システムを有効に利用し、病棟での滞在時間を増やし、薬剤管理指導算定件数増加や持参薬鑑別を含めた病棟薬剤業務を行うことで医療安全に貢献し、医薬品の適正使用を推進したいと考えている。

また、近年の医療の高度化・複雑化により、チーム医療における薬剤師の役割は益々重要となっており、専門性の高い薬剤師の育成は重要となっている。さらに感染対策に留意しつつ、今年度は、さらに自己研鑽を行い、認定の取得、若手の育成を図るとともに薬剤師の職能意識向上のために広くその知識と技能を薬剤部内のみならず、他の医療スタッフ、さらには院外薬局とも連携し共有していきたい。

## ■スタッフ

看護部長：野村 仁美  
副看護部長：山田 陽子  
副看護部長：新井 美和

## ■2023年度実績

<年度目標>

1. 良質な医療サービスの提供
2. 経営参画意識の向上
3. 看護の質と効率の両立
4. 人材育成と定着促進

<目標達成への主な取り組み>

1. 良質な医療サービスの提供

医療接遇の向上に向けて、eラーニング等による研修・接遇バッジによる啓発活動を行った。その結果、「皆さまの声」では、看護職員の接遇に対する苦情・クレームが昨年度より減少し、感謝の声が増加した。また、院内全体の患者満足度調査の結果、「満足」「やや満足」の割合は、入院患者92.0%（昨年度比+1.8%）、外来患者84.8%（昨年比+2.9%）といずれも増加した。自由意見では、提供される医療や職員の気遣い等、当院を紹介したい思いはあるが、設備の古さから紹介しづらいとの声が複数あった。今後はアメニティの向上について、院内全体で取り組む必要がある。

2. 経営参画意識の向上

病床管理規程に基づき、経営指標となる1日平均入院患者数300人、平均在院日数12日に努めたが、今年度は264.2名、10.8日といずれも達成には至らなかった。但し、毎朝のミーティングで人員及び病床調整を行うことで協力体制が図られ、以前に比べて救急患者の受け入れがスムーズになった。今後も引き続き、救急患者の受け入れ促進に向けた体制づくりが重要となる。

3. 看護の質と効率の両立

限られた人員と時間の中で、看護の質向上を図るには看護業務の効率化が前提となる。物品の整備・各種手順の見直し等、多様な取り組みを行ってきたが、引き続き、問題意識を持って改善にあたりたい。

4. 人材育成と定着促進

専門職として能力の維持・開発に努めることは看護職の責務であるが、キャリア・ラダーのエントリー及び認定者数が伸びない現状にある。課題

を明確化し、学ぶことへの動機づけを行っていく。

常勤看護職員の離職率は7%で、昨年度の14%を大きく下回った。引き続き、働き続けられる職場づくりに努めていきたい。

## ■その他の取り組み

接遇マナーの向上を図るため、接遇優良者の投票を行った。対象は看護職員とし、投票は全職員にお願いした。投票の際には、その人の良いところ（エピソード等を含む）をコメントしてもらい、当事者にフィードバックした。互いに認め合い、高め合うことは組織の成長につながるため、今後は院内全体の取り組みとしたい。

<専門・認定看護師> 11分野 15名

精神看護専門看護師	平井 元子
皮膚・排泄ケア	積 美保子
集中ケア	安西亜由子
感染管理	富谷 康子・若松 聖子
糖尿病看護	多田 由紀・田中真由子
がん化学療法看護	森本 寛子
がん性疼痛看護	高橋 愛子
手術看護	矢内 敏道
慢性呼吸器疾患看護	山口 良子
摂食・嚥下障害看護	小杉美代子
看護管理	野村 仁美・山田 陽子 新井 美和

(2023年3月31日時点)

## 5 西病棟

師長 永井 さくら

### ■スタッフ

<スタッフ構成>

副 師 長：吉倉由美子 阿部みどり  
沖田真理子

看 護 師：14名

助 産 師：12名

療養介助員：4名

### ■ 2023 年度実績

#### 1. 接遇の向上

内省をテーマに、スタッフそれぞれに自己の接遇を振り返り、改善点を考え、それを実践してもらった。スタッフ全員が年度当初より接遇が改善できた。

#### 2. 分娩件数の増加、入院患者数の維持

両親学級、立ち会い分娩を再開し、新たに和痛分娩を導入した。立ち会い分娩、和痛分娩ともに、出産における満足度に大きく貢献している。

5 西病棟は短期滞在の患者が多く、入院患者数の維持が難しい面がある。それでも、各科医師と連携を図りながら、退院調整を行った。また、緊急入院を積極的に受け入れた。その結果、目標数を維持できるようになってきている。

#### 3. 感染対策強化とチームナーシングの確立

感染対策として手指衛生の徹底に取り組んだ。こまめな手指消毒剤の使用状況のチェックを行った。手指衛生の回数は大きく増加した。

6 月よりチームナーシングを再始動させ、リーダーの育成を行いながら、リーダー中心のチームナーシングを運用できている。

#### 4. 働き続けたい病棟作り

風通しの良い、意見の言いやすい環境作りとして、毎日看護師・助産師と一緒にカンファレンスを行うようにした。患者に関するだけでなく、病棟内のことなどをチーム間の垣根を越えて話し合いを行っている。病棟の雰囲気が変わったという声を頂けるようになった。

### ■ 2024 年度課題

#### 1. 接遇のさらなる向上

#### 2. 入院患者数、分娩件数の増加

## 6 東病棟

師長 野村 生起子

### ■スタッフ

<スタッフ構成>

副 師 長：小林恵大 小杉美代子

看 護 師：28名

看護補助者：5名

### ■ 2023 年度実績

1. 医療接遇向上と患者の思いに沿った看護の提供  
接遇に関連する知識・技術の再確認のため、院内及び看護部主催の研修を全員受講した。また、部署では医療接遇の勉強会および接遇ロールプレイングを実施し個々の接遇の振り返りを行った。患者に寄り添った接遇を心がけるようになり接遇に関するクレームは減少した。

#### 2. 効率的・効果的な病床運営

緊急入院や転棟の受け入れ状況、受け入れ拒否の現状把握を実施した。また、受け入れがスムーズに出来るように平日朝ミーティングを行いベッドの確保に努めた。受け入れ状況の現状把握の結果、心電図モニターの確保が課題となったため、可能な限り緊急時に使用できるよう調整を図った。昨年度と比較し緊急入院患者数は増加した。

#### 3. 5S 活動による安全かつ効率的な業務の遂行

5S 活動の勉強会を開催し、主にナースステーション内の活動を実施した。内服管理に関する作業場所の集約、物品の場所の明確化、医療機器収納場所の整理等を実施し、作業効率が改善したとの声が聞かれた。

#### 4. 知識・技術を共有し質の高い看護を提供

糖尿病、血液疾患、循環器疾患、肝臓疾患チームを結成しそれぞれで勉強会を実施した。また、急変時の対応に関するシュミレーションを実施した。

### ■ 2024 年度目標

#### 1. 看護の質の向上

#### 2. 経営参画意識の向上

#### 3. 人材育成の促進

## 6 西病棟

師長 伊藤 華名子

### ■スタッフ

<スタッフ構成>

副 師 長：山口 良子、津野 桃子  
看 護 師：28名  
看護補助者：5名

### ■ 2023 年度実績

1. 患者・家族の「生き方」に寄り添い、患者の望む生き方を支援することができる  
入院時より退院に向け、積極的に家族や関係者とやり取りを行った。退院調整カンファレンスを定期的に開催し、退院後の生活を見据えて入院中から看護を考え提供できるようになってきている。
2. 病床の有効活用を行い、緊急入院の積極的な受け入れを行うことができる  
病院・看護部と連携をとり、状況に応じてコロナ病床や有症状病床の運用方法を変更し、積極的に入院患者の受け入れを行った。スタッフの人数が少ない中で、全員で協力しながら緊急入院の対応を行うことができた。
3. チームナーシングの確立により、医療安全・感染対策・褥瘡対策に自発的に取り組むことができる  
勤務開始前にスタッフ同士で、看護のポイントや今後の方針、当日のケアや処置の予定などを情報共有し、必要があれば業務調整を行った。今後は、リーダーを中心に看護の質の向上を目標に、チームナーシングを確立し、看護を実践していきたい。引き続き、コロナ患者の受け入れも行っていくため、引き続き感染対策にも力を入れていきたい。
4. 病棟の特徴を踏まえた学習会を実施し、看護実践能力が向上する  
慢性呼吸器疾患看護認定看護師を中心に、呼吸器関連の学習会を数回実施し、病棟の知識向上に努めた。スタッフの倫理観や看護観の醸成を目的に倫理カンファレンスやケースカンファレンスを開催することができた。今年度は自己研鑽にまで意識と時間を割くことができなかったため、今後は研修への積極的な参加を促していきたい、病棟全体で学習への意識を高めていきたい。

### ■ 2024 年度の課題

1. 退院調整の充実
2. 病床の有効活用
3. リーダーの育成とチームナーシングの確立
4. 勉強会や研修への積極的な参加

## 7 東病棟

師長 土橋 花恵

### ■スタッフ

<スタッフ構成>

副 師 長：大久保彩子  
看 護 師：28名  
看護補助者：5名

### ■ 2023 年度実績

1. 患者満足度の上昇  
院内で行われた接遇研修を受け、病棟で接遇のポイントをまとめたポスターを掲示し意識の向上に努めた。接遇チェックリストでの自己評価、接遇優良者への投票を行い年度末に表彰した。患者満足度評価では概ね満足の評価であったが、連携・引継ぎで不満の評価であった。今後も接遇向上に向けた取り組みを行っていく。
2. 術後疼痛管理加算算定（算定件数 20 件 / 月）  
外科病棟として術後疼痛管理加算に取り組んだ。算定要件の研修を看護師、薬剤師が修了。疼痛管理チーム登録申請が済み、チームとして2月より始動。月20件以上の加算を算定することができた。現在、大腸肛門科を対象にしているが、今後は整形外科、外科等他科にも対象患者を拡大し算定件数の増加を目指していく。
3. カンファレンス内容の充実  
看護の質向上を目的にカンファレンス内容について検討。週1回、対象患者1名を選定し、ベッドサイドカンファレンスを行った。看護師での話し合いの後、ベッドサイドに足を運び患者の状態や想いを確認。患者の意思を尊重した看護、ニーズに沿った看護の提供に繋げることができた。今後もこの取り組みを継続し、患者に関心を持った看護の提供を目指していく。

### ■ 2024 年度の取り組み

1. 患者満足度の向上
2. 看護の質の向上
3. 費用の適正化

## 7 西病棟

師長 新井 真理子

### ■スタッフ

<スタッフ構成>

副 師 長：大河原知子 佐々木裕子

看 護 師：28.4名

看護補助者：6名

### ■ 2023 年度実績

#### 1. IBD 看護の質向上と人材育成

2023 年度の IBD 入院延患者数は 9,156 人・外来延患者数は 24,909 人であり、多くの部署で対応している。当該病棟は主たる病棟であるため、院内教育の充実に取り組んだ。学習ニーズを分析し、全看護職員対象（関係医師・コメディカル含む）に定期的に勉強会を開催し、質向上に努めた。

#### 2. 医療接遇の向上

医療接遇を見直し、患者さんに寄り添った看護を提供することを目的とした推進チームを結成し、患者満足度向上に取り組んだ。また、接遇強化月間を実施し、スタッフの意識向上に努めた。昨年度より看護技術（14% UP）看護師連携（9% UP）看護師説明（18% UP）全て患者満足度が向上した。

#### 3. 医療安全・感染対策の強化

昨年度に引き続き取り組んだ。年間インシデント報告件数 233 件（昨年度 195 件）であり、報告する文化は定着している。昨年度多かった内服に関するインシデントについて分析し、再発防止に取り組んだことから、14 件減少し 18 件となった。また感染対策の強化では、手指消毒の強化を行い、昨年度より向上している。MRSA 病棟発生率は 0%であった。

### ■ 2024 年度の取り組み

#### 1. IBD 看護の質向上

#### 2. 災害拠点病院としての強化

#### 3. 医療安全・感染対策の強化

## 8 東病棟

師長 青木 竜太

### ■スタッフ

<スタッフ構成>

副 師 長：高松美枝 川村亜紀

看 護 師：29名

看護補助者：7名

### ■ 2023 年度実績

1. 看護部理念、倫理綱領に則った看護の提供：患者様の声や患者満足度評価に寄せられる評価についての病棟へフィードバックし対策を検討。また病棟で倫理綱領と照らし合わせてカンファレンスを開催し、接遇・倫理への意識を向上させることができた。また患者ラウンドを通して患者の実際の声を確認し、その中で業務改善を検討することでより患者のニーズに合った看護の提供につなげることができた。

2. 在院日数の短縮と効率的な病床運営：部署の特徴としてリハビリ期の患者も多く平均在院日数が長期化しやすいため、周術期の患者受け入れのために、リハビリ期の患者の転棟マニュアルの整備と実践を行った。しかし在院日数は未だ長期しているため、今後退院・転院調整に関して早期介入を実施していく。

3. パスの見直しによる業務の効率化：医師と定期的に看護業務についての話し合いの場を設け、看護ケアや医療の実際の共有を行い、術後の看護ケアのスムーズな実施につなげることができた。

4. 行動制限の低減：患者のベッドサイドでのウォーキングカンファレンスの導入を行い行動制限の解除に向けた取り組みを実施し、スタッフより行動制限に対して解除のための取り組みを実践できるようになったとの意見が増加した。引き続き取り組みを実施していく。

### ■ 2024 年度課題

#### 1. 看護の質の向上

#### 2. 行動制限の低減

#### 3. 人材育成の促進

## 8 西病棟

師長 小林 宏美

### ■スタッフ

<スタッフ構成>

副 師 長：森 芙美子

看 護 師：29 名

看護補助者：6 名

### ■ 2023 年度実績

1. 介護支援連携の流れに沿った退院支援ができる  
とし、入院スクリーニングシートの確認、退院  
調整看護師とのカンファレンスを実施。介護支  
援指導料は、4 月～2 月まで 60 件算定できた。  
次年度も今年度の取り組みを継続していく。
2. 8 東病棟と連携し効率的・効果的な病床運営が  
できるとし、病床利用率 75%を目標とした。8  
東病棟と転棟調整、転棟患者以外にも整形・脊  
椎外科の予定入院、緊急入院の受け入れを行い  
病床の有効利用につなげることができた。平均  
利用率は 76. 7%で概ね目標を達成すること  
をできた。
3. 適切な手指衛生を行い感染対策の強化を図ると  
し、知識の再確認と使用状況をフィードバック  
し、適切なタイミングで実施できているか振り  
返りをした。月平均回数 12 回以上の目標を達  
成できたのは個人では 6 名、病棟としては平  
均 8.0 だった。適切な手指衛生については、今  
後も取り組みが必要である。
4. 外科病棟に必要な知識、技術の向上を図るとし、  
勉強会を開催した。勉強会の開催は計画通り実  
施できた。次年度は脊椎疾患患者の看護、泌尿  
器疾患患者の看護、学生指導に関する勉強会を  
計画していく。

### ■ 2024 年度の取り組み

1. 倫理にもとづく看護実践
2. 診療報酬加算の獲得
3. 医療安全・感染対策の強化
4. 人材育成

## ICU・CCU病棟

師長 本田 範子

### ■スタッフ

<スタッフ構成>

副師長：白山佐江子 平岩 歩

看護師：22 名

### ■ 2023 年度実績

1. ICU 患者に対して倫理綱領を意識した看護実  
践ができる  
倫理綱領の勉強会を実施し理解を深めた。自身  
の看護実践場面を倫理綱領と照らし合わせて振  
り返り共有する機会を設けた。言語化し共有す  
ることで各自の倫理観の育成やスタッフ間の相  
互理解を深めることに繋がった。
2. ICU の重症患者とその家族に対して必要な支  
援の整備ができる  
他職種と協働し、重症患者とその家族に対する  
支援体制の構築に取り組んだ。該当患者とその  
家族に対して早期にシームレスな支援ができる  
ように手順や役割を明確化し整備した。
3. チューブ管理、ドレーン管理の方法の再履修と  
緊急時対応の実践ができる  
実践場面での意識の向上と行動化のために  
ウォーキングカンファレンスの実施や昨年度の  
アクシデント事例を用いて予防策や発生時の対  
応について勉強会を実施し、インシデント発生  
リスクに対して対策を行った。インシデント報  
告件数の増加や意識の変化が見られた。今後も  
対策を強化し、医療安全への取り組みを行う。
4. 自己成長につながる職場づくり  
スタッフが学びたい内容を中心に勉強会を計画  
した。シミュレーションを多く取り入れ、テス  
トで理解度を確認し学びを深められるように取  
り組んだ。自身のキャリアや成長を考え外部の  
試験に取り組むなど行動変容も見られた。

### ■ 2024 年度の取り組み

1. インシデント対策を実施し看護の安全性を強化  
する
2. 看護師育成支援を継続し、看護の質向上をはか  
る

## 中央手術部 師長 木村 美和子

### ■スタッフ

<スタッフ構成>

副看護師長：矢内 敏道、川村 亜紀

看護師：21名

看護補助者：4名

### ■2023年度実績

今年度の手術件数は4,600件超で対前年度250件増、特に全身麻酔は2,000件超で対前年度100件増と過去10年で最多となり、これまでにない手術対応が必要であった。看護師のみならずMEへのタスクシフトシェアなど手術室に関係する多職種との協力・貢献で安全な治療・看護が提供できた。

1. 看護の質・患者サービスの向上を目指し、看護倫理に基づく看護実践、院内看護連携強化：看護者の倫理綱領読み合わせ、カンファレンス開催、倫理観自己評価を実施したことで手術に関する倫理問題を意識し患者目線を大切に手術看護の実践につなげることができた。また、病棟・外来から手術室への要望や意見を調査して課題解決に取り組んだ。特に、患者入室の待機時間・待機場所・申し送りを改善し病棟看護師から良い評価を受けられた。
2. 安全で効率的効果的な業務のため、業務動線に応じた在庫配置の見直し、手術室の看護基準手順、標準看護計画見直し：全身麻酔件数増加、特に整形外科手術増による器械類・キットの増加に応じる物品配置の改善が必要だったが十分に整備できなかった。標準看護計画・看護基準手順更新は安全で効率的な業務のために今後取り組んでいきたい。
3. 安全・安心な看護を提供するため、医療安全・感染対策・褥瘡対策の看護実践を見直す：褥瘡ハイリスク加算が確実に算定されるように日々の入力を漏れなく実施した。また、麻酔手技で発生するスキンテアに対しドレッシング剤を導入し予防対策を実施し褥瘡予防の意識を向上することができた。

### ■2024年度の取り組み

1. 最新の手術に応じた看護基準・手順見直し整備
2. 安全効率的な業務のため手術室内の整理

## 健康管理センター 師長 山田 陽子

### ■スタッフ

<スタッフ構成>

保健師：5名

### ■2023年度実績

#### 1. 特定保健指導実施の向上

・特定保健指導実施状況（※2022年度比）

該当者1,342名（※1,321名101.6%↑）

実施数906名（※874名103.7%↑）

実施率68%（※66%104.6%↑）

面談支援1,200件（※1,169件102.7%↑）

通信支援277件（※300件92.3%↓）

情報提供16件（※35件45.7%↓）

受診勧奨140件（※109件128.4%↑）

電話対応75件（※56件133.9%↑）

特保勧奨入力305件（※292件104.5%↑）

・一般保健指導342件（※201件170.1%↑）

・書面对応15,088件（※15,563件96.9%↓）

・電話対応75件（※56件133.9%↑）

特定保健指導等の実施について、保健指導実施数は大半が昨年比増、厚労省目標値45%以上を大幅に達成している。保健指導の質向上効率化のため待ち時間短縮目的で問診用紙を見直し聞き漏れが減少した。また、満足度アンケートでは特定保健指導への不満は無く、食生活・運動の改善は50～60%にみられた。

#### 2. 保健指導の質向上

保健指導マニュアルを見直し追加修正した。また、7月から宿泊ドックが再開され、健診1日目には保健師による健康教室や栄養士による栄養講座を実施している。さらに、次年度から開始される第4期特定保健指導に対応するための研修に参加した。

### ■2024年度の取り組み

1. 特定保健指導実施率の向上
2. 第4期特定保健指導に応じた保健指導体制の確立
3. 機能評価受審により保健指導の質の向上

## 透析センター 師長 杉山 めぐみ

### ■スタッフ

<スタッフ構成>

看護師：10名

### ■2023年度実績

1. 多職種・地域・各部署と連携を図り、患者・家族の安定した透析ライフの取り組みに参画できる

新規透析導入患者を中心に医師、看護師、患者、キーパーソンとともに面談を実施し透析治療への理解を深めるとともに安心して治療を継続できるよう努めた。外来通院患者のカンファレンスを全員実施し、新たな問題点の抽出につながった。

2. 維持透析の継続に向けての管理や指導で加算取得に貢献する

年間10名の患者に対し運動療法を安定して継続することができた。運動機能の向上、運動習慣獲得への前向きな発言がみられた。JCHO学会での発表を経験し、研究的視点の重要性への学びにもつながった。

3. 安心・安全な透析治療の提供のため、感染予防、事故防止に努める

リンクナースを中心に環境整備や手指消毒に積極的に取り組んだ。医療安全の視点はヒヤリハット、インシデントともに報告件数の増加がみられた。

4. 透析看護師として専門性を高め、自己研鑽できる

透析看護やACPに関するオンライン講習を各自が複数受講できた。今後は自己学習から部署全体への学びへ拡げていくため勉強会を開催していく。

### ■2024年度目標

1. 診療報酬人工腎臓導入期加算2の取得
2. 腹膜透析患者の安全安心な看護
3. 倫理的感性を高める
4. 近隣連携施設との防災対策の強化

## 外来

師長 田邊 智春

### ■スタッフ

<スタッフ構成>

副看護師長：多田 由紀 森本 寛子  
秋山友里恵

看護職員：39名

看護補助者：7名

### ■2023年度実績

1. 患者ニーズに対応した看護ケアの提供  
病棟→外来→病棟の連携を図った。病棟→外来連携は、『病棟外来継続看護』フォルダーの活用61件/年。外来→病棟の連携は、看護記録にてフィードバックの割合76%。『病棟外来継続看護』フォルダーを活用してDMコントロール（インシュリン・内服）・HOT導入・IBD自己注射導入・外来化学療法導入・在宅IVHなどの依頼であった。患者が、在宅で安心して生活できる療養環境の充実を図ることができた。

2. 良質な看護の提供  
『各科外来看護日報』の簡素化、統一を図り、PC画面『外来看護管理日誌』への入力を各科看護師→受付事務へ業務移行し、各科診療終了後に他科への応援体制を整えることができた。内科処置室の患者待ち時間緩和のため、内科処置室予約枠作成し運用した。以前より待ち時間緩和につながった。

3. 感染対策の強化  
『手指消毒のタイミング』を外来独自のパンフレットの作成を、各科に掲示して周知を図った。また、手指消毒使用回数の平均9.4回/日。適切な使用量12回/日まで達成できなかった。

4. 専門性を高め自己研鑽  
各自が、学習課題を明確にして、自己学習課題について学ぶことができた。

### ■2024年度課題

1. 患者ニーズに対応した看護ケアの提供
2. タスクシフティング/シェアにより良質な医療・看護の提供
3. 災害対策の強化と周知
4. 各科専門性を高め自己研鑽

## ■ 2023 年度実績

### 1. 救急搬送応需率の向上

今年度の平日日勤帯の救急車搬送要請件数は 2,098 件、搬送者数は 1,833 件であり、うち救急科で対応する内科だけをみると、搬送要請件数 1,302 件・搬送者数 1,244 件となっており、搬送要請件数は全体の 62.1%、搬送者数は全体の 67.9%であった。入院件数は 841 件、入院率は 45.8%となっている。昨年度と比較すると、搬送要請件数は 380 件ほど減少したが、搬送者数はほぼ昨年度と変わらず、応需率は 87.4%となり、入院件数は 300 件以上の増加となった。入院を必要とする患者は救急外来から速やかに入院できるよう、看護師のリリーフ体制の強化や病棟の協力を得て入院までの手順の見直しを行い、救急外来での滞在時間の短縮を図ることで効率的に救急外来を運用できるよう努めた。

### 2. 衛生材料見直しによるコスト削減

各病棟の SPD 運用状況について調査を実施した。「定数がほぼ回転していない」「定数が 3 ヶ月以上使用されていない」物品が多く見受けられ、定数の見直しを行ったが、依然として確保数が多く改善が必要な状況である。適性数の運用に向けて今後も取り組みが必要である。中央材料室に保管されていた長鑷子等の死蔵品について整理を進め、新宿区医師会へ寄贈した。

### 3. 救急科（外来も含め）の災害対策の強化と周知

他施設の災害対策マニュアルを参考に、被災時の対応を洗い出したが、それに対する対策を検討するまでに至らなかった。また、外来のアクションカードを作成したが活用の検証や周知まで行えなかった。

## ■ 2024 年度の取り組み

1. 救急応需件数 300 件 / 月・救急応需率 85%・救急入院率 50%達成に向け、救急外来体制の整備と強化
2. 外来における災害対策の整備と周知

## ■スタッフ

- 事務部長
- 総務企画課 21 名
  - 課長 1、補佐 1、係長 3、係員 4、非 4
  - ※総務企画課に組織する室等
  - 電気室：係員 1
  - 労務：任期 2、非 5
- 経理課 9 名
  - 課長 1、係長 3、係員 5
- 医事課 30 名
  - 課長 1、補佐 1、係員 6、非 2
  - ※医事課に組織する室等
  - 健康管理センター：補佐 1、係員 2、非 1
  - 情報管理室：補佐 1、非 1
  - 総合医療相談室：係長 1、係員 2、非 1
  - 医師事務補助：係員 3、非 2
  - 診療情報管理員：主任 1、係員 2、非 1
  - 外来アシスタント：非 1

## ■業務内容

部長の下に総務企画課長、経理課長、医事課長、管理課長を置き、課長が各課の所掌事務を整理する。

業務内容は人事、公印管理、文書管理、労務管理、中期計画・年度計画、予算・決算、債権債務管理、契約、固定資産管理、診療報酬請求、統計、診療記録の保管、コンプライアンス推進等が主な業務となる。

## ■2023 年度実績

2023 年度は新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが 5 類感染症に変更されたことから、アフターコロナに対応するため、効果的・効率的に病床を運用し収入の確保に努めるとともに費用削減に努めた結果、黒字決算を確保することができた。

## ■2024 年度の取り組み

2024 年度は法令遵守を基本とし、安定的な経営基盤の構築に向けた診療収入等の増収及び経費節減を図るとともに経営状態に応じた適切な投資を推進するために事務職員一人一人が積極的に取り組んでいく。

## ■スタッフ

課長	清水 隆裕	
課長補佐	金子 強	
係長	望月 貴久	石塚ゆきえ
	勢田 徹也	
係員	小松 郁子	金沢美弥子
	薛 伶奈	加藤 沙希
	非常勤 1 名	(秋山)
	医局事務 2 名	(宮本・大林)
	院内ポリス	(神保)
	派遣	(穴戸)

総務企画課に帰属する技能職

電気士：先 徹  
 労務員：井上 聡  
 非常勤 6 名

## ■業務内容

- ①総務に関すること（院内の連絡調整、院内の諸行事、公印管理、文書管理、防火、防犯、諸規程の改廃、施設管理、医療廃棄物等の処理、医療関係法令等に基づく届出、情報公開、旅費等々）
- ②給与に関すること（人事、給与支給、任免、懲戒）
- ③職員に関すること（兼業、勤務時間、休日及び休暇、栄典、表彰、研修、倫理）
- ④厚生に関すること（健康保険組合、福利厚生、災害補償・健康管理、安全管理）
- ⑤経営企画に関すること（経営戦略（中期・年度計画））
- ⑥業績評価に関すること（中期・年度計画の業績評価、財務諸表（月次決算、年度末決算、財務諸表等）の点検、分析）
- ⑦他の課の所掌業務に属さないこと。

## ■2023 年度実績

独立行政法人改組 10 年目となり、人事・給与、就業規則、職員評価制度等の安定的な運用を行った。

補助金事業において、東京都の「令和 5 年度新型コロナウイルス感染症医療提供体制緊急整備事業（1）病床確保支援事業」、「令和 5 年度看護職員等処遇改善事業補助金」、「東京都医療機関物価高騰緊急対策事業支援金」の交付申請手続きを行い、決定通知を受けた。

職員のための各種院内研修会を運営し、地域医療協議会等、当院で開催される医療連携行事に関する実行支援を積極的に行った。

臨床研修医関連業務については、臨床研修委員

会での決定事項を受けて、医学生による研修医受入れ施設としての病院見学の調整、募集イベントへの参加、採用試験の実施等の支援を行った。

院内療養環境の整備については、老朽化した施設設備の営繕、故障箇所の補修対応をした。自主管理としては、受変電設備点検を始め、空調、医療ガス等の諸設備の保守管理、廃棄物やリネンの管理等、衛生の保全業務を行った。

また、温室効果ガスの排出量削減対策への取組みとして、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」及び「国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律」に基づき、エネルギー管理委員会を中心に廃棄物処理に関して継続的に取り組んだ。

## ■2024 年度の取り組み

院内における適切な情報発信を行うことで、病院運営に貢献する。快適な療養環境の維持のため、保守業務及び委託契約等の見直しを図るとともに適宜整備を行う。さらに、環境配慮契約の一環としては、院内照明の LED 化の整備に取り組んでいく。

また、「医師の働き方改革の推進」に向けては、「医師労働時間短縮計画」に基づき、適切に取り組んでいく。

## ■スタッフ

当課は、独立行政法人地域医療機能推進機構会計規程に基づき、財務及び会計に関する事務を執行している。

### <スタッフ構成>

課長 池田 大士  
 係長 村山 遥・橋本 拓也・小山久美子  
 係員 倉成 和江・佐藤 弘明・松島 育美  
 中村 文香・渡邊 正  
 9名

## ■業務内容

基本的な業務としては、①中期計画及び年度計画②予算、決算及び財務書類等③債権及び債務の管理④契約⑤固定資産の管理に関することを担当している。

毎月、前月の収支状況を把握するため月次決算を行っている。月次決算の結果は、本部に報告するほか、内容を分析し、月次決算評価会で問題点や対処方針等を検討した後、管理診療会議において職員に周知を行っている。

日常業務では、日々発生する入院・外来収益の銀行への預け入れや、各費用に対する支払いを行うと共に各伝票を作成し会計に反映させている。

また、医事課及び健康管理センターの会計窓口で必要とする両替に対応するための金種の確保や、毎月20日に翌月に必要な運転資金を計算し、本部に報告し資金の回送を行っている。

契約係としては、一般物品の払出、注文、管理をはじめ医薬品、診療材料、医療機器、印刷物及び事務用品など、病院で使用するほとんどの物品について、一般競争入札等により購入契約や交渉、物品の出納及び保管、請求書の取り纏めを行っている。

その他、毎月、月末に各部署職員の協力をいただき棚卸の実施や契約実績に基づいた本部依頼の統計にも対応している。

## ■2023年度実績

- ・事業計画及び決算見込みを時期毎に作成
- ・月次決算及び年度末決算作成
- ・経営状況推移作成
- ・未収金管理
- ・固定資産の実査
- ・一般競争入札実施による経費削減

- ・監査法人による監査実施に対応
- ・本部監査室による監査実施に対応
- ・JCHO 本部への各種資料の作成及び提出
- ・JCHO 地域医療総合医学会への参加

## ■2024年度の取り組み

- 1) 経費削減の努力
 

病院運営が厳しさを増す中で、支出にはより一層の注意を払うと共に、費用の増加を抑える為、SPD 委託会社等と協力し、医薬品・診療材料等の経費削減に取り組む。特に新型コロナ後を見据え、経営改善により一層取り組んでいく。
- 2) 年度計画の進捗管理
 

本部の方針により年度計画と実績の乖離に対し原因究明を行い、進捗管理を行う。
- 3) 医療機器整備計画の実行及び次年度の策定
 

経営状況に大きく影響する整備計画の実行は、維持費用等も増加し運営状況を圧迫することから、優先順位を考慮しながら進めて行く。
- 4) 次年度の契約手続
 

適切に契約事務手続きを行うため、特にスケジュール管理を徹底する。また業務内容の見直しや委託費の削減を図っていく。

## ■スタッフ

## ＜スタッフ構成＞

課長	渡邊 智幸
課長補佐	池田 光宏
室長補佐	河野 和春
係長	吉田いづみ
主任	井戸上忠弘
係員	峯 初枝・柴田 純子 正田江里子・福澤美夕紀 米岡扶実子・塩野谷 凌 内田 恵・桶谷 有希 前田 照美・吉川 尚吾
非常勤	2名（京地・舞鶴）
委託	65名

## ■業務内容

## ＜外来係＞

- ・平成29年4月より総合受付及び各科外来受付が業務委託となった。

## ＜入退院事務室＞

- ・令和4年4月より業務委託となった。

## ＜入院係＞

- ・入院患者に関する諸料金請求書の作成及びその請求事務
- ・入院患者に関する診療報酬請求書の作成及び請求事務
- ・DPC（包括請求）対応業務に関する事項
- ・入院患者の諸統計に関する事項

## ＜総合医療相談室＞

- ・紹介率・逆紹介率向上に関する事項
- ・カルテ開示に関する事項

## ＜診療情報管理室＞

- ・入院診療録の受領・点検・整理・フォルダ作成・保管に関する事項
- ・カルテ庫の管理・整理に関する事項

## ＜情報管理室＞

- ・情報システムセキュリティに関する事項

## ＜医師事務作業補助＞

- ・医師事務作業補助に関する事項

## ＜その他＞

- ・医事業務に関する企画立案に関する事項
- ・返戻及び査定されたレセプトの見直し、分析、関連部門への算定に関する周知

## ■2023年度の実績

- ・DPC係数の機能評価係数Ⅱが前年度比で0.0235向上（経済効果：月400万円の増収）
- ・未収金対策として、新たに未収金回収マニュアルを作成
- ・医事課内スタッフの更なる連携を強化するため、診療情報管理室と医師事務作業補助室を3F医事課内に集約

## ■2024度の取り組み

- ・政府が進めているマイナンバーカードの普及に貢献
- ・未収金対策として各種の債権管理を強化
- ・DPC係数（機能評価係数Ⅱ）の更なる向上
- ・地域の医療機関との連携強化（紹介率、及び逆紹介率の向上）

## ■スタッフ

＜スタッフ構成＞

課長(兼) 渡邊 智幸  
 課長補佐 関本 敬一  
 係 員 戸祭 杏奈・海老原優菜  
 非常勤 1名(大江)  
 委託 17名

## ■管理課の主な職掌業務

- ・ 健診事業の企画・広報及び契約に関すること
- ・ 健診実施計画の策定及び実施に関する他局等との連絡、調整に関すること
- ・ 健診事業の業務統計に関すること
- ・ 出張健診に関する調整・実施及び請求に関すること
- ・ 渉外活動に関すること
- ・ 受診者の予約・受付及び検査結果の通知に関すること
- ・ 健診記録の管理に関すること
- ・ 利用券等の管理請求に関すること
- ・ 利用料金の徴収に関すること
- ・ 金銭出納、請求書の作成その他会計事務に関すること

## ■2023年度実績

一泊ドック	36名	前年度より	+ 36名
二日人間ドック	29名	//	▲ 5名
半日ドック	2,477名	//	+ 93名
組合生活習慣病	1,541名	//	+ 0名
協会けんぽ	6,694名	//	▲ 82名
一般健診	4,571名	//	▲ 498名
特定健診	252名	//	▲ 8名
特定保健指導	1,498名	//	+ 22名
予防接種	826名	//	+ 20名
ストレスチェック	357名	//	+ 0名
出張健診	5,630名	//	+ 434名
合計	23,911名		+ 12名

## ■2024年度の取り組み

- ・ 医療インバウンドへの受診勧奨及び運用の促進。
- ・ 渉外活動を通し、新たな健診先の開拓を図る。
- ・ 人間ドック健診施設機能評価の取得に向けての取組。
- ・ 健診未収金を出さない努力及び未収金処理の適正化を図る。場合によっては法的措置も検討する。
- ・ 担当者間の情報共有と協調性の促進。

## ■スタッフ

室長 橋本 政典  
 副室長 薄井 宙男  
 室長補佐 渡邊 智幸・河野 和春  
 非常勤 1名(春日)  
 委託 3名

## ■活動内容

院内の情報システム全般に関わる多くの業務を実施している。①医療情報システム（電子カルテ・部門システム等）②院内情報システム（インターネット等）③院内ネットワーク・サーバ等インフラ基盤に大別できる。情報管理室では、“動いているのが当たり前”と思われる院内にあるシステムの安定稼働に努め、資産管理・変更管理・インシデント管理等の対応を行った。

### 実際の業務－ソフト面

院内向けの定型業務として、各種帳票類の出力、新入職員への電子カルテ等の使用方法の説明、各種システムに関する問合せへの対応、職員・各種オーダーマスタの運用・変更管理、統計資料の作成、ホームページの更新作業、非定型業務としては、各部署で発生する細かなトラブルの処理、管理上の要望などに対応した。

### 実際の業務－ハード面

システムを安定的に稼働させるため、医療情報システムサーバの稼働を監視および日々目視確認を行っており、障害等不具合をいち早く発見できるよう務めた。院内ネットワークについては、24時間 365日監視を行っており、電子カルテをはじめとした多くの医療情報システムで安定的に通信が行えた。各医療情報システムサーバについては、順次情報管理室に集約し、安全性を高めた集中管理を行っている。一定の年限を経過した端末やプリンタ類は、故障不具合が発生するため、修理対応も行った。

## ■2023年度実績

医療情報システムの改善検討およびセキュリティ維持のため、医療情報システム委員会に電子カルテメーカー（NEC 担当者）を招集し、医療情報システムのプログラム上の要望・不具合、毎月のセキュリティ報告の検討会議を開催した。

2019年11月に内閣官房内閣サイバーセキュリティセンターによる情報システムマネジメント監

査を受け、2021、2022年度にそれぞれ指摘事項に対する改善計画の報告を行い、本年度に改善結果の報告を行った。

ランサムウェア対策として、ファイアーウォール機器のアップデートを実施。不要なサーバ機器・ネットワーク機器の撤去を行い、ランニングコスト・スペースコスト削減に寄与した。

2011年度から日本病院会が行っているQIプロジェクトに継続的に参画しており、各種指標をホームページへ掲載した。

医療情報システムの更新対応については、診察表示盤・会計表示盤システム、病理検査システムの更新を行った。

## ■2023年度の対応件数

- ①医療情報システム関連：1,786件
- ②ネットワーク関連：211件
- ③ハードウェア関連：216件
- ④インターネット関連：256件

## ■2024年度の取り組み

引き続き、医療情報システムの安定稼働を支える縁の下の存在として、医療を提供する現場をサポートしていく。また、医療DXを進めるための一環として、ペーパーレス化を推進し業務効率化に貢献したいと考えている。

医療情報システムの更新については、内視鏡画像のファイリングシステム、放射線ビューアシステム eFilm 後継システム、褥瘡管理システムを検討しており、順次対応していく。

# 総合医療相談センター

センター長 橋本政典

## ■スタッフ

総合医療相談センター長 橋本 政典  
 副センター長 高澤 賢次  
 地域医療連携室長 三浦 英明  
 患者相談室室長 渡邊 智幸  
 総合医療相談センター看護師長 伊藤 恵  
 地域医療連携係長 吉田いづみ  
 看護師 高橋 綾子  
 社会福祉士 柳田 千尋・園田 恭子・中田 瑞葉  
 事務員 内田 恵・三吉 明・神保 清一  
 佐藤 紘子・櫻井万智子  
 入退院支援室看護師 永崎 雪子・笠間 梓子  
 退院支援看護師 阿野久里子・深田 香利  
 清水未来子・野寺 亮子  
 医師事務補助者 小山 美香

## ■業務内容

1. 病診連携：地域医療機関からの紹介患者への対応、診療情報提供書の管理、各種報告書の進捗状況の把握、経過報告書の督促（月2回）、各種検査予約と結果報告発送
2. 地域医療機関への広報活動：広報誌（医療連携つつじ）発刊、外来担当医表の作成・発送
3. 医療連携講演会：企画・運営（Web講演会1回/月・対面講演会1回/年）
4. セカンドオピニオン外来の対応
5. 患者サポート窓口：受診相談、介護や療養生活の相談、保健・福祉制度の相談など
6. 診療録等の開示請求の受付
7. 入院前支援（患者情報の把握、入院生活に関するオリエンテーション、病棟への情報提供）
8. 退院支援（地域との連携）

## ■2023年度実績

1. 登録医制度：506施設から638施設へ拡充
2. 医療福祉機関訪問：地域医療機関、高齢者相談センター介護施設など機関への訪問 87件
3. 2023年度 紹介患者の内訳
  - (1) 地域別の紹介患者（図1）  
 新宿区6,319人（45.7%）、中野区1,100人（7.9%）、豊島区686人（5.0%）、渋谷区557人（4.0%）、杉並区483人（3.5%）、練馬区313人（2.3%）、その他 31.7%
  - (2) 紹介率と逆紹介率の推移（図2）  
 2023年度の紹介率 79.8%、逆紹介率 132.4%
4. 診療情報提供書（逆紹介）推進のための介護施設への情報提供とかかりつけ医の聞き取り周術期口腔ケア管理促進による歯科紹介・逆紹介の促進
5. 医療連携つつじ発刊：3回/年（表1）
6. 診療案内発刊：診療案内を作成し1,800施設へ配布
7. 入院前面談件数：5,413件（前年度比101%）  
 入院時支援加算件数：1,052件（前年度比94%）
8. 入退院支援加算1:3,440件数（前年度比110%）
9. 相談件数：3,673件（MSW 2,030件、患者相談窓口：患者・家族：30件・医療機関：1,613件）

## 10. 医療連携講演会（Web講演会：第1回～9回） （対面講演会：第10回）

第1回 5月19日	下肢静脈瘤	心臓血管外科部長	恵木 康士
第2回 6月16日	血糖モニタリングについて	糖尿病内分内分泌部長	山下 滋雄
第3回 7月21日	炎症性腸疾患に対する薬物治療の最新動向	炎症性腸疾患内科学部長	酒匂美奈子
第4回 9月15日	骨粗鬆症の治療と介護	整形外科部長	田代 俊之
第5回 10月20日	尿検査の診かたと慢性腎臓病（CKD）	腎臓内科学部長	鈴木 淳司
第6回 11月17日	手術症例報告 2023年：肺癌・気胸等	呼吸器外科部長	水谷 栄基
第7回 12月15日	炎症性皮膚疾患の最近の話題～アトピー性皮膚炎、乾癬を中心に～	皮膚科部長	鳥居 秀嗣
第8回 1月19日	IBD栄養法における栄養管理室の取り組みと今後の展望	栄養管理室長	遠藤さゆり
第9回 2月16日	ご紹介のポイントと当院の現状 リウマチ膠原病の最新動向	リウマチ膠原病内科学部長	金子 駿太
第10回 3月18日	高齢者の不整脈 大腸がん	循環器内科学副部長 大腸肛門外科医長	鈴木 篤 大城 泰平

## ■2024年度の取り組み

1. 地域医療連携に積極的に取り組む  
 連携講演会の月1回開催など、地域医療支援病院としての役割を果たす。紹介率、逆紹介率の維持、入院患者数の増加に取り組む。  
 また、多職種協働による地域医療連携促進に取り組む。
2. 入退院支援活動の強化（入退院支援部門の一体化、薬剤師の協力、緊急入院における入退院支援の促進、病棟との情報共有）  
 地域との連携強化（訪問看護師等との情報共有）
3. 在宅医療・介護施設等とのカンファレンス等顔のみえる連携の促進

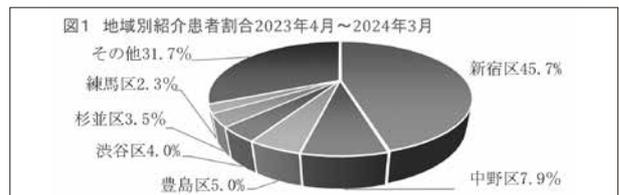


表1 医療連携つつじ

46号 2023年 夏号	統括診療部長就任のご挨拶	統括診療部長	高澤 賢次
	医療連携登録施設のご紹介	高田馬場さくらクリニック院長	富田 茂
47号 2023年 秋号	栄養管理室のご紹介	栄養管理室長	遠藤さゆり
	質問にお答えします	循環器内科学副部長	鈴木 篤
48号 2024年 春号	着任のご挨拶	耳鼻咽喉科部長	金谷 佳織
	就任のご挨拶	炎症性腸疾患内科学部長	酒匂美奈子
48号 2024年 春号	就任のご挨拶	炎症性腸疾患内科学部長	岩本 志穂
	医療連携登録施設のご紹介	ふくだ代々木上原クリニック院長	福田 雄三
	健康管理センターのご紹介	健康管理センター長	高澤 賢次
	質問にお答えします	糖尿病内分内分泌部長	山下 滋雄
3月外来担当表	糖尿病病教室のお知らせ		
	ご挨拶	院長	矢野 哲
	就任のご挨拶	腎臓内科学部長	鈴木 淳司
放射線部のご紹介	質問にお答えします	整形外科部長	田代 俊之
	医療連携登録施設のご紹介（ここ推しまップ）		ヤマメちゃん
放射線科			高倉 徹也

## ■スタッフ

連携部長	三浦 英明
主任医療社会事業専門員	柳田 千尋
医療社会事業専門員	園田 恭子
医療社会事業専門員	中田 瑞葉

## ■主な院内活動

入院診療運営委員会、認知症ケア・リエゾン推進委員会、緩和ケア運営委員会、入退院支援推進委員会、医療連携推進委員会、虐待等対策委員会、継続看護委員会、整形脊椎/脳外科カンファレンス、廃用カンファレンス、臨床倫理サポートチーム等

## ■2023年度実績 項目名略式・述べ人数

### 性別 / 平均年齢

男	女	計	年齢
442	420	862	75

### 入院外来別 / 新規再来別 / 依頼元別

入院	外来	新規	再来	院内	患者家族	地域等
684	184	716	151	736	48	84

### 帰来先別

自宅	施設	転院	死亡	計
257	79	264	65	665

### 相談内容別

地域 相談	病院 相談	療養 生活 相談	転院 相談	経済 相談	介護 相談	退院 支援	精神的 支援
34	12	145	355	120	366	429	70
人権擁護	就労問題	住宅問題	教育問題	家族問題	虐待等	苦情等	
4	1	9	1	54	23	16	

[連携先内訳]

### 機能別医療機関（転院先）

一般	地 ケア	回 復 期	医 療 療 養	介 護 療 養	緩 和 ケ ア	障 害 者	精 神 科	感 染 症	そ の 他	計
54	17	147	33	3	15	9	3	0	0	281

### 介護施設等

老人保健	老人福祉	有料ホーム	その他施設	計
12	12	51	12	87

### 在宅医療・在宅介護

総 割 ニ ツ ク	在 宅 療 養 所	訪 看 ST	訪 問 薬 局	居 宅 介 護 支 援	地 域 包 括	計
49	105	93	2	206	245	700

### 行政・その他

国 保 年 金 課	生 活 福 祉 課	高 齢 者 福 祉 課	障 害 者 福 祉 課	子 家 庭 支 援	児 童 相 談 所	そ の 他	計
25	136	16	15	2	1	68	263

昨年度の当該年報と比較しMSW業務の変化について検討した(2022年々報参照)。対象患者は、男女差は縮小したが男性が多く、平均年齢は大差なく、依頼数は870件前後で大差なかった。しかしその内訳では、「外来、再来、患者家族、地域」からの依頼が減り、「入院中の院内」からの新規依頼が大幅に増加した。また、帰来先別では、昨年は自宅退院が転院に比べて断然多かったが、今年は同程度で合計数も減少し、在宅医療・介護の連携数も減少した。これは、退院支援看護師による自宅退院支援と付随する地域連携の増加を示す数字と捉えた。一方、退院先として回復期リハと医療療養型、有料ホームが顕著に増加していた。また相談内容を見ると、転院と介護相談が各100件増加し、精神的、家族問題、虐待関連の増加がみられた。これらは、社会的問題が潜在している退院支援ケースの増加を示す数字と捉えた。

当院の退院支援は、退院支援看護師による在宅支援・地域連携の充実があり、一方で社会的問題をもつケースはMSWがより丁寧に対処する集中化が進み、数年間の経験を通じた役割分担による業務の変化と読み取れた。両者の協働を基盤としつつ社会的問題に対処する退院支援システムを構築することで、地域完結型医療における接点としての機能を果たせるよう準備してきた成果として総括したい。

## ■2024年度の取り組み

退院支援には様々な臨床倫理的問題などが潜在しており、これまで以上に他職種との意見交換が求められている。微力ながら院内と地域との相互理解に努め、支援の質の向上を心がけたい。

## ■スタッフ

病院内のより強固な医療安全管理体制の構築と医療安全を遂行するための実務的な部門として2009年に設置された。専従の医療安全管理者を配置し、組織横断的な活動を目的として各部局より任命された兼任者で構成されている。

### <スタッフ構成>

室長	医療安全管理責任者 三浦 英明		
専従者	医療安全管理者 中原 智美		
兼任者			
医療安全担当副院長	山名 哲郎		
医局	小林 浩一	金子 駿太	
	藤本 崇志		
医療技術部	中井 歩	井出 泰男	
	高倉 徹也	遠藤さゆり	
	栗田千恵美		
看護部	青木 竜太	本田 範子	
	伊藤華名子		
事務部	池田 光弘	中村 芳夫	
	関本 敬一		

## ■業務内容

- (1) 各部門における医療安全対策に関する業務改善計画書の作成と評価結果の記録
- (2) 医療安全に係る活動の記録に関すること
- (3) 医療安全対策に係る取組の評価等を行うカンファレンスの週1回程度の開催
- (4) 医療安全に関する日常活動に関すること
  - 1) 現場の情報収集及び実態調査
  - 2) マニュアルの作成、点検及び見直しの提言
  - 3) インシデント・アクシデント報告書の収集、分析結果等の現場へのフィードバック
  - 4) 医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知
  - 5) 医療安全に関する職員への啓発、広報
  - 6) 医療安全に関する教育研修の企画、運営
  - 7) JCHO 地区事務所及び本部への報告、連携
  - 8) 医療事故情報収集事業・QIプロジェクトへの情報提供
- (5) アクシデント発生時の支援等に関すること
- (6) 医療安全委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存

## ■ 2023 年度実績

- ①医療安全巡回（全部署）の実施  
テーマ：患者誤認防止行動の徹底について
- ②セーフティーマネージャー会議を開催（4回）  
多職種によるグループ活動を実施した
  - ・患者誤認防止チーム
  - ・誤薬防止チーム
  - ・転倒転落防止チーム
  - ・災害対策チーム
- ③医療安全に関する研修会の実施
  - ・院内研修会（e-Learning）の企画・実施（2回実施、受講率100%）
  - ・臨床研修医、新人看護師の研修
- ④インシデント報告数の増加  
（報告件数 2,301 件 医師報告件数 186 件）
- ⑤医療安全地域連携の実施（3病院）
  - ・JCHO 東京新宿メディカルセンター
  - ・JR 東京総合病院
  - ・平塚胃腸病院
- ⑥臨床研修医の推進室会議参加
- ⑦医療安全マニュアルの点検  
術前中止薬休業期間一覧・無断離院離棟・輸液管理マニュアル・行動制限・医薬品の安全業務手順等
- ⑧テンプレート作成  
（蘇生処置・パニック値・警告対応）
- ⑨安全な物品を検討  
（酸素チューブ・コネクター）

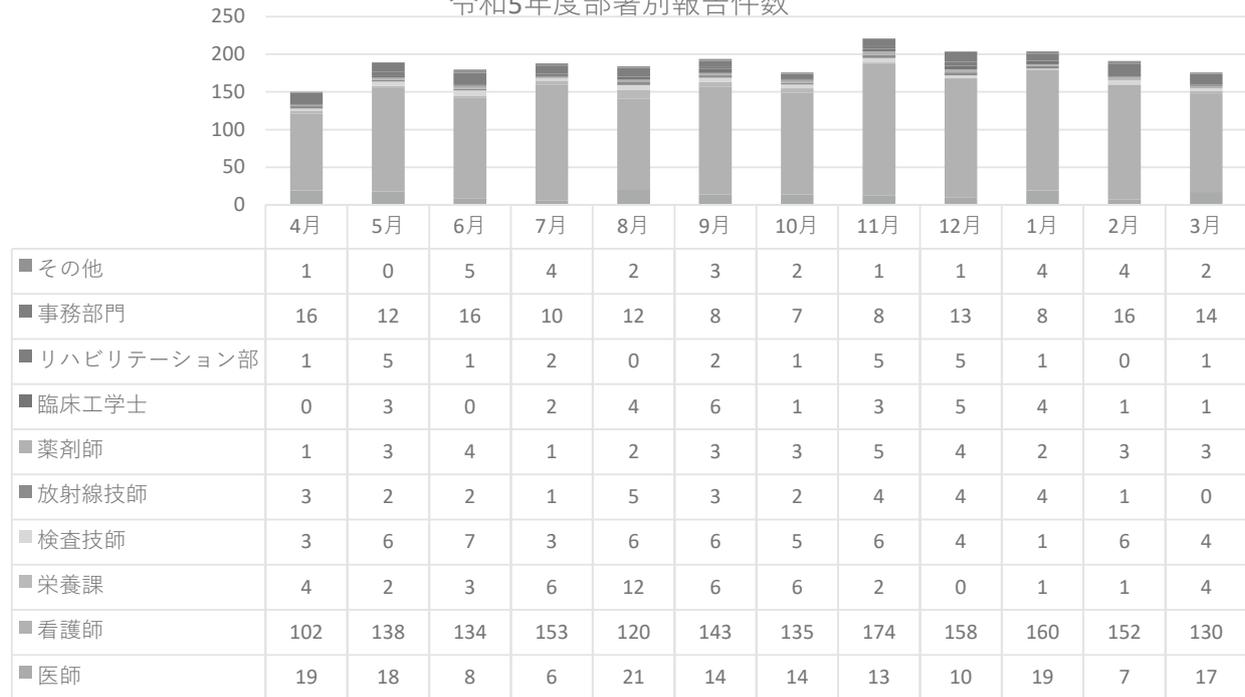
## ■ 2024 年度の取り組み

- ①昨年度よりインシデント 0・1 レベルの報告件数を増やす
- ②医師、研修医への啓発活動を行い、医療安全への意識を高める
- ③転倒・転落レベル 3a・3b を減少させる

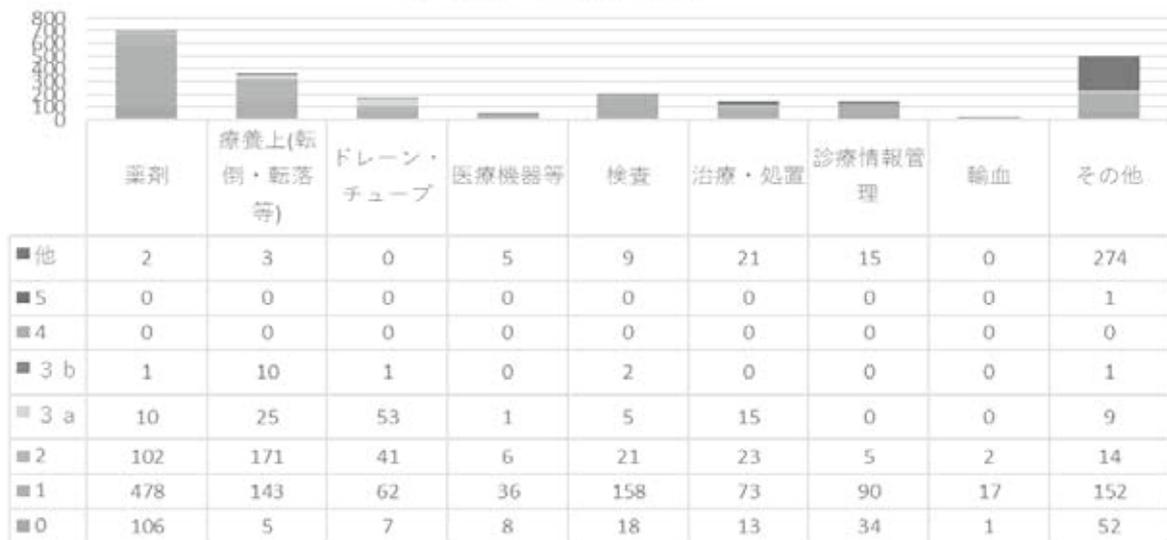
### 年度別報告件数



### 令和5年度部署別報告件数



### 影響度レベル別報告件数



## ■スタッフ

診療録管理室長 高澤 賢次  
 診療情報管理士 前田 照美  
 吉川 尚吾  
 吉元 正憲

## ■業務内容

- I 入院診療録の量的管理
- ①退院後に入院中に発生した書類を病棟から受領し、全患者に対して量的点検を行う。
  - ②分類や統計処理のために国際疾病分類 ICD-10 による病名のコーディング、ICD-9CM による手術・処置のコーディングを行う。
  - ③コード化されたデータを診療録管理システムに入力する。(病名・手術名等)
  - ④カルテ保管庫に未桁順に収納・管理する。
  - ⑤保管期間を過ぎたカルテの抽出・廃棄作業
- II 入院診療録の貸出・返却
- ①診療録管理システムに貸出登録を行う。
  - ②貸出期限を過ぎた診療録の督促を行う。
- III 退院サマリー管理業務  
未作成・未承認分の依頼、完成率の報告を行う。
- IV DPC 関連業務  
詳細不明病名のチェック、委員会資料作成・報告、各ファイル単体チェック・相関チェック・DPC 提出、再調査の対応業務
- IV 統計資料の作成  
サマリー完成率、疾病統計、手術統計、死亡統計、がん登録統計等を作成、報告する。
- V 院内カルテ監査  
診療記録の整備促進及びチーム医療のため診療記録の精度をあげることを目的として定期的に院内監査を行い問題点のフィードバックを行う。
- VI 「院内がん登録」国際疾病分類 ICD-O による分類及び UICC に則った TNM の分類、登録、データ集計。
- VII 電子カルテ定型文書の登録業務
- VIII オーダー連携文書の対応業務
- IX 診察記事・オーダー未承認分依頼業務
- X 診療録等管理委員会、DPC コーディング委員会、医療情報システム委員会、救急医療運営委員会、化学療法委員会及び審査委員会の運営協力。
- XI 診療情報管理に関する院外研修会・学会等へ

の積極的参加による情報収集及び自己研鑽。

## ■2023 年度実績

- ①退院患者 8,948 件の量的点検実施
- ②毎週医師サマリー依頼実施
- ③入院カルテ貸出 229 件実施
- ④定型文書対応件数 381 件
- ⑤疾病統計、手術統計、死亡統計、がん登録統計科別退院患者数の資料作成、フィードバック。
- ⑥院内カルテ監査 26 件実施
- ⑦カルテの廃棄作業 6,402 件実施
- ⑧ 2012 年 1 月より「東京都地域がん登録」、2016 年から「全国がん登録」、2023 年からは「院内がん登録」を開始する。  
届出票作成に際しては UICC、癌取扱い規約、国立がんセンターの定義に則り、厚労省がん対策情報センターによる研修の修了書を得ている診療情報管理士で病歴業務との兼務で行っている。

<全国がん登録・地域がん登録提出件数>  
2023 年 科別提出件数 (2022 診断分)

診療科	件数
大腸肛門科	144
内科	220
外科	111
泌尿器科	52
産婦人科	56
皮膚科	17
整形外科	1
脊椎脊髄外科	1
形成外科	3
耳鼻咽喉科	4
脳神経外科	10
合計	595

## ■2024 年度の取り組み

カルテの質的管理・量的管理に加え、がん登録業務や DPC コーディング・データ点検提出業務、電子カルテ関連業務など業務内容が幅広くなってきているため、適切にマニュアルを整備し情報収集を行い、日々の業務を効率よく正確に実施できるよう努めていきたい。

## ■スタッフ

当室は医師の事務的業務負担軽減を図ることを目的として、2008年7月1日に発足した。

### <スタッフ構成>

室長：高澤 賢次

医師事務作業補助者

病院職員 6名 派遣職員 13名

外来アシスタント（医師事務作業補助者）

派遣職員 6名

## ■業務内容

医師の指示のもとに、以下の業務を行います。

- ・医療文書の作成
- ・電子カルテへの入力
- ・診察記事代行入力および伝票の記載。
- ・診療に付随する事務的業務
- ・各種調査等に伴うデータ集計や資料作成
- ・行政対応のための事務的業務
- ・その他

## ■2023年度実績

医療文書の作成

1. 診断書等文書下書き作成・確認業務  
(生命保険会社診断書、特定疾患臨床個人調査票、介護保険主治医意見書、要否意見書、障害年金診断書、身体障害者診断書 等) 約 12,600件  
(前年度約 12,000件)
2. 情報提供書・紹介状返信作成
3. 退院時要約、入退院療養計画書下書き

電子カルテへの入力、または診療録・伝票への記載

1. 外来診療補助業務  
検査・入院予約等の order 代行入力  
(処置検査等、他科依頼作成、パス適用、診療情報提供書、返書、入院手術に伴う必要書類 等)
2. 手術予定・依頼入力  
週ごとの予定手術入力、緊急手術入力

診療に付随する事務的業務

1. クリティカルパス作成・改定作業
2. 電子カルテ用テンプレート・文書ひな形作成・改定業務
3. 各科データベースへの情報入力

FileMaker、Access、Excel、学会専用フォーム等、各科毎のデータベース

4. カンファレンス資料作成
5. 説明書・同意書等の準備  
入院手術予定患者の入院時必要書類、同意書やクリティカルパス等の準備
6. データ集計  
学会発表、学会調査、研究発表、講演会、各種調査等に伴うデータ集計や資料作成  
委員会に係わるデータ集計

行政対応のための事務的業務

1. HIV 感染患者受診数・データ集計
2. HER-SYS 症例届け出登録

その他

1. NCD・JOANR・JND 登録業務
2. 業務検討委員会（月1回）（2022年4月開始）
3. 発熱外来（問診下書き登録）
4. 内視鏡画像データ CD-R 作成・画像取込み
5. PCR 検査オーダー登録、カルテ記事入力  
病名登録 等付随業務

## ■2024年度の取り組み

医療従事者の負担軽減・処遇改善検討委員会の前段階として医師事務作業補助者 業務検討部会を2020年12月に発足した。2022年度より委員会に格上げとなり、今まで以上に医師の業務負担軽減や患者サービス向上に寄与できるよう業務の効率化や業務拡大出来るように努める。

# ボランティア活動報告 (2023年度)

## ボランティア活動報告（2023年度）

東京山手メディカルセンターにおけるボランティア活動は、「東京山手メディカルセンターボランティア活動実施要綱」により受け入れており、住民と病院が協力して患者さまが快適に生活できるサービスを行うことを目的として活動しております。

### ■ボランティア活動について

新型コロナウイルス感染症の患者受け入れに伴い、院内感染リスクを伴うことから、感染防止のため2022年度に引き続き、2023年度の活動は全て中止となりました。

# 教育研修会の実績と評価

## 教育研修会の実績と評価

研修会	日付		参加人数	対象者	参加率
医療安全研修会(第1回)	令和5年 5月22日 ~ 令和5年 6月6日	配信	639	639	100%
医療安全研修会(第2回)	令和5年 11月6日 ~ 令和5年 11月27日	配信	621	621	100%
院内感染予防研修会(第1回)	令和5年 7月26日 ~ 令和5年 8月16日	配信	627	627	100%
院内感染予防研修会(第2回)	令和5年 12月13日 ~ 令和6年 1月9日	配信	612	612	100%
保険診療研修会(第1回)	令和5年 7月3日 ~ 令和5年 7月24日	配信	83	153	54%
保険診療研修会(第2回)	令和6年 2月21日	集合	90	148	61%
	令和6年 2月27日 ~ 令和6年 3月18日	配信			
情報セキュリティ研修会	令和6年 1月22日 ~ 令和6年 2月2日	配信	574	603	95%
放射線管理研修会	令和5年 8月22日 ~ 令和5年 9月11日	配信	393	463	85%
コンプライアンス研修会	令和5年 10月2日 ~ 令和5年 10月20日	配信	549	629	87%
ハラスメント研修会	令和5年 11月29日	会議内			
	令和5年 12月25日 ~ 令和6年 1月12日	配信	474	623	76%
接遇研修会	令和5年 5月30日 ~ 令和5年 6月16日	集合・配信	567	645	88%
認知症ケア研修会	令和5年 9月11日 ~ 令和5年 9月25日	配信	407	632	64%
診療倫理研修会	令和5年 5月8日 ~ 令和5年 5月19日	配信	419	651	64%
医療ガス安全管理研修会	令和6年 1月17日 ~ 令和6年 1月30日	配信	369	627	59%
褥瘡対策研修会	令和5年 12月4日 ~ 令和5年 12月15日	配信	261	478	55%
栄養・NST研修会	令和5年 10月23日 ~ 令和5年 11月6日	配信	267	461	58%
防火防災・病院災害対策研修会	令和6年 2月13日 ~ 令和6年 2月27日	配信	477	628	76%
DMST研修会	令和5年 9月19日 ~ 令和5年 10月2日	配信	332	527	63%
排尿自立支援研修会	令和6年 7月13日 ~ 令和5年 7月31日		355	640	55%
化学療法研修会	令和5年 6月26日 ~ 令和5年 7月7日	配信	278	460	60%
MRI安全研修会	令和5年 11月20日 ~ 令和5年 12月4日	配信	370	625	59%
ストレス軽減研修会	令和5年 8月7日 ~ 令和5年 8月21日	配信	417	640	65%
医療機器・用具安全研修会	令和6年 1月9日 ~ 令和6年 1月22日	配信	375	544	69%
BLS研修会	令和6年 1月15日 ~ 令和6年 2月2日	配信	502	628	80%
ハラスメント研修会	令和6年 3月11日 ~ 令和6年 3月25日	配信	474	623	76%

# 学术業績集

(2023年4月～2024年3月)

## 研究実績・論文発表

### 〈消化器内科〉

1. 廣瀬雄紀 消化器内科 茂木智拓 山崎大 立石翔 齊藤雄一 佐野弘仁 三浦英明 齋藤聡 23年ぶりに東京都で発生した食餌性ボツリヌス症の1例 日本内科学会雑誌 112 12 2271～2279 2023

### 〈炎症性腸疾患内科〉

1. Hirose Y 消化器内科 Saito S, Nishiguchi T, Yamazaki D, Tateishi T, Saito Y, Komeno Y, Kodama M, Iwamoto S, Fukata M, Sako M. A case of intestinal T-cell lymphoma, not otherwise specified, that showed characteristic findings by magnified endoscopy combined with narrow-band imaging. DEN Open Nov 27. 4(1) e319 Wiley 2023
2. 酒匂美奈子 炎症性腸疾患内科 炎症性腸疾患に対する薬剤治療の最新動向 臨床外科 78 8 I 016-1021 医学書院 2023
3. 岡山和代 炎症性腸疾患内科 深田雅之, 遠藤さゆり, 貝原奈緒子 潰瘍性大腸炎患者における栄養素・食事と腸内細菌組成の関係 日本臨床栄養協会誌 45 3 163 日本臨床栄養学会 2023

### 〈呼吸器内科〉

1. 井窪祐美子 呼吸器内科 徳田均 実践!画像診断Q&A-このサインを見落とすな (Case2)胸部編 半年前からの咳嗽を主訴に来院した30歳代男性 レジデントノート 25 1 9-10 羊土社 2023
2. 井窪祐美子 呼吸器内科 徳田均 実践!画像診断Q&A-このサインを見落とすな (Case2)胸部編 胸部異常陰影で紹介となった60歳代男性 レジデントノート 25 6 989-990 羊土社 2023
3. 徳田均 呼吸器内科 【非嚢胞性線維症性の気管支拡張症】気管支拡張症と膠原病 呼吸器内科 43 4 423-428 科学評論社 2023
4. 井窪祐美子 呼吸器内科 徳田均 実践!画像診断Q&A-このサインを見落とすな (Case2)胸部編 9カ月前からの咳嗽, 労作時呼吸困難で紹介となった30歳代男性 レジデントノート 25 10 1723-1724 羊土社

2023

5. 井窪祐美子 呼吸器内科 徳田均 実践!画像診断Q&A-このサインを見落とすな (Case2)胸部編 秋から3カ月間続く乾性咳嗽で紹介となった70歳代女性 レジデントノート 25 15 2693-2694 羊土社 2024
6. 徳田均 呼吸器内科 【リウマチ・膠原病診療で注意すべき日和見感染症】関節リウマチの日和見感染症 抗酸菌感染症 リウマチ科 71 1 60-67 科学評論社 2024
7. Akimichi Nagashima 呼吸器内科 adashi Nagato, Tomoko Kobori, Minoru Nagi, Yasumi Okochi Uncommon Occurrence of Pulmonary Aspergillosis Caused by Aspergillus sydowii: A Case Report. Cureus 15 12 e51353 Cureus, Inc. 2023
8. Takeshi Arashiro 国立感染研究所 Maki Miwa, Hidenori Nakagawa, Junpei Takamatsu, Kunihiro Oba, Satoshi Fujimi, Hitoshi Kikuchi, Takamasa Iwasawa, et al. COVID-19 vaccine effectiveness against severe COVID-19 requiring oxygen therapy, invasive mechanical ventilation, and death in Japan: A multicenter case-control study (MOTIVATE study). Vaccine 42 3 677-688 Elsevier Science 2024

### 〈血液内科〉

1. Yukiko Komeno Department of Hematology Toru Uchiyama, Fuyuko Kawano, Yuya Kurihara, Mineo Kurokawa, Osamu Ohara, Shinji Kunishima, Akira Ishiguro Inherited macrothrombocytopenia due to a novel splice donor site mutation in ITGB3 Annals of Hematology 102 10 2947-2949 Springer 2023
2. Tomiko Ryu Department of Hematology Yusuke Onozato, Ayano Umeda, Keiko Abe, Akio Mimori, Hideaki Miura, Yukiko Komeno Pyrexia and liver injury after a second SARS-CoV-2 vaccination: macrophage activation manifested in liver International Journal of Coronaviruses 4 4 32-37 OpenAccessPub 2023

## 〈循環器内科〉

1. Manabu Yamasaki 循環器内科 Hideaki Yoshino, Takashi Kuniyoshi, Koichi Akutsu, Tomoki Shimokawa, Hitoshi Ogino, Mitsuhiro Kawata, Toshiyuki Takahashi, Michio Usui, Kazuhiro Watanabe, Takeshiro Fujii, Takeshi Yamamoto, Ken Nagao, Morimasa Takayama Outcomes of type A acute aortic dissection with cardiopulmonary arrest : Tokyo Acute Aortic Super-network Registry Eur J Cardiothorac Surg 63 4 ead056 2023
2. Shingo Watanabe 循環器内科 Michio Usui Impact of Selenium Deficiency on Clinical Outcomes in Newly Diagnosed Heart Failure Patients in Japan J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo). 69 6 479-484 2023
3. Shingo Watanabe 循環器内科 Michio Usui A Case of Acute Myocardial Infarction due to Simultaneous Occlusion of Two Vessels Caused by Delayed-Onset Heparin-Induced Thrombocytopenia Journal of Coronary Artery Disease 29 3 72-76 2023
4. Hirofumi Kujiraoka 循環器内科 Atsushi Suzuki, Naohiko Kawaguchi, Miki Amemiya, Eiko Sakai, Mirei Setoguchi, Shiho Kawamoto, Kuniyoshi Sato, Mie Ochida, Shingo Watanabe, Jun Nakajima, Shunji Yoshikawa, Michio Usui, Tetsuo Sasano, Yasuteru Yamauchi Raise-up technique for the creation of left atrial roof lesion: A useful technique with cryoballoon for persistent atrial fibrillation J Cardiovasc Electrophysiol. 2024 Mar 31. doi: 10.1111/jce.16267 2024
5. Hitoshi Ogino 循環器内科 Hideaki Yoshino, Tomoki Shimokawa, Koichi Akutsu, Toshiyuki Takahashi, Michio Usui, Takashi Kuniyoshi, Kazuhiro Watanabe, Michikazu Nakai, Takeshi Yamamoto, Morimasa Takayama; Other Members of the Scientific Committee of Acute Aortic Disease A new insight into superacute care for type A acute aortic dissection in

the Tokyo Acute Aortic Super Network J Thorac Cardiovasc Surg 167 1 41-51 2024

6. Koichi Akutsu 循環器内科 Hideaki Yoshino, Tomoki Shimokawa, Hitoshi Ogino, Takashi Kuniyoshi, Toshiyuki Takahashi, Michio Usui, Kazuhiro Watanabe, Manabu Yamasaki, Takeshiro Fujii, Mitsuhiro Kawata, Yoshinori Watanabe, Takeshi Yamamoto, Shun Kohsaka, Ken Nagao, Morimasa Takayama Clinical Features of 544 Patients With Ruptured Aortic Aneurysm A Report From the Tokyo Acute Aortic Super Network Database Circ J. 2024 Feb 28. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0636 2024

## 〈リウマチ・膠原病科〉

1. Kenji Ishiguro リウマチ・膠原病科 Shunta Kaneko Myeloma-Associated Leukocytoclastic Vasculitis Mimicking Autoimmune Vasculitis J Clin Rheumatol 29 8 e141-142 Wolters Kluwer 2023
2. 石黒賢志 リウマチ・膠原病科 金子駿太 不明熱とリウマチ性疾患 リウマチ科 69 5 602-614 科学評論社 2023
3. 金子駿太 リウマチ・膠原病科 膠原病の早期診断と鑑別疾患 Medical Practice 41 2 194-201 文光堂 2023
4. 金子駿太 リウマチ・膠原病科 高齢発症のリウマチ ドクターサロン 67 6 329-332 杏林製薬株式会社 2023

## 〈消化器外科〉

1. 久保田啓介 外科 伊藤健太郎、伊地知正賢、橋本政典、佐々木巴、竹下浩二 左傍十二指腸ヘルニアの腹腔鏡下修復術後に腸閉塞を発症した1例 日本ヘルニア学会誌 8 2 29～34 日本ヘルニア学会 2022
2. 柴崎正幸 外科 大腸がんおよび大腸閉塞の治療が可能な医療機関に転送等すべき注意義務に違反した結果、患者が死亡したとして損害賠償を求めた事例 医療判例解説 103 39-42 医事法令社 2023
3. 柴崎正幸 外科 幽門側胃部分切除、ビルロートⅡ法再建術で切除された部位に胃癌を発見すべきだったのに見落とされたとして損害賠償

を求めた事例 医療判例解説 104 129-132  
医事法令社 2023

4. 柴崎正幸 外科 胃癌を腹腔鏡下手術で切除後に死亡したのは、術式選択を誤った過失、術後管理を誤った過失、説明義務違反があったためとして損害賠償を求めた事例 医事判例解説 108 39-42 医事法令社 2024

#### 〈呼吸器外科〉

1. Saki Yamamoto 呼吸器外科 Eiki Mizutani, Riichiro Morita, 他 3 名 Unencapsuled thymoma: a case report Journal of Surgical Case Report 10 1~3 2023
2. 水谷栄基 呼吸器外科 胸部外科手術後の癒着と癒着防止剤の二一ズ 生体吸収性外科手術材料の使い方と新しい材料の有用性 38-43 技術情報協会 2024

#### 〈大腸肛門病センター〉

1. Evaluation of the Safety and Efficacy of Modified Laparoscopic Suture Rectopexy for Rectal Prolapse Takahashi R, Yamana T, Nishio R, Sakamoto K, Nojiri S, Sugimoto K Journal of the Anus, Rectum and Colon Vol. 7, No. 2, P. 102-108, 2023 (April)
2. Crohn 病に合併した痔瘻の診断と治療の選択 岡本欣也 外科 85 巻 6 号 P. 706-717 (5 月)

#### 〈整形外科〉

1. 田代俊之 整形外科 田代俊之 中高齢者の膝の痛みの画像診断 ペインクリニック 44 巻 No.12 1135-1143 2023

#### 〈産婦人科〉

1. 西郷奈津子 産婦人科 丸山麻梨恵、早稲田凜、鳥山風夏、橋本耕一、小林浩一 多発子宮筋腫合併妊娠の帝王切開において胎児娩出後に子宮内バルーンを留置した 1 例 東京産科婦人科学会会誌 72 2 188-191 一般社団法人東京産科婦人科学会 2023
2. 早稲田凜 産婦人科 丸山麻梨恵、西郷奈津子、鳥山風夏、橋本耕一、小林浩一 分娩後に子宮内に残存した IUD(Intrauterine Device) を全身麻酔科で抜去した 1 例 東京産科婦人科学会会誌 72 3 636-640 一般社団法人東

京産科婦人科学会 2023

3. 小林浩一 産婦人科 児娩出後の子宮収縮のメカニズムはどこまでわかっているか 周産期医学 53 増刊号 97-100 東京医学社 2023

#### 〈皮膚科〉

1. Saeki H 皮膚科 Mabuchi T, Torii H, et al. English version of Japanese guidance for the use of oral Janus kinase inhibitors (JAK1 and TYK2 inhibitors) in the treatments of psoriasis Journal of Dermatology 50 5 e138 ~ e150 Wiley 2023
2. 小山明日実 皮膚科 鳥居秀嗣 臀裂部に生じた有茎性 plexiform schwannoma の 1 例 臨床皮膚科 77 4 335 ~ 339 医学書院 2023
3. 鳥居秀嗣 皮膚科 乾癬治療薬①—生物学的製剤— Monthly Book Derma 336 29 ~ 36 全日本病院出版会 2023
4. 鳥居秀嗣 皮膚科 乾癬の診療 update IV. 乾癬の治療 8. 生物学的製剤 (1)TNF- $\alpha$  阻害薬と IL-12/23 阻害薬 日本臨床 81 12 1889 ~ 1894 日本臨床社 2023

#### 〈小児科〉

1. 伊上敦哉 小児科 千代反田雅子、渡邊駿、大野幸子、赤松信子、長尾竜兵、西亦繁雄、柏木保代、山中岳 当院における新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症 11 例の臨床像 東京医科大学雑誌 81 3 2023

#### 〈放射線部門〉

1. 山本進治 放射線 岡田幸法 桐生茂 山名哲郎 児玉真 竹下浩二 深田直樹 米澤圭史 Value of apparent diffusion coefficient on MRI for prediction of histopathological type in anal fistula cancer Medicine 102 (14) e33281 Medicine 2023
2. 山本進治 放射線 岡田幸法 吉田宜清 竹下浩二 櫻井典子 市川篤志 瀧本学 An Investigation Into the Effect of Different Static Magnetic Field of 1.5T and 3.0T-MRI on the Measurement of Tumor Cureus 16 (1) e52838 Cureus 2024

## 〈臨床工学部門〉

1. 渡邊研人 臨床工学部 医工連携のトビ  
ラ CardioAgent Pro for CIEDs Clinical  
Engineering 34 6 2～3 学研 2023
2. 渡邊研人 臨床工学部 今田寛人 パネル  
ディスカッション「CE 起業家が語る, 2030 年  
までに実現したい病院× 医療機器ビジョン」総  
括と展望 日本臨床工学技士会誌 79 28～  
30
3. 丸山航平 臨床工学部 検査データと患者指  
導 透析ケア 29 5 37～44 メディカ出  
版 2023
4. 柴田大輝 臨床工学部 中井 歩 大塚隆浩 佐  
藤 諒 丸山航平 加藤彩夏 石丸裕美 富樫紀季 御  
厨翔太 阿部祥子 渡邊研人 塩入瑛梨子 水野智仁  
鈴木淳司 高澤賢次 日機装社製推定血流モニタ  
の精度特性に関する検討 - ポンプセグメント  
部内径の異なる血液回路における in vitro 評価  
- 日本血液浄化技術学会雑誌 31 1 59～  
62 日本血液浄化技術学会 2023

## 学会発表

### 〈消化器内科〉

1. 佐野弘仁 消化器内科 園田光 岡野荘 久保田啓介 当院で経験した好酸球性食道炎症例の臨床像・内視鏡所見の検討 第20回 日本消化管学会総会学術集会 2024年2月 沖縄

### 〈炎症性腸疾患内科〉

1. 深田雅之 炎症性腸疾患内科 岡山和代、山名哲郎、岡本欣也 手術となった高齢者潰瘍性大腸炎患者の発症時期による検討 第78回 日本大腸肛門病学会学術集会 5年11月11日 熊本
2. 山崎大 炎症性腸疾患内科 松本 留美衣、園田光、西口 貴則、堀江 義政、岡山 和代、深田雅之 サイトメガロウイルス再活性化の有無による潰瘍性大腸炎に対するウステキヌマブ使用の比較検討 第31回 JDDW 2023年11月 神戸
3. 岡山和代 炎症性腸疾患内科 深田雅之、遠藤さゆり、貝原奈緒子 潰瘍性大腸炎患者における栄養素・食事と腸内細菌組成の関係 第45回 日本臨床栄養学会 2023.11.12 大阪
4. 岡山和代 炎症性腸疾患内科 深田雅之 潰瘍性大腸炎患者における栄養素・食事と腸内細菌(叢)組成の関係 第28回 腸内フローラ研究会 2023.10.10 東京
5. 岡野 荘 炎症性腸疾患内科 S Okano, K Abe, A Sonoda, S Iwamoto, M Sako, K Okamoto, T Yamana, M Fukata Myenteric plexitis and active inflammation at surgical margins are high-risk predictors for postoperative clinical recurrence of Crohn's disease 19th ECCO 2024 2024年2月 ストックホルム
6. 酒匂美奈子 炎症性腸疾患内科 酒匂美奈子 園田光 西口貴則 山崎大 堀江義政 岡野荘 岩本志穂 深田雅之 高添正和 クローン病に合併する短腸症候群についての検討 第14回 日本炎症性腸疾患学会 2023年12月 兵庫
7. 堀江義政 炎症性腸疾患内科 園田光、岡野荘、山崎大、岡山和代、深田雅之 Leucin rich  $\alpha$  2-glycoprotein (LRG) とCRPによるクローン病の治療モニタリングは Vedolizumab (VED) と抗 TNF  $\alpha$  剤で異なる 第31回 JDDW 2023年11月 神戸

8. Akira Sonoda, 炎症性腸疾患内科 Masayuki Fukata Serum levels of Leucin-Rich  $\alpha$  2 Glycoprotein predicts endoscopic mucosal healing of Crohn's disease 第105回 日本消化器内視鏡学会総会 2023年5月 東京
9. Akira Sonoda, 炎症性腸疾患内科 Soh Okano, Shiho Iwamoto, Minako Sako, Masayuki Fukata Serum levels of Leucin-Rich  $\alpha$  2 Glycoprotein predicts endoscopic mucosal healing of Crohn's disease 19th Congress of ECCO 2024年2月 Stockholm
10. 西口 貴則 炎症性腸疾患内科 岡山和代、山崎大、菊田修、上山知人、深田雅之 高齢者と非高齢者潰瘍性大腸炎におけるウステキヌマブ治療成績の比較検討 第31回 JDDW 2023年11月 神戸
11. 西口 貴則 炎症性腸疾患内科 岡山和代、山崎大、菊田修、上山知人、深田雅之 高齢者潰瘍性大腸炎における手術例の検討 第14回 日本炎症性腸疾患学会 2023年12月 兵庫
12. 西口 貴則 炎症性腸疾患内科 深田雅之 A case of Crohn's disease undergoing ileocecal resection. 第9回 Japan-Korea Case Conference 2024年3月 東京

### 〈呼吸器内科〉

1. 徳田均 呼吸器内科 EL8. 気管支拡張症の病態と治療 第63回 日本呼吸器学会学術講演会 2023年4月 東京
2. 結城将明 東京大学附属病院呼吸器内科 笠井昭吾, 大河内康実, 徳田均 PP311. 特発性気管支拡張症の難治性病態に対する新しい治療戦略 第63回 日本呼吸器学会学術講演会 2023年4月 東京
3. 東海林寛樹 呼吸器内科 徳田均, 酒井文和, 井窪祐美子, 笠井昭吾, 大河内康実 PP696. Pleuroparenchymal fibroelastosis の表現型を示す上葉優位型気管支拡張症の臨床的特徴 第63回 日本呼吸器学会学術講演会 2023年4月 東京
4. 徳田均 呼吸器内科 13-3. 結核病学の遺産を活用した外来治療で、長期安定した経過をとったMAC症症例の検討 第98回 日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会 2023年6月 東京

5. 結城将明 東京大学附属病院呼吸器内科 結城将明, 吉永忠嗣, 東海林寛樹, 笠井昭吾, 大河内康実, 徳田均 17-1. 特異性気管支拡張症に対する短期間の経口キノロン系抗菌薬の投与 第98回 日本結核・非結核性抗酸菌症学会学術講演会 2023年6月 東京
6. 東海林寛樹 呼吸器内科 水谷栄基, 井窪祐美子, 吉永忠嗣, 寺師直樹, 山本沙希, 笠井昭吾, 森田理一郎, 大河内康実 P39-3. 血痰を契機に発見され, 特異な画像所見を示した肺内気管支原性嚢胞の1例 第46回 日本呼吸器内視鏡学会学術集会 2023年6月 横浜

#### 〈血液内科〉

1. Takanori Suzuki Hematology Mayuko Tsuda, Tomoya Hattori, Risa Nishio, Atushi Suzuki, Tomiko Ryu, Yukiko Komeno A novel phenotype of peripheral T-cell lymphoma in a patient with Crohn's disease 第85回 日本血液学会学術集会 2023年10月 東京
2. Shoya Inagawa Hematology Mayuko Tsuda, Kotaro Kushida, Shinichi Iwamoto, Tomiko Ryu, Yo Kumano, Yukiko Komeno A case of Bing-Neel syndrome successfully treated with ibrutinib/rituximab combination therapy 第85回 日本血液学会学術集会 2023年10月 東京
3. 森 一斗 血液内科 齋藤 聡, 岩本 真一, 関 将行, 阿部 佳子, 飯原 久仁子, 米野 由希子, 柴崎 正幸, 山名 哲郎, 柳 富子 当院における HIV-Burkitt lymphoma/High-grade B-cell lymphoma 6例の診療経験 第37回 日本エイズ学会学術集会・総会 2023年11月 京都
4. 岩本 真一 血液内科 米野 由希子, 森 一斗, 木下 航, 関 将行, 柴崎 仁志, 鳥居 秀嗣, 山田 滋雄, 児玉 真, 阿部 佳子, 柳 富子 HIV-high-grade B-cell lymphoma, NOS に合併した左優位の三叉神経第1,3枝領域の neurolymphomatosis の一例 第37回 日本エイズ学会学術集会・総会 2023年11月 京都
5. 服部 智哉 血液内科 津田真由子, 岩本真一, 柳富子, 米野由希子 特徴的な十二指腸粘膜所見を呈した原発性マクログロブリン血症の1例 第691回 日本内科学会関東地方会 2023年11月 東京
6. 山内 啓太 血液内科 津田 真由子, 岩本真一, 森 一斗, 柳 富子, 米野 由希子 IgM と sIL-2R の乖離を契機に CMV 感染症が診断された原発性マクログロブリン血症の1例 第20回 日本血液学会関東甲信越地方会 2024年3月 東京

#### 〈循環器内科〉

1. 鈴木篤 循環器内科 持続性心房細動への Cryo Ablation Cryo WEB 講演会 2023年4月 web
2. 鈴木篤 循環器内科 持続性心房細動への Cryo Ablation Cryo Advance 2023年4月 web
3. 中村玲奈 循環器内科 留学のすすめ 第53回 電気生理研究会 2023年5月 東京
4. 鈴木篤 循環器内科 持続性心房細動における CryoBalloon Ablation Medtronic Cryo WEB Seminar 2023年5月 web
5. 渡部真吾 循環器内科 沼部紀之, 川勝紗樹, 増田怜, 中村玲奈 佐藤弘典, 村上輔, 山本康人, 吉川俊治, 鈴木篤, 薄井宙男 最新のガイドラインから見る心不全の標準治療 新宿区 心・腎 高血圧セミナー 2023年6月 東京
6. 鈴木篤 循環器内科 持続性心房細動への Cryo Ablation Cryo Balloon WEB Symposium 2023年6月 web
7. 鈴木篤 循環器内科 持続性心房細動への Cryo Ablation Cryo WEB Discussion 2023年6月 web
8. 増田 怜 循環器内科 渡部真吾, 川勝紗樹, 河本梓帆, 雨宮未季, 村上輔, 山本康人, 吉川俊治, 鈴木篤, 薄井宙男 結核性胸膜炎により下大静脈血栓症を来した一例 第43回 日本静脈学会総会 2023年7月 愛媛
9. 渡部真吾 循環器内科 沼部紀之, 川勝紗樹, 増田怜, 中村玲奈 佐藤弘典, 村上輔, 山本康人, 吉川俊治, 鈴木篤, 薄井宙男 タバコ窩自己血管内シャントに対する Vascular access intervention の有効性 第43回 日本静脈学会総会 2023年7月 松山
10. 渡部真吾 循環器内科 川勝紗樹, 山川 祐馬, 河本梓帆, 雨宮未季, 増田怜, 村上輔, 吉川俊治, 鈴木篤, 山本康人, 薄井宙男 バスキュラーアクセスの造設と管理 - 新規デバイスと経皮的シャント拡張の工夫 タバコ窩自

- 己血管内シャントに対する Vascular access intervention の有効性 第 43 回 日本静脈学会総会 2023 年 7 月 愛媛
11. 渡部真吾 循環器内科 沼部紀之, 川勝紗樹, 増田怜, 中村玲奈 佐藤弘典, 村上輔, 山本康人, 吉川俊治, 鈴木篤, 薄井宙男 A case of acute myocardial infarction due to two-vessel occlusion that was difficult to treat for thrombosis 第 31 回 日本心血管インターベンション治療学会学術集会 2023 年 8 月 福岡
  12. 鈴木篤 循環器内科 持続性心房細動における Cryo Balloon Ablation The meeting for Discovering Expert Physician's Techniques and Hot news 2023 年 8 月 web
  13. 鈴木篤 循環器内科 持続性心房細動における Cryo Balloon Ablation Cryo Web Conference 2023 年 8 月 web
  14. Atsushi Suzuki 循環器内科 New mapping for determination of left atrial posterior wall isolation for non-paroxysmal atrial fibrillation ESC Congress 2023 2023 年 8 月 Amsterdam
  15. 渡部真吾 循環器内科 沼部紀之, 川勝紗樹, 増田怜, 中村玲奈 佐藤弘典, 村上輔, 山本康人, 吉川俊治, 鈴木篤, 薄井宙男 血栓性病変による二枝閉塞急性心筋梗塞 KYZ の会 2023 年 9 月 東京
  16. 沼部紀之 循環器内科 川勝 紗樹、佐藤弘典、中村 玲奈、増田 怜、村上 輔、渡部真吾、山本 康人、吉川 俊治、鈴木 篤、薄井 宙男 コイル塞栓術により治療した冠動静脈瘻瘤の一例 第 62 回 日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 2023 年 10 月 東京
  17. 渡部真吾 循環器内科 沼部紀之, 川勝紗樹, 増田怜, 中村玲奈 佐藤弘典, 村上輔, 山本康人, 吉川俊治, 鈴木篤, 薄井宙男 Scoreflex の使いどころ 第 64 回 日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 2023 年 10 月 東京
  18. 渡部真吾 循環器内科 沼部紀之, 川勝紗樹, 増田怜, 中村玲奈 佐藤弘典, 村上輔, 山本康人, 吉川俊治, 鈴木篤, 薄井宙男 古典的リスクファクターを持たない若年女性急性心筋梗塞の一例 YMO leaning course 2023 年 10 月 東京
  19. 鈴木篤 循環器内科 当院における Cryo Ablation Medtronic Web Conference Vol.3 2023 年 10 月 web
  20. 高木智充 循環器内科 國原孝、吉野秀朗、荻野均、坪宏一、下川智樹、河田光弘、高橋寿由樹、薄井宙男、山崎学、小嶋啓介、高山守正 急性大動脈スーパーネットワークデータベースを用いた Stanford A 型急性大動脈解離に対する拡大手術の意義の検証 第 76 回 日本胸部外科学会定期学術集会 2023 年 10 月 仙台
  21. 鈴木篤 循環器内科 持続性心房細動への Cryo Ablation Medtronic Ablation Conference 2023 年 11 月 web
  22. 佐藤弘典 循環器内科 佐藤弘典 鈴木篤 中村玲奈 沼部紀之 川勝紗樹 増田怜 渡部真吾 吉川俊治 薄井宙男 山内康照 宮崎晋介 笹野哲郎 クライオバルーンによる左房側壁の冷凍アブレーションで頻拍停止とブロックライン完成に至った peri-mitral atrial flutter の一例 カテーテルアブレーション関連 秋季大会 2022 2023 年 11 月 福岡
  23. 中村玲奈 循環器内科 Delayed potential を指標としてアブレーションする カテーテルアブレーション関連 秋季大会 2023 2023 年 11 月 福岡
  24. 鈴木篤 循環器内科 持続性心房細動への Cryoballoon Ablation CRYSTAL 2023 年 11 月 web
  25. 鈴木篤 循環器内科 高齢心房細動患者に対する治療戦略 高齢者 Total Care Seminar 2023 年 11 月 web
  26. 鈴木篤 循環器内科 持続性心房細動へのクライオバルーンアブレーション Cryo Ablation Web Conference 2023 年 11 月 web
  27. 加納裕也 循環器内科 渡部真吾 佐藤弘典, 村上輔, 山本康人, 吉川俊治, 鈴木篤, 薄井宙男 家族性もやもや病を基礎疾患として持つ 40 代女性、急性心筋梗塞の一例 第 270 回 日本循環器学会関東甲信越地方会 2023 年 12 月 東京
  28. 川勝紗樹 循環器内科 渡部真吾 沼部紀之 増田怜 中村玲奈 佐藤弘典 村上輔 山本康人 吉川俊治 鈴木篤 薄井宙男 笹野哲郎 レムナント様リポ蛋白 (RLP) コレステロールが高値であった 20 代男性急性心筋梗塞の一例 第 270 回 日本循環器学会関東甲信越地方

- 会 2023年12月 東京
29. 渡部真吾 循環器内科 沼部紀之, 川勝紗樹, 増田怜, 中村玲奈 佐藤弘典, 村上輔, 山本康人, 吉川俊治, 鈴木篤, 薄井宙男 静脈グラフトに対するELCA+DCBの有有用性 Tokyo ELCA Conference 3rd 2023年12月 東京
30. 渡部真吾 循環器内科 沼部紀之, 川勝紗樹, 増田怜, 中村玲奈 佐藤弘典, 村上輔, 山本康人, 吉川俊治, 鈴木篤, 薄井宙男 complex PCI case 関東&九州 Next generation PCI conference 2023年12月 東京
31. 渡部真吾 循環器内科 沼部紀之, 川勝紗樹, 増田怜, 中村玲奈 佐藤弘典, 村上輔, 山本康人, 吉川俊治, 鈴木篤, 薄井宙男 循環器内科が行うべき糖尿病治療 Web 講演会 2023年12月 東京
32. 鈴木篤 循環器内科 持続性心房細動へのCryoballoon Ablation CRYSTAL 2023年12月 web
33. 鈴木篤 循環器内科 持続性心房細動へのCryoballoon Ablation Cryo Web Conference 2023年12月 web
34. 渡部真吾 循環器内科 沼部紀之, 川勝紗樹, 増田怜, 中村玲奈 佐藤弘典, 村上輔, 山本康人, 吉川俊治, 鈴木篤, 薄井宙男 虚血性心疾患の外来管理 ~最新のエビデンスをお届けします~ 新宿区地域医療勉強会 2024年2月 東京
35. 鈴木篤 循環器内科 高齢心房細動患者に対する治療戦略 高齢者 Total Care Seminar 2024年2月 web
36. 鈴木篤 循環器内科 持続性心房細動へのCryo Ablation Medtronic Ablation Conference 2024年3月 web
37. 川勝紗樹 循環器内科 鈴木篤 中村玲奈 佐藤弘典 沼部紀之 増田怜 村上輔 渡部真吾 山本康人 吉川俊治 薄井宙男 山内康照 宮崎晋介 笹野哲郎 Durability of Left Atrial Roof Line Created by Cryoballoon Ablation using Raise-Up Technique in Patients with Atrial Fibrillation 第88回 日本循環器学会学術総会 2024年3月 神戸
38. 佐藤弘典 循環器内科 Hironori Sato, Atsushi Suzuki, Noriyuki Numabe, Saki Kawakatsu, Ryo Masuda, Rena Nakamura, Shingo Watanabe, Syunji Yoshikawa, Michio Usui, Yasuteru Yamauchi, Shinsuke Miyazaki, Tetsuo Sasano Mitral Isthmus Block Creation Using the Cryoballoon for Atrial Fibrillation 第88回 日本循環器学会学術集会 2024年3月 神戸
39. 中村玲奈 循環器内科 Rena Nakamura, Noriyuki Numabe, Saki Kawakatsu, Ryo Masuda, Hironori Sato, Tasuku Murakami, Shingo Watanabe, Yasuhito Yamamoto, Shunji Yoshikawa, Atsushi Suzuki, Michio Usui, Shinsuke Miyazaki, Tetsuo Sasano The Mechanism of silent steam pop 第88回 日本循環器学会学術大会 2024年3月 神戸
40. 高橋寿由樹 循環器内科 吉野秀朗、坏宏一、下川智樹、荻野均、國原孝、薄井宙男、山崎学、河田光弘、渡邊和宏、藤井毅郎、高木智充、今津留智浩、小嶋啓介、山本剛、香坂俊、高山守正 Clinical Presentation and Interfacility Transfer of Type a Acute Aortic Dissection: Insight from the Tokyo Acute Aortic Super-Network 第88回 日本循環器学会学術大会 2024年3月 神戸
41. 雨宮未季 循環器内科 鈴木篤、落田美瑛、川勝紗樹、増田怜、村上輔、渡部真吾、吉川俊治、山本康人、薄井宙男、宮崎晋介、笹野哲郎 Heart Failure Requiring Surgical Restorations Due to Iatrogenic Atrial Septal Defect after Cryoballoon Ablation for Persistent Atrial Fibrillation 第88回 日本循環器学会学術大会 2024年3月 神戸
42. 沼部紀之 循環器内科 川勝紗樹、佐藤弘典、中村玲奈、増田怜、村上輔、渡部真吾、山本康人、吉川俊治、鈴木篤、薄井宙男、宮崎晋介、笹野哲郎 The Characteristics of Steam Pop during Radiofrequency Ablation at the Inner Basement of Papillary Muscle 第88回 日本循環器学会学術集会 2024年3月 神戸
43. 中村玲奈 循環器内科 Rena Nakamura, Noriyuki Numabe, Saki Kawakatsu, Ryo Masuda, Hironori Sato, Tasuku Murakami, Shingo Watanabe, Yasuhito Yamamoto, Shunji Yoshikawa, Atsushi Suzuki, Michio Usui, Shinsuke Miyazaki, Tetsuo Sasano The Steam Pop Phenomenon during Radiofrequency Ablation at the Top of Papillary Muscle in Ex-vivo Study 第88回

日本循環器学会学術大会 2024年3月 神戸

44. 鈴木篤 循環器内科 高齢者の不整脈 第22回 医療連携WEB講演会 2024年3月 東京

#### 〈糖尿病・内分泌科〉

1. 堀越桃子 糖尿病内分泌科 全ゲノム関連解析による出生時体重と2型糖尿病・生活習慣病の遺伝的関連の探索 第5回女性研究者賞受賞講演 第66回 日本糖尿病学会年次学術集会 2023年5月13日 鹿児島
2. 會田光 糖尿病内分泌科 日高章寿 堀越桃子 山下滋雄 経口GLP-1製剤により正常血糖ケトアシドーシスを来しインスリン頻回注射法の導入に至った高齢女性の1例 第688回 日本内科学会関東地方会 2023年7月9日 東京
3. 石橋なぎさ 糖尿病内分泌科 伊上優子 中西直子 山下滋雄 バセドウ病の診断, 治療中に炭水化物の大量摂取により低カリウム性周期性四肢麻痺をきたした1例 第692回 日本内科学会関東地方会 2023年9月12日 東京
4. 會田光 糖尿病内分泌科 松山正英 日高章寿 堀越桃子 山下滋雄 is(間歇スキャン式)CGMからrt(リアルタイム)CGMへの変更は、血糖管理の改善をもたらす 第61回 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2024年1月20日 横浜
5. 高澤瞳 糖尿病内分泌科 稲川翔也 鈴木禎房 竹下智史 堀越桃子 山下滋雄 メトホルミンの長期内服中に、大球性貧血および末梢神経障害を発症した糖尿病の一例 第61回 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2024年1月20日 横浜
6. 日高章寿 糖尿病内分泌科 松山正英 會田光 堀越桃子 山下滋雄 チルゼパチドとインスリンにより血糖改善がみられた高齢2型糖尿病の1例 第61回 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 2024年1月20日 横浜
7. Hiroyuki Unoki-Kubota Department of Diabetic Complications, Diabetes Research Center, Research Institute, National Center for Global Health and Medicine, Tokyo, Japan Daishi Hirano, Toshiyuki Imasawa, Ritsuko Yamamoto-Honda, Hiroshi Kajio, Shigeo Yamashita, Yuka Fukazawa, Naoto Seki, Mitsuhiko

Noda, Yasushi Kaburagi Independent risk factors of rapid renal function decline in patients with type 2 diabetes with preserved kidney function IDF-WPR Congress 2023 and 15th Scientific Meeting of AASD 2023/7/21 Kyoto, Japan

#### 〈リウマチ・膠原病科〉

1. 石黒賢志 リウマチ・膠原病科 落合萌子、小林晶子、徳田均、三森明夫、金子駿太 関節リウマチ併存気管支拡張症に対する、吸入ステロイド使用症例の検討 第67回 日本リウマチ学会総会・学術集会 2023年4月 福岡
2. 金子駿太 リウマチ・膠原病科 石黒賢志、落合萌子、小林晶子、三森明夫 当院の関節リウマチ患者の慢性気道病変に対する生物学的製剤及びJAK阻害薬の有効性の検討 第67回 日本リウマチ学会総会・学術集会 2023年5月 福岡
3. 小林晶子 リウマチ・膠原病科 金子駿太、落合萌子、石黒賢志、三森明夫 全身性強皮症に合併した難治性結節性紅斑の1例 第68回 日本リウマチ学会総会・学術集会 2023年6月 福岡
4. 石黒賢志 リウマチ・膠原病科 ディスカッション：既存治療への加療に一考を要する症例(症例提示) 第1回 SLE オンライン勉強会 FROM SHINJUKU 2023年6月 web
5. 石黒賢志 リウマチ・膠原病科 関節リウマチ性間質性肺障害と診断するも、肺動脈性肺高血圧症・IgG4高値・肺組織への好酸球浸潤から、病態の把握に苦慮～臨床的検討～ 第24回 リウマチ肺研究会 2024年1月 web
6. 金子駿太 リウマチ・膠原病科 御紹介のポイントと当院の現状 リウマチ膠原病の最新動向 第9回 医療連携web講演会 2024年2月 web

#### 〈消化器外科〉

1. 久保田 啓介 外科 伊藤謙太郎、森戸正顕、伊地知正賢、日下浩二、橋本政典、柴崎正幸 病変が頸部に及ぶ食道癌に対する喉頭温存手術の経験 第77回 日本食道学会学術集会 2023年6月 大阪
2. 服部 智哉 外科 森戸正顕、久保田啓介、伊地知正賢、日下浩二、柴崎正幸、伊藤謙太郎 消化管異物(鉄ネジ)に対して緊急手術を行っ

た1例 第868回 外科集談会 2023年6月  
東京

3. 加納 裕也 外科 伊地知正賢、森戸正顕、  
工藤宏樹、久保田啓介、日下浩二、橋本政典、  
児玉真、阿部佳子、柴崎正幸 後腹膜巨大脂肪  
肉腫の1例 第868回 外科集談会 2023年  
6月 東京
4. 佐藤 虎ノ介 外科 森戸正顕、工藤宏樹、  
伊地知正賢、久保田啓介、橋本政典、柴崎正幸、  
児玉真、阿部佳子 特発性小腸穿孔の1例 第  
869回 外科集談会 2023年9月 東京
5. 浅井 美帆 外科 森戸正顕、橋本政典、柴  
崎正幸、久保田啓介、伊地知正賢、工藤宏樹  
巨大肝嚢胞破裂に対して腹腔鏡下手術を施行し  
た1例 第870回 外科集談会 2023年12  
月 東京
6. 高垣 菜々子 外科 森戸正顕、伊地知正  
賢、柴崎正幸、橋本政典、久保田啓介、工藤宏  
樹、阿部佳子、児玉真、竹下浩二 Segmental  
arterial Mediolysis (SAM) による大網出血の  
1例 第870回 外科集談会 2023年12月  
東京
7. 齋藤 丈瑠 外科 伊地知正賢、森戸正顕、  
工藤宏樹、久保田啓介、橋本政典、柴崎正幸  
癒着で形成された閉鎖空間に内ヘルニアを来し  
た1例 第871回 外科集談会 2024年3月  
東京
8. 天野 耕太郎 外科 工藤宏樹、森戸正顕、  
伊地知正賢、久保田啓介、橋本政典、柴崎正幸、  
佐々木巴、竹下浩二、児玉真、阿部佳子 腹腔  
鏡下に摘出した後腹膜パラガングリオーマの1  
例 第871回 外科集談会 2024年3月 東京

#### 〈乳腺外科〉

1. 橋本 政典 外科 橋本政典、伊藤謙太郎、  
森戸正顕、工藤宏樹、伊地知正賢、久保田啓介、  
柴崎正幸 当院における術後再発乳癌に対する  
トラスツズマブデルクステカンの使用経験 第  
19回 日本乳癌学会関東地方会 2023年12  
月 大宮

#### 〈呼吸器外科〉

1. 山本沙希 呼吸器外科 森田理一郎 水谷栄  
基 その他3名 気胸術後検体で偶発的に発見  
された微小浸潤性肺腺癌の1例 第46回 日本  
呼吸器内視鏡学会学術集会 2023年6月 神

奈川

2. 水谷栄基 呼吸器外科 山本沙希 森田理一  
郎 その他2名 肺靱帯の剥離を伴う肺部分切  
除後16日目に右肺下葉切除を施行した1例：胸  
腔内所見と手術手順について 第40回 日本呼  
吸器外科学会学術集会 2023年7月 新潟
3. 山本沙希 呼吸器外科 森田理一郎 水谷栄  
基 竹下浩二 小型肺病変に対する経皮的CT  
ガイド下マーキング法の検討-2剤と3剤の比  
較- 第40回 日本呼吸器外科学会学術集会  
2023年7月 新潟
4. 水谷栄基 呼吸器外科 山本沙希 森田理一  
郎 その他5名 特発性血気胸の2例：セルセー  
バーの有効な活用法について 第27回 日本気  
胸・嚢胞性肺疾患学会 2023年9月 大阪
5. 山本沙希 呼吸器外科 森田理一郎 水谷栄  
基 その他2名 左上葉肺癌術後19年目に発  
見された気管支断端再発の1例 第64回 日  
本肺癌学会学術集会 2023年11月 千葉
6. 山本沙希 呼吸器外科 森田理一郎 水谷栄  
基 その他2名 乳癌肺転移との鑑別が困難で  
あったIgG4関連炎症性偽腫瘍の1例 第85回  
日本臨床外科学会学術集会 2023年11月 岡  
山

#### 〈大腸肛門病センター〉

1. クロウン病に合併した小腸癌・結腸癌の手術  
症例の検討 井上英美, 古川聡美, 工代哲也, 東  
侑生, 藤本崇司, 山口恵実, 大城泰平, 西尾梨沙,  
岡本欣也, 山名哲郎 第78回日本消化器外科学  
会総会 (2023年7月, 函館)
2. 潰瘍性大腸炎関連腫瘍に対する腹腔鏡下大腸  
全摘・回腸嚢肛門吻合術の手技の工夫と短期成  
績 西尾梨沙, 東侑生, 工代哲也, 井上英美, 藤  
本崇司, 山口恵実, 大城泰平, 古川聡美, 岡本欣  
也, 山名哲郎 第78回日本消化器外科学会総会  
(2023年7月, 函館)
3. クロウン病における直腸肛門管癌の臨床病理  
学的特徴 大城泰平, 古川聡美, 東侑生, 井上英  
美, 工代哲也, 藤本崇司, 山口恵実, 西尾梨沙,  
岡本欣也, 山名哲郎 第78回日本消化器外科学  
会総会 (2023年7月, 函館)
4. S状結腸憩室炎に起因した直腸肛門周囲膿瘍  
の1例 工代哲也, 西尾梨沙, 二宮葵, 中林瑠美,  
東侑生, 井上英美, 藤本崇司, 大城泰平, 古川聡  
美, 岡本欣也, 山名哲郎 第78回日本大腸肛門  
病学会総会 (2023年10月, 熊本)

5. 自己免疫性溶血性貧血を合併した悪性腫瘍症例の検討 藤本崇司, 山名哲郎, 岡本欣也, 古川聡美, 西尾梨沙, 大城泰平, 井上英美, 工代哲也, 東侑生, 中林瑠美, 二宮葵, 塩澤俊一 第78回日本大腸肛門病学会総会 (2023年10月, 熊本)
6. 成人期に発見された直腸・肛門重複症の一例 東侑生, 二宮葵, 中林瑠美, 工代哲也, 井上英美, 藤本崇司, 大城泰平, 西尾梨沙, 古川聡美, 岡本欣也, 山名哲郎 第78回日本大腸肛門病学会総会 (2023年10月, 熊本)
7. クロウン病に合併した結腸癌 16例の臨床病理学的検討 井上英美, 古川聡美, 大城泰平, 二宮葵, 中林留美, 工代哲也, 東侑生, 藤本崇司, 西尾梨沙, 岡本欣也, 山名哲郎 第78回日本大腸肛門病学会総会 (2023年10月, 熊本)
8. 女性の痔瘻の特徴の解析 中林瑠美, 古川聡美, 二宮葵, 工代哲也, 東侑生, 井上英美, 藤本崇司, 大城泰平, 西尾梨沙, 岡本欣也, 山名哲郎 第78回日本大腸肛門病学会総会 (2023年10月, 熊本)
9. IILsに対する温存術 vs 開放術 当院における低位筋間痔瘻の術式の現状と変遷 西尾梨沙, 二宮葵, 中林瑠美, 東侑生, 工代哲也, 井上英美, 藤本崇司, 大城泰平, 古川聡美, 岡本欣也, 山名哲郎 第78回日本大腸肛門病学会総会 (2023年10月, 熊本)
10. 深部痔瘻に対する括約筋温存術 岡本欣也, 那須聡果, 中林瑠美, 東郁夫, 井上英美, 工代哲也, 藤本崇司, 大城泰平, 西尾梨沙, 古川聡美, 山名哲郎 第78回日本大腸肛門病学会総会 (2023年10月, 熊本)
11. クロウン病に合併した直腸肛門管悪性腫瘍の診断と治療成績 大城泰平, 古川聡美, 中村瑠美, 東侑生, 井上英美, 工代哲也, 藤本崇司, 西尾梨沙, 岡本欣也, 山名哲郎 第78回日本大腸肛門病学会総会 (2023年10月, 熊本)
12. Japanese Guidelines and Sphincter Preserving Surgery (Japan) Tetsuo Yamana, MD South East Recto Anal Forum 2023, Busan, Korea, May 2023
13. Sphincter Repair (Sphincter Repair/Sphincteroplasty) Tetsuo Yamana, MD South East Recto Anal Forum 2023, Busan, Korea, May 2023
14. Japanese Surgical Treatment Guidelines for Fecal Incontinence Tetsuo Yamana, MD South East Recto Anal

Forum 2023, Busan, Korea, May 2023

15. Surgical Classification of Posterior Deep Complex Fistula Tetsuo Yamana, MD Songdo International Proctology Symposium SIPS 2023, Seoul, Korea, June 2023
16. Sphincter Preserving Procedures of Low Anal Fistula in Japan: Should or Must? Tetsuo Yamana, MD Songdo International Proctology Symposium SIPS 2023, Seoul, Korea, June 2023
17. Anal Fistula Surgery - How I Do It Tetsuo Yamana, MD Asian Pacific Digestive Week 2023, Bangkok, Thailand, December 2023

#### 〈脳神経外科〉

1. 武田泰明 脳神経外科・脳卒中科 大野博康 急性期脳卒中患者統計について 新宿区医師会 脳卒中医療連携の会 2023/8/1 東京
2. 2024/2/27 脳卒中診療 Up to Date 当科の脳卒中患者に対する取り組み～症例を交えて～ Session I 武田泰明
3. 2024/2/29 第19回新宿脳神経疾患研究会 脳卒中の予防 up to date 特別講演 武田泰明

#### 〈整形外科〉

1. 榎田浩太郎 整形外科 田中哲平 内田正樹 田代俊之 無症候性内側滑膜ひだに対するMRIの検討 第1回 日本スポーツ整形外科学会 2023年6月 広島
2. 田中哲平 整形外科 田代俊之 内田正樹 若年者の内側半月逸脱例に対して centralization 法と関節包縫縮術併用の3例 第1回 日本スポーツ整形外科学会 2023年6月 広島
3. 田中哲平 整形外科 内田正樹 田代俊之 レスリング競技大会中における外傷・障害にたいする検討 第34回 日本運動器科学会 2023年7月 東京
4. 増島信也 整形外科 田中哲平 内田正樹 田代俊之 高位脛骨骨切り術矯正角度と患者満足度の改善率の検討 第34回 日本運動器科学会 2023年7月 東京
5. 内田正樹 整形外科 田中哲平 榎田浩太郎 田代俊之 無症候性内側滑膜ひだに対するMRI

の検討 どこまで読影できるか 第34回 日本運動器科学会 2023年7月 東京

6. 田代俊之 整形外科 田中哲平 内田正樹 Subchondral Insufficiency Fractures of the Knee(SIFK)の検討 第1回 日本膝関節学会 2023年12月 横浜
7. 増島信也 整形外科 田中哲平 内田正樹 田代俊之 高位脛骨骨切り術矯正角度と患者満足度の改善率の検討 第1回 日本膝関節学会 2023年12月 横浜
8. 木村健人 整形外科 田中哲平 当院におけるアキレス腱縫合術後の経過とAchilles tendon Total Score (ATRS)の検討 第34回 日本臨床スポーツ医学会 2023年11月 横浜

#### 〈脊椎脊髄外科〉

1. 熊野洋 脊椎脊髄外科 俣田敏且 大橋 暁 胸腰椎固定術後の隣接椎間障害予防の工夫ーCT/有限要素法解析を用いて 第96回 日本整形外科学会 2023年5月 横浜
2. 熊野洋 脊椎脊髄外科 木村健人 俣田敏且 3Dプリンタで作成したMagerl法スクリーガイドの使用経験 第30回 日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 2023年9月 東京
3. 木村健人 脊椎脊髄外科 熊野洋 俣田敏且 Anderson Type2の軸椎歯突起骨折に対しMagerl法による後方スクリーで環軸関節固定、およびテリパラチドを用いて良好な骨癒合を得られた1例 第30回 日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 2023年9月 東京

#### 〈形成外科〉

1. 藤田純美 形成外科 富岡容子 硬性コルセットの装着により背部正中に医療関連機器圧迫創傷をきたした1例 第15回 二本創傷外科学会総会・学術集会 2023年7月 東京
2. 藤田純美 形成外科 富岡容子 下眼瞼脱脂術後にToxic shock syndromeを来した後にSymmetrical peripheral gangreneを生じた1例 第34回 東京大学医学部形成外科学教室同門学術集会 2023年1月 東京

#### 〈産婦人科〉

1. 高梨真琳 産婦人科 入江美穂、嘉和知成美、丸山麻梨恵、中林正雄、橋本耕一、小林浩一 子宮頸管妊娠において子宮内容物排出後の出血に対し卵管疎通検査用カテーテル留置が有効で

あった2例 第406回 東京産科婦人科学会例会 2023年9月 東京

2. 入江美穂 産婦人科 小林浩一、高梨真琳、嘉和知成美、岡村彰子、中林正雄、橋本耕一 当院の超音波外来 胎児スクリーニングに留まらない 第24回 東京大学周産期研究会 2024年2月 東京

#### 〈泌尿器科〉

1. 佐藤千紗 泌尿器科 加藤司顯、北村盾二、舛田一樹、宮川仁平、中村雄、金城真実、多武保光宏、福原浩 進行性膀胱癌に対してエンホルツマブペドチンを投与し、Grade4の高血糖をきたした1例 第643回 日本日泌尿器科学会東京地方会 2024年2月 東京

#### 〈皮膚科〉

1. 鳥居秀嗣 皮膚科 岸本暢将, 工藤孝英, Chaudhari Siddharth 日本人乾癬患者における関節症状と特定部位病変の疾患負担への影響 UPLIFT 調査サブグループ解析 第38回 日本乾癬学会学術大会 2023年8月 東京
2. 鳥居秀嗣 皮膚科 Lebwohl M, Armstrong, Merola JF, Gottlieb AB, Davis L, Gomez B, Wiegratz S, Cross N, Strober B 尋常性乾癬患者に対するビメキズマブの1年間の有効性の生物学的製剤の使用歴の有無によるサブグループ解析 第38回 日本乾癬学会学術大会 2023年8月 東京
3. 鳥居秀嗣 皮膚科 乾癬全身療法の入り口としてのアプレミラスト 第87回 日本皮膚科学会東京支部学術大会 2023年11月 東京

#### 〈小児科〉

1. 高松朋子 小児科 中澤はる香、林佳奈子、渡邊由祐、春日晃子、鈴木慎二、森那月美、竹下美佳、森地振一郎、石田悠、呉宗憲、小穴信吾、柏木保代、山中岳 小児薬剤抵抗性てんかん患者における末梢単球の免疫学的検討について 第65回 日本小児神経学会 2023年5月 岡山
2. 沼部博直 小児科 高松朋子、三宅紀子 A female patient of Weiss-Kruszka Syndrome with 6 MB interstitial deletions of 9p31.1q32 including a whole ZNF462 gene. 第68回 日本人類遺伝学会 2023年10月 東京

### 〈緩和ケア科〉

1. 高橋愛子 緩和ケア科 森田理一郎 橋本政典 野本宏 鈴木淳司 山本沙希 土橋花恵 森本寛子 猿田淑美 園田恭子 中村矩子 急性期病院における緩和ケアチームの活動評価 第28回 日本緩和医療学会学術大会 2023年6月 神戸

### 〈病理診断科〉

1. 児玉真 病理診断科 長瀬佳弘 山名哲郎 阿部佳子 Infliximabによる3次リンパ組織の変化 第112回 日本病理学会総会 2023年5月 山口
2. 長瀬佳弘 病理診断科 児玉真 阿部佳子 四十物絵里子 中村康平 高松玲佳 西原広史 CXCL9, CXCL13が癌活性化免疫微小環境の形成において中心的役割を果たす 第112回 日本病理学会総会 2023年5月 山口
3. 児玉真 病理診断科 Crohn病特異的リンパ管内類上皮細胞の解析 第113回 日本病理学会総会 2024年3月 名古屋
4. 長瀬佳弘 病理診断科 児玉真 阿部佳子 栗田千恵美 山名哲郎 Crohn病に対するTNF $\alpha$ 阻害薬は3次リンパ組織を減少させる 第113回 日本病理学会総会 2024年3月 名古屋
5. 児玉真 病理診断科 長瀬佳弘 山名哲郎 阿部佳子 Crohn's disease-specific intra-lymphatic epithelioid histiocytes: Their immunological characteristics and the association with clinicopathological findings 第51回 Annual scientific meeting of the Australian and New Zealand society for immunology 2023年12月 Auckland

### 〈リハビリテーション部門〉

1. 田邊 満里 リハビリテーション科 田邊満里 摂食嚥下障害に対する摂食嚥下支援チームの活動 第8回 JCHO 地域医療総合医学会 2023年12月 三重

### 〈放射線部門〉

1. 多々良直矢 放射線 澁谷洋樹 赤堀颯太 ~ how to MRE ~ 【Enterography】 第24回 東京 MAGNETOM 研究会 2023年6月 東京

2. 山本進治 放射線 福島正訓 RISシステムを利用した患者認証の取り組み 2023年度関東甲信越放射線技師学術大会 2023年6月 山梨
3. 山本進治 放射線 医療被ばく低減施設認定におけるオンライン審査の状況 第37回 日本放射線公衆安全学会 講習会 2023年7月 東京
4. 山本進治 放射線 竹下浩二 瀧本学 神部拓人 横手修平 CD患者の認知症予防に向けた腸腰筋の検討 第12回 日本認知症予防学会学術集会 2023年9月 新潟
5. 山本進治 放射線 神山和明 神部拓人 深田直樹 小腸バリウム検査における抽出能の検討 第39回 日本診療放射線技師学術大会 2023年9月 熊本
6. 山本進治 放射線 神山和明 神部拓人 深田直樹 瀧本学 乳腺MRIにおける1.5Tおよび3.0T装置の診断能の検討 第39回 日本診療放射線技師学術大会 2023年9月 熊本
7. 神山和明 放射線 高倉徹也 山本進治 深田直樹 多々良直矢 局所筋起撮像における基礎的検討 第40回 日本診療放射線技師学術大会 2023年9月 熊本
8. 藤田佑香 放射線 瀧本学 妊産婦・胎児MRI~臍帯付着異常に適した撮像~ 第92回 MAGNETOM 分科会 2023年10月 東京
9. 森田希生 放射線 藤田佑香 MRCP~患者に依らない検査を目指して~ 第8回 JCHO 地域医療総合医学会 2023年12月 三重
10. 山本進治 放射線 岡田幸法 竹下浩二 市川篤志 櫻井典子 吉田宜清 瀧本学 Differentiation between ulcerative colitis and Crohn's disease using abdominal computed tomography in patients with first-time inflammatory bowel disease ECR2024 (European Congress of Radiology) 2024年2月 Austria

### 〈臨床工学部門〉

1. 中井 歩 臨床工学部 中井 歩 柴田大輝 佐藤 諒 丸山航平 加藤彩夏 石丸裕美 富樫紀季 御厨翔太 大塚隆浩 阿部祥子 渡邊研人 田邊智春 塩入瑛梨子 水野智仁 鈴木淳司 鈴木正志 高澤賢次 日機装社製透析量モニタDDMにおける吸光度の新たな活用方法の可能性について 第49回 日本血液浄化技術学会学術集会 2023年4

月 沖繩

2. 中井 歩 臨床工学部 中井 歩 柴田大輝 佐藤 諒 丸山航平 加藤彩夏 石丸裕美 富樫紀季 御厨翔太 大塚隆浩 阿部祥子 渡邊研人 杉山めぐみ 塩入瑛梨子 水野智仁 鈴木淳司 高澤賢次 日機装社製透析量モニタ DDM における吸光度の解析 第 17 回 日本透析クリアランスギャップ研究会 学術集会 2023 年 8 月 愛知
3. 中井 歩 臨床工学部 Kt/V だけじゃもったいない! DDM の有効活用と FNW による業務改善 第 17 回 日本透析クリアランスギャップ研究会学術集会 2023 年 8 月 愛知
4. 中井 歩 臨床工学部 透析量モニタ DDM の有効性と課題 第 17 回 日本透析クリアランスギャップ研究会学術集会 2023 年 8 月 愛知
5. 渡邊研人 臨床工学部 抄録・論文の書き方 第 30 回 東京都臨床工学会 2023 年 6 月 東京
6. 渡邊研人 臨床工学部 機械学習による医療機器保有台数予測モデルの検討 第 98 回 日本医療機器学会 2023 年 6 月 神奈川
7. 渡邊研人 臨床工学部 中井 歩 柴田大輝 佐藤 諒 丸山航平 加藤彩夏 石丸裕美 富樫紀季 御厨翔太 大塚隆浩 阿部祥子 高澤賢次 太陽光発電 Bluetooth ビーコンを用いた医療機器所在管理システムの試作 第 98 回 日本医療機器学会 2023 年 6 月 神奈川
8. 渡邊研人 臨床工学部 中井 歩 柴田大輝 佐藤 諒 丸山航平 加藤彩夏 石丸裕美 富樫紀季 御厨翔太 大塚隆浩 阿部祥子 杉山めぐみ 塩入瑛梨子 水野智仁 鈴木淳司 高澤賢次 透析室マネジメントへの活用を目的とした Business Intelligence ツールの開発 第 25 回 日本医療マネジメント学会 2023 年 6 月 神奈川
9. 渡邊研人 臨床工学部 中井 歩 柴田大輝 佐藤 諒 丸山航平 加藤彩夏 石丸裕美 富樫紀季 御厨翔太 大塚隆浩 阿部祥子 高澤賢次 臨産連携による医療機器管理 DX への挑戦 第 33 回 日本臨床工学会 2023 年 7 月 広島
10. 渡邊研人 臨床工学部 中井 歩 柴田大輝 佐藤 諒 丸山航平 加藤彩夏 石丸裕美 富樫紀季 御厨翔太 大塚隆浩 阿部祥子 高澤賢次 臨床・経営支援を目的とした透析マネジメントシステムの開発 第 33 回 日本臨床工学会 2023 年 7 月 広島
11. 渡邊研人 臨床工学部 在宅医療とペースメーカー 第 33 回 日本臨床工学会 2023 年 7

月 広島

12. 渡邊研人 臨床工学部 中井 歩 柴田大輝 佐藤 諒 丸山航平 加藤彩夏 石丸裕美 富樫紀季 御厨翔太 大塚隆浩 阿部祥子 高澤賢次 機械学習による輸液ポンプ至適保有台数予測モデルの検討 第 3 回 関東甲信越臨床工学会 2023 年 10 月 新潟
13. 佐藤 諒 臨床工学部 先行研究の探し方～臨床研究の進め方～ 第 30 回 東京都臨床工学会 2023 年 6 月 東京
14. 佐藤 諒 臨床工学部 柴田大輝 丸山航平 加藤彩夏 石丸裕美 富樫紀季 御厨翔太 大塚隆浩 板谷祥子 渡邊研人 中井 歩 鈴木正志 高澤賢次 パノラマ撮影と HSV 色空間を用いた血液浄化膜の残血定量化の試み 第 33 回 日本臨床工学会 2023 年 7 月 広島
15. 柴田大輝 臨床工学部 中井 歩 大塚隆浩 佐藤 諒 丸山航平 加藤彩夏 石丸裕美 富樫紀季 御厨翔太 阿部祥子 渡邊研人 塩入瑛梨子 水野智仁 鈴木淳司 鈴木正志 高澤賢次 日機装社製推定血流モニタの測定精度 ～ポンプセグメント部内径の異なる血液回路における in vitro 評価～ 第 49 回 日本血液浄化技術学会学術集会 2023 年 4 月 沖繩
16. 富樫紀季 臨床工学部 中井 歩 渡邊研人 板谷祥子 大塚隆浩 御厨翔太 石丸裕美 丸山航平 加藤彩夏 佐藤 諒 柴田大輝 高澤賢次 当院における業務ローテーションの導入による勤務実態の検証 第 8 回 JCHO 地域医療総合医学会 2023 年 11 月 三重

#### 〈栄養管理室〉

1. 小野幸恵 栄養管理室 石倉友夢 猿田淑美 奥村真美子 市川奈津子 遠藤さゆり 久保田啓介 当院の特定集中治療室 (ICU) における早期栄養介入管理加算算定の現状 第 8 回 一般社団法人 地域医療機能推進学会 2023 年 12 月 三重

#### 〈看護部〉

1. 相田真希 看護部 透析センター 早瀬サチ 工 嶋田文子 田村さちえ 川邊和佳子 田邊智春 透析中の運動療法導入を試みて 第 8 回 JCHO 学会 2023 年 12 月 三重

#### 〈経理課〉

1. 橋本拓也 経理課 橋本拓也 佐藤弘明 池

田大士 業務委託費用の削減に向けた取り組み  
第8回 JCHO 地域医療総合医学会 2023年  
12月 三重県

#### 〈ソーシャルワーク室〉

1. 柳田千尋 ソーシャルワーク室 柳田千尋  
「身寄りのない人」の療養上の問題とソーシャル  
ワーク支援 ―生命的危機にある高齢者の  
事例― 第8回 JCHO 地域医療総合医学会  
2023年12月 三重
2. 柳田千尋 ソーシャルワーク室 柳田千尋  
在宅復帰を拒否された患者への退院支援 ―地  
域包括ケアシステムにおける急性期病院 MSW  
の機能に関する一考察― 第73回 日本病院学  
会 2023年9月 宮城

#### 〈栄養・NST 委員会〉

1. 久保田啓介 NST 日下浩二、遠藤さゆり、  
稲垣綾子、磯田一博 上部消化管手術により口  
腔内衛生環境は悪化する これに寄与する因子  
についての検討 第38回 日本臨床栄養代謝学  
会 2023年5月 神戸
2. 久保田啓介 NST 遠藤さゆり、稲垣綾子、  
奥村真美子、猿田淑美、市川奈津子、梅澤未佳  
子、石倉友夢、伊藤華名子、山口良子、川村亜  
紀、小杉美代子、渡辺麻衣、磯田一博、田邊萬  
里、桜庭尚哉、鈴木淳司、酒匂美奈子、日下浩二、  
橋本政典 脂肪乳剤使用方法のレビュー より  
使いやすくすることは可能か？ 第60回 日本  
外科代謝栄養学会 2023年7月 東京

「年報 2023（令和5年）年度  
独立行政法人 地域医療機能推進機構 東京山手メディカルセンター」

第15号2024年7月

〒169-0073 東京都新宿区百人町3-22-1  
TEL:03(3364)0251 FAX:03(3364)5663  
ホームページアドレス <https://yamate.jcho.go.jp/>

●発行者 独立行政法人 地域医療機能推進機構 東京山手メディカルセンター  
院長 矢野 哲



#### 交通機関

- JR総武線(各駅停車)「大久保駅」より徒歩7分
- JR山手線「新大久保駅」より徒歩5分
- 都バス「大久保駅」「新大久保駅」より徒歩7分
- 関東バス「東京山手メディカルセンター前」より徒歩1分

### 独立行政法人 地域医療機能推進機構 東京山手メディカルセンター

(平成26年4月に社会保険中央総合病院より改称)

〒169-0073 東京都新宿区百人町3-22-1

TEL. 03-3364-0251(代表) FAX. 03-3364-5663

<https://yamate.jcho.go.jp/>